DENON

AV サラウンドアンプ

AVC-A11XV

取扱説明書

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△ 記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

電源プラグをコンセントから抜け

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

安全上のご注意（つづき）

警 告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

水場での使用禁止

火災・感電の原因となります。

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のケーブルを使用してください。指定以外のケーブルを使用したり、ケーブルを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■置き場所について

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠注意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

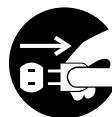
重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長期間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

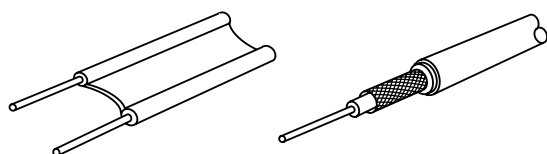
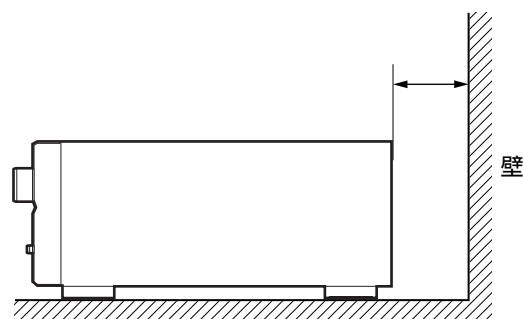
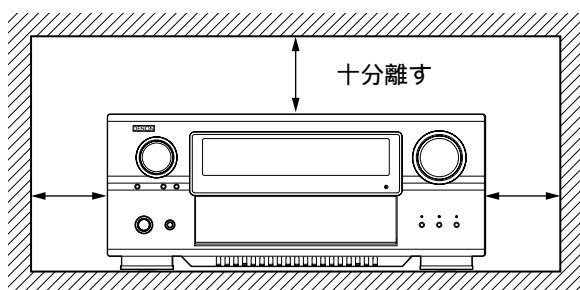
2 取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

■本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続ケーブルから離して設置してください。

◎特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

■放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは十分離して設置してください。(下図参照)

その他のご注意

■入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■電源ボタンをスタンバイにしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

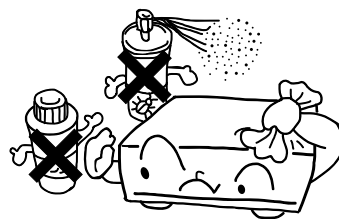
■説明のためのイラストは、原型と異なる場合があります。

■取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

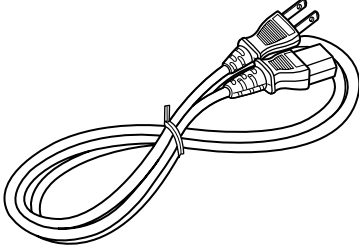
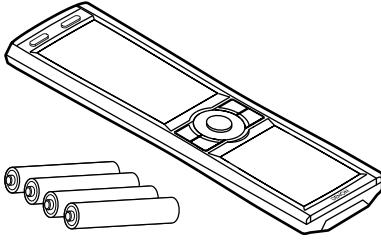
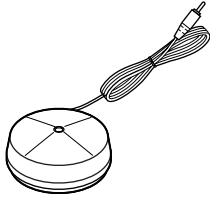
■キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

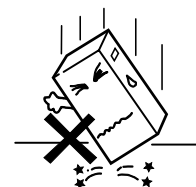
■ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

■ふだん使わないとき

◎電源ボタンを押して、スタンバイ状態にしてください。

◎外出やご旅行の場合には、必ず電源スイッチをOFFにするか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■移動させるとき

◎衝撃を与えないでください。

◎必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続ケーブルを外したことを確認してからおこなってください。

3 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

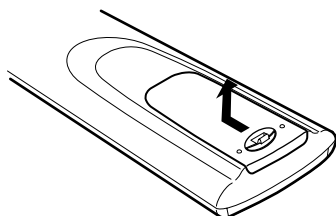
電源コード　1本	リモコン（RC-995）　1個 単4形アルカリ乾電池　4本	セットアップマイク　1本
取扱説明書（本書）　1冊 リモコンコード表　1枚	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表　1枚	保証書 （梱包箱に添付されています。）

付属品について（つづき）

■ リモコンのご使用について

★ 付属のリモコン（RC-995）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のコンポーネント製品を操作することができます。また、他メーカーのリモコンのコントロール信号を学習・記憶する機能を備えていますので、DENON製品以外のリモコン対応ビデオ機器を操作することができます。（☞ P. 146、147）

(1) 乾電池の入れかた

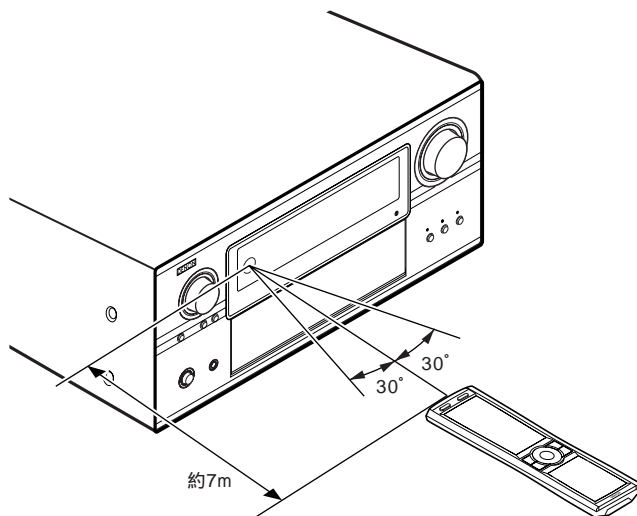
① リモコンの裏ぶたを外す。

② 単4形アルカリ乾電池（4本）を図のように入れる。

③ 裏ぶたを元通りに戻す。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単4形アルカリ乾電池をご使用ください。
- リモコンの表示が暗いと感じたときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は、動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。
- 乾電池を約30秒以上外したままにすると、学習されているリモコン信号が消去されることがあります。

★ **振動センサー**
付属のリモコン（RC-955）には振動センサーが内蔵されています。このためリモコンをご使用になるときに、カラカラ音がすることがあります。

(2) リモコンの使いかた

- リモコンは図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

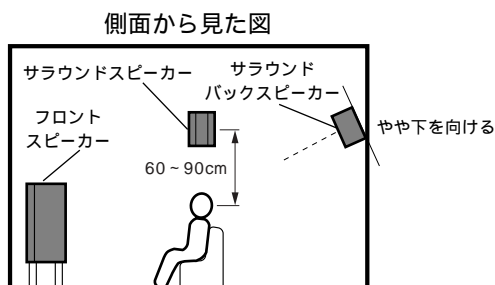
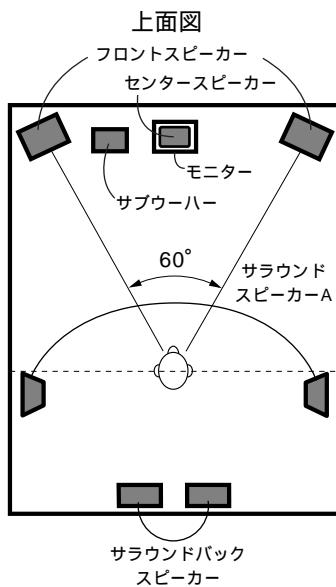
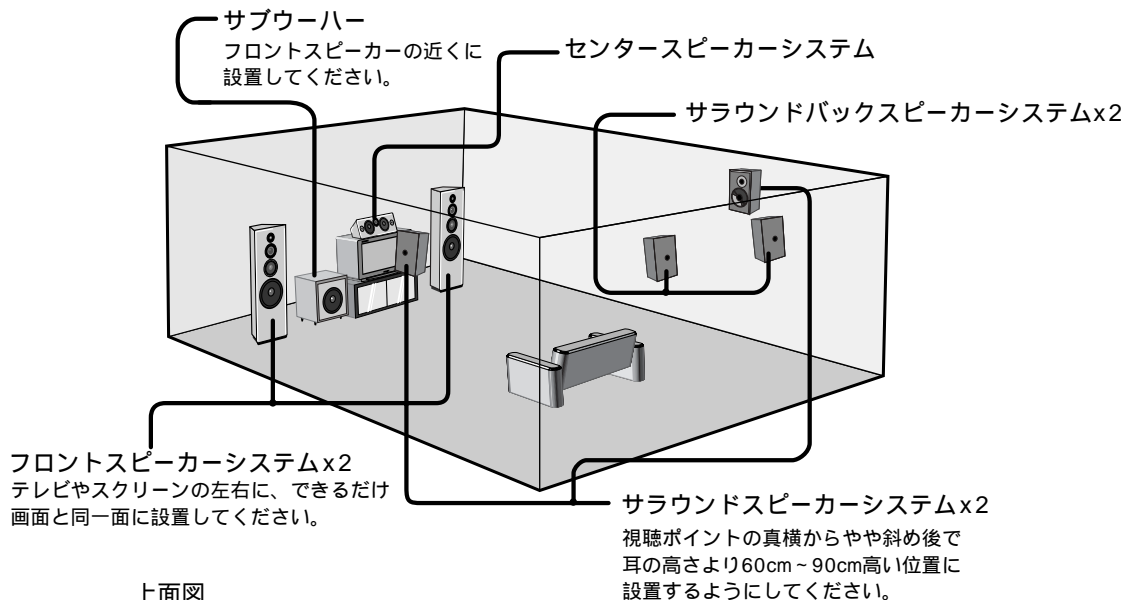
- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

4 簡単にホームシアターを楽しむ

本ページから14ページまでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための簡易ガイドです。

すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
なお、接続の際は各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

(1) 基本的なシステムレイアウト

● スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた、基本的なシステムレイアウトの例です。

● フロントおよびセンタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離より遠くならない所に置いてください。
● サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあったほうが理想的です。
● センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁に吊るす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。
● THXウルトラ2シネマモード、THXミュージックモードおよびTHXゲームズモードをお楽しみいただく場合には、サラウンドバックスピーカーは2台必要です。
リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離がL、R等距離になるように置いてください。

※詳しくは、「システムセットアップのしかた」をご覧ください。（☞ P. 36〜103）

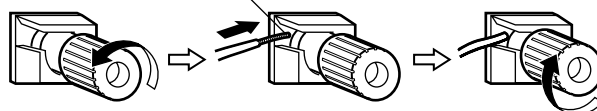
(2)スピーカーシステムの接続

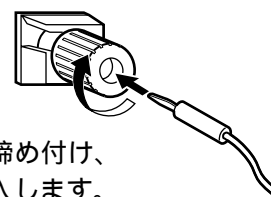
- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。
- 接続の際、スピーカーケーブルの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーケーブルの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

■スピーカーのインピーダンスについて

- フロント、センターおよびサラウンドバック用スピーカーは、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- サラウンド用スピーカーシステムAまたはBのどちらか一方を使用する場合は、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- サラウンド用スピーカー2組（A＋B）を同時に使用する場合は、インピーダンスが8〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- 指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用して、長時間にわたって再生したり、大出力で楽しんだりすると、保護回路が動作することがあります。

■スピーカーケーブルの接続

芯線をよくねじるか端末処理をしてください。

①スピーカー端子を左に回して、ゆるめます。 ②ケーブルの芯線を差し込みます。 ③右に回して端子を締めます。

■バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入します。

ご注意

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

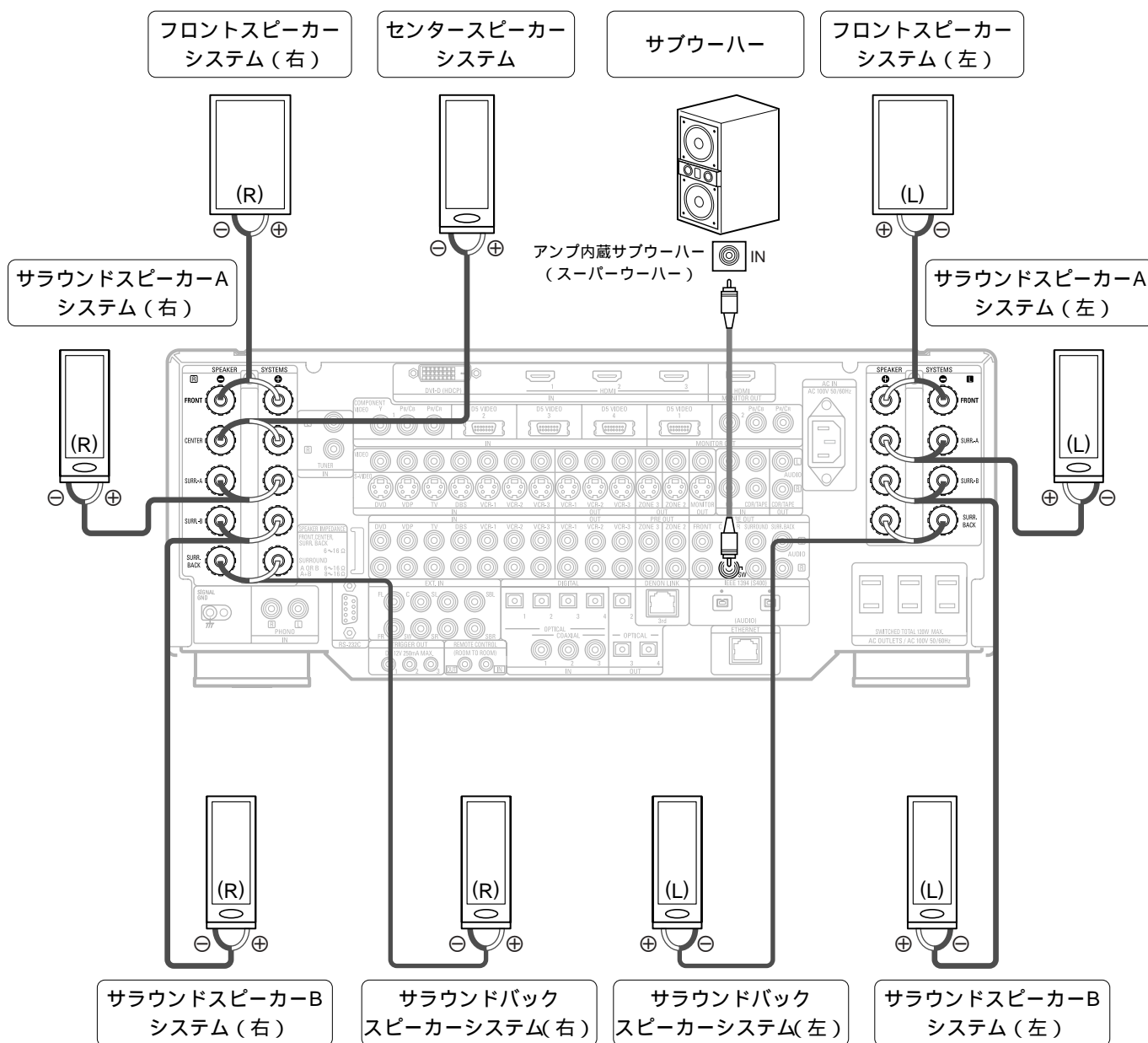
保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、電源表示が点滅します。このような場合は、必ず本機の電源を一度切り、電源コードを抜いてからスピーカーケーブルや入力ケーブルの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーインピーダンスにおけるご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えばスピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大出力で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断されますので、本機の電源を一度切り、電源コードを抜いてください。本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して電源を入れ直してください。

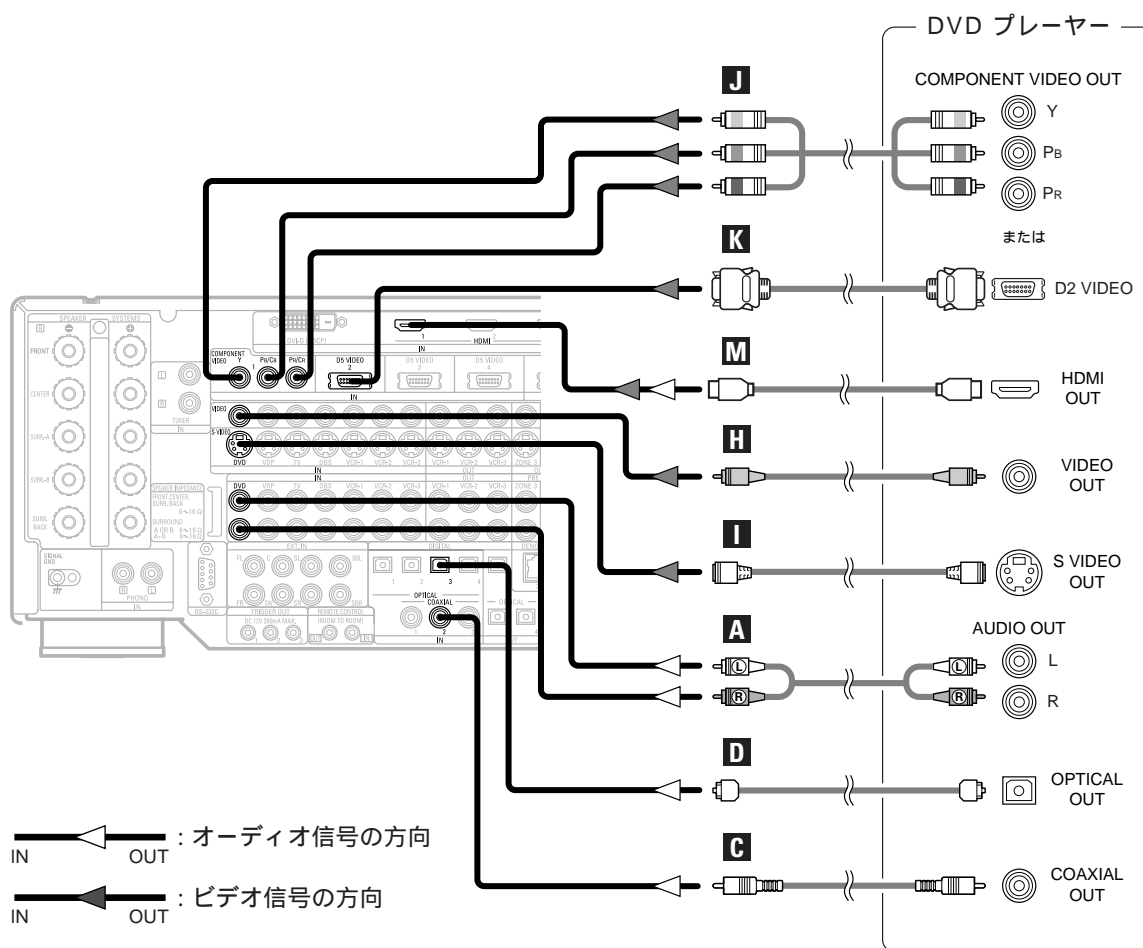
■接続のしかた

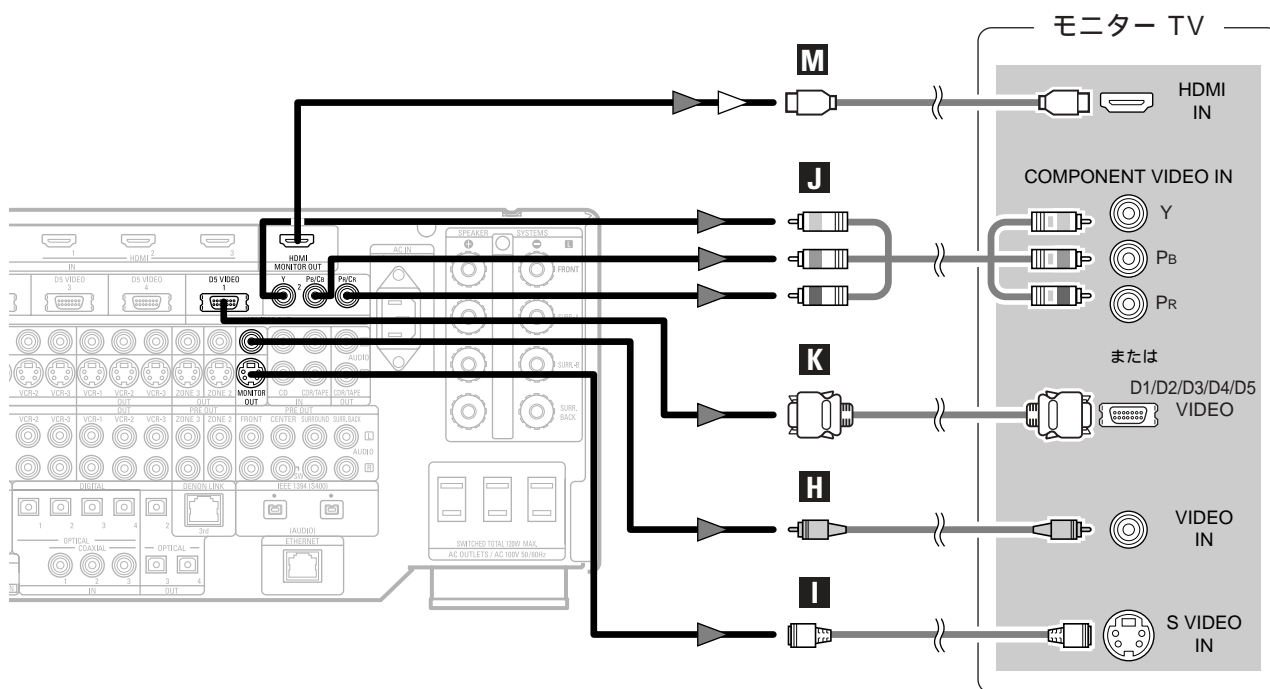
★ 本機は下図のように2組のサラウンドスピーカー（A＋B）とサラウンドバックスピーカーを接続して10台のスピーカーを使用したサラウンド再生をお楽しみいただけます。
★ 本機のパワーアンプは任意の再生チャンネルを選択してスピーカーに出力することができます。詳しくは「再生チャンネルの設定」および「パワーアンプの割り当ての変更」をご覧ください。
（☞ P. 92〜95）
★ 接続の際は、スピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

ご注意
- サラウンドバックスピーカーを1台で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

スピーカー設置時のご注意
テレビまたはモニター受像機に近づけると、スピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は、影響のない位置に離してください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

(3）DVDプレーヤーとモニター（テレビ）のつなぎかた

★ DVDプレーヤーの映像信号は、HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで本機と接続します。
(全てのケーブルを接続する必要はありません。）詳しくは、ビデオコンバージョン機能をご覧ください。
（☞ P. 16）
DVI-Dケーブルを使用して接続する場合は（☞ P. 26）をご覧ください。
★ デジタル音声を再生する場合は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。
光伝送ケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります。（☞ P. 68）
★ ビデオディスクプレーヤーは、同じ方法でVDP端子に接続することができます。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

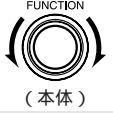
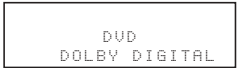
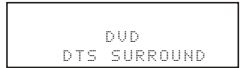
★ 本機の映像出力は、HDMI、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかでモニター（TV）と接続します。
(全てのケーブルを接続する必要はありません。)

ご注意

- HDMI入力端子から音声信号が入力された場合だけ、HDMIモニターアウト端子から音声が出力されます。
- 本機とDVDプレーヤーをHDMIケーブルを使用して接続する場合は、モニターとの接続もHDMIケーブルを使用してください。
- 本機を通してコンポーネントまたはHDMI映像信号をご覧の場合、システムセットアップおよびリモコンのオンスクリーンボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイ表示されます。
- テレビやモニターによってコンポーネントビデオ入力端子の表示が異なります。（PR、PB、Y / CR、CB、Y / R-Y、B-Y、Yなど）詳しくはテレビなどに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- 本機のD端子は、D1～D5（480i、480p、1080i、720p、1080p）の映像端子に対応しています。
- 本機のモニターアウトのコンポーネントビデオ端子とD5ビデオ端子は両方同時に接続することができます。
- 本機のコンポーネントビデオモニターアウト端子とモニター（TV）を75Ωピンプラグケーブルで接続した場合は、D端子から入力された解像度などの識別信号は出力されません。

ご注意

ドルビーデジタルRF出力端子付きLDプレーヤーの接続について

デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力端子を接続する場合は、市販のアダプターを使用してください。
接続の際には、アダプターの取扱説明書も合わせてご覧ください。

最適なサラウンド再生を楽しむために

最適なサラウンド再生をおこなうためには、各種パラメーターを設定することが必要です。
本機のオートセットアップにより、付属のセットアップマイクで接続したスピーカーシステムを測定し、リスニングルームに応じた最適なセッティングを自動でおこなうことができます。詳しくは「オートセットアップについて」（ ☞ P. 42～51）をご覧ください。さらに本機を快適にお使いいただくために、必要に応じて「システムセットアップのしかた（1）～（6）」（ ☞ P. 36～103）を参照して設定をおこなってください。

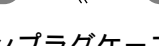
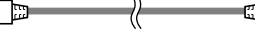
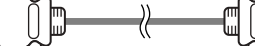
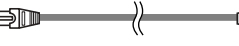
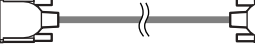
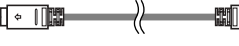
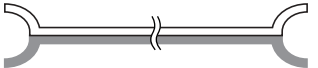
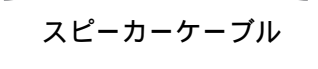
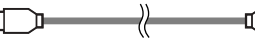
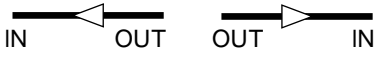
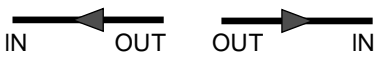
(4) DVDソフトをサラウンド再生しましょう

● 詳しくは（☞ P. 104～138）をご覧ください。

(5) 音、映像は出力されましたか？

● 音、映像が出力されない場合は次の項目を確認してください。

現　象	原　因	処　置
ディスプレイが " DTS SURROUND " の表示にならない。	● DVDプレーヤーがDTS対応のプレーヤーではない。 ● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。 ● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
ディスプレイが " DOLBY DIGITAL " の表示にならない。	● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
映像が出ない。	● プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニター（TV）との接続がビデオ端子（黄）またはS端子になっている。	● プログレッシブ映像信号はダウンコンバートされません。プレーヤーをインターレースの設定にしてください。

ステレオ音のエチケット

◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

5 接続のしかた

■接続ケーブル表示

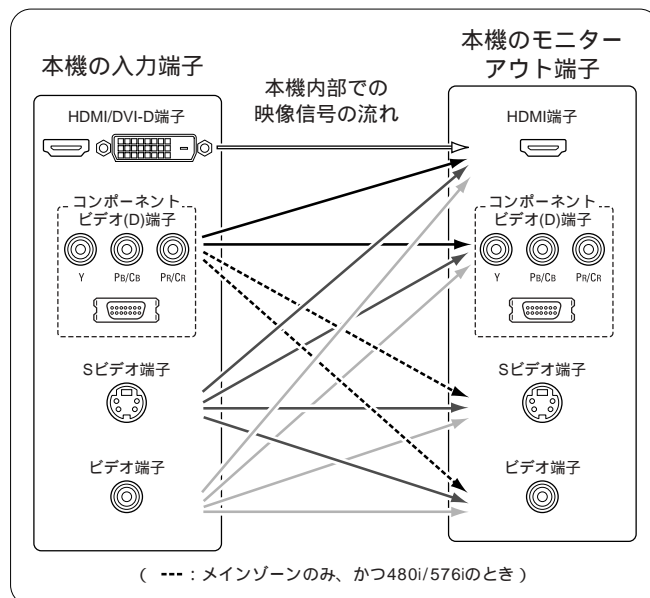
● 下図に示す接続ケーブル（別売り）を使用して、他の機器を接続してください。

ご注意

● すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
● 接続の際は、各機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。
● 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
● 接続ケーブルと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続ケーブルを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。

接続のしかた（つづき）

■ビデオコンバージョン機能について

★本機のモニター出力には映像信号のコンバージョン機能を装備しています。
このため、再生機器と本機の映像入力端子との接続方法に関わらず、本機のモニター出力端子とモニター（テレビ）間の接続方法については、より高品位な接続方法のケーブルを1本接続するだけで視聴できます。
★アナログ映像信号の接続方法については、一般的に
①コンポーネントビデオ（D）端子、
②Sビデオ端子、
③ビデオ端子（黄）
の順で高品位な再生をおこなうことができます。

■アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能について

★本機のアップコンバージョン機能は入力されたアナログビデオ信号
（コンポーネント-480i/576i、480p/576p、1080i、720p；Sビデオおよびビデオ-480i/576i）をそのままの解像度でHDMIモニターアウト端子に出力することができます。
★オンスクリーンディスプレイ信号は、480i/576iの解像度でHDMIモニターアウト端子に出力されます。このため、本機と接続するHDMI端子付きモニターが480i/576iの解像度に対応している場合は、本機で対応するすべての信号をHDMIケーブル1本でモニターに出力することができます。モニターが対応している解像度は本機のステータスボタンやリモコンのオンスクリーンボタンによって確認することができます。

ご注意

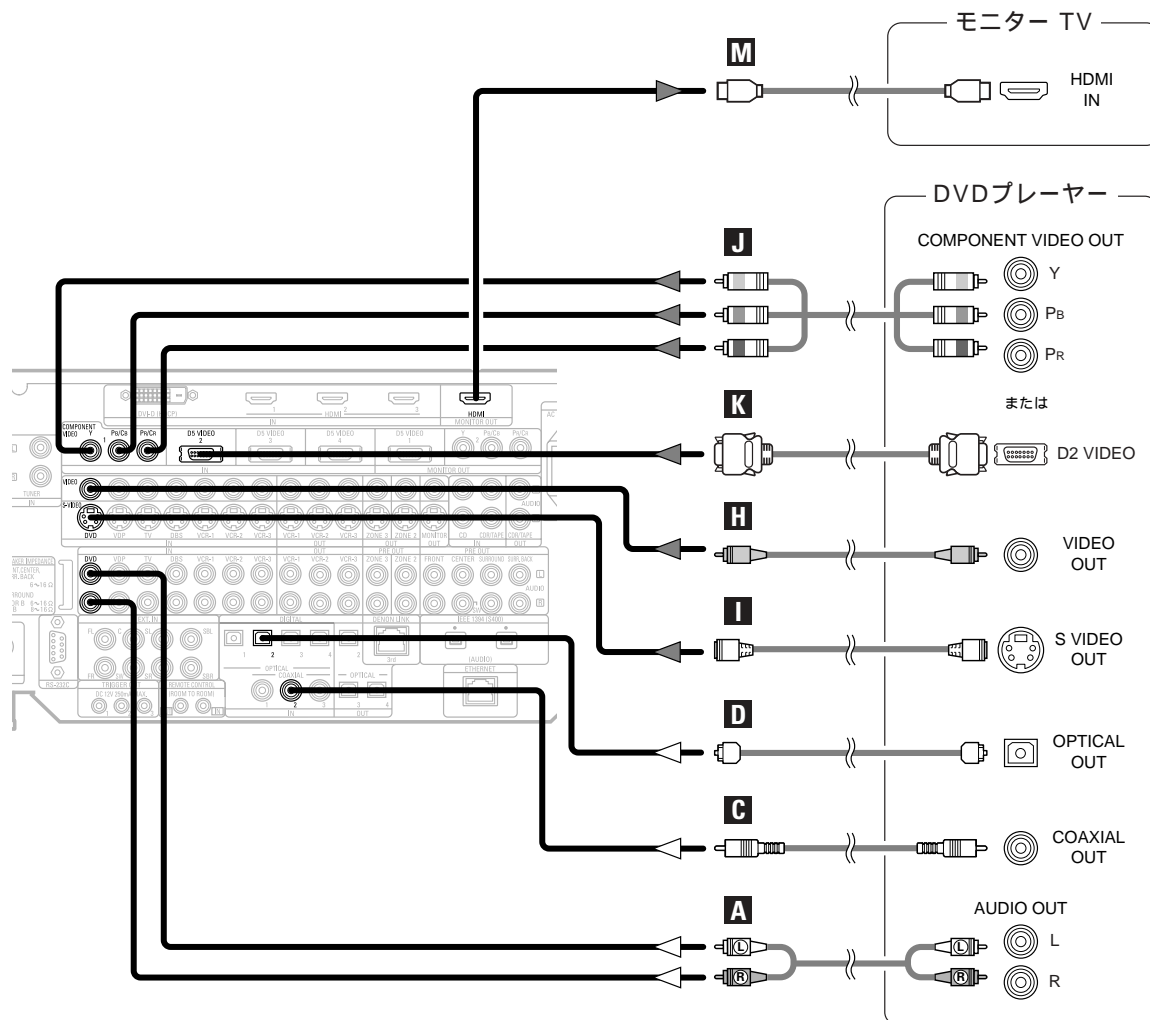
- コンポーネントビデオ端子に入力された信号の解像度が480i/576iのときのみ、メインゾーンのモニターアウト端子にダウンコンバートされます。
- HDMIおよびDVI-D信号からコンポーネントビデオ信号、Sビデオ信号、ビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、HDMIモニターアウト端子を使用しない場合は、コンポーネントビデオ、Sビデオ、ビデオ入力端子で再生機器と接続してください。
- ビデオコンバートモードの設定を変更するには（☞ P. 79）をご覧ください。
- アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用しない場合には、「HDMIコンバート出力の設定」（☞ P. 80）で『OFF』を選択してください。
この場合はコンポーネントビデオ端子までのアップコンバージョン機能が動作します。
- ご使用になるHDMI端子付きモニターが480i/576iの解像度に対応していない場合は、プレーヤーと本機とをコンポーネント（D）ケーブルを使用して接続し、プレーヤーの解像度の設定をモニターが対応している解像度に合わせてください。

HDMIまたはコンポーネントビデオ出力のオンスクリーンディスプレイ表示について

- 本機を通してHDMIまたはコンポーネントビデオ信号をご覧の場合、システムセットアップおよびリモコンのオンスクリーンボタンの操作時にオンスクリーンディスプレイ表示が表示されます。
- 本機にコンポーネントビデオ信号のみ入力されている場合、または「ビデオコンバートモードの設定」（☞ P. 79）で『Component』を選択している場合は、オンスクリーンディスプレイの文字は映像信号に重ねて表示されません。

接続のしかた（つづき）

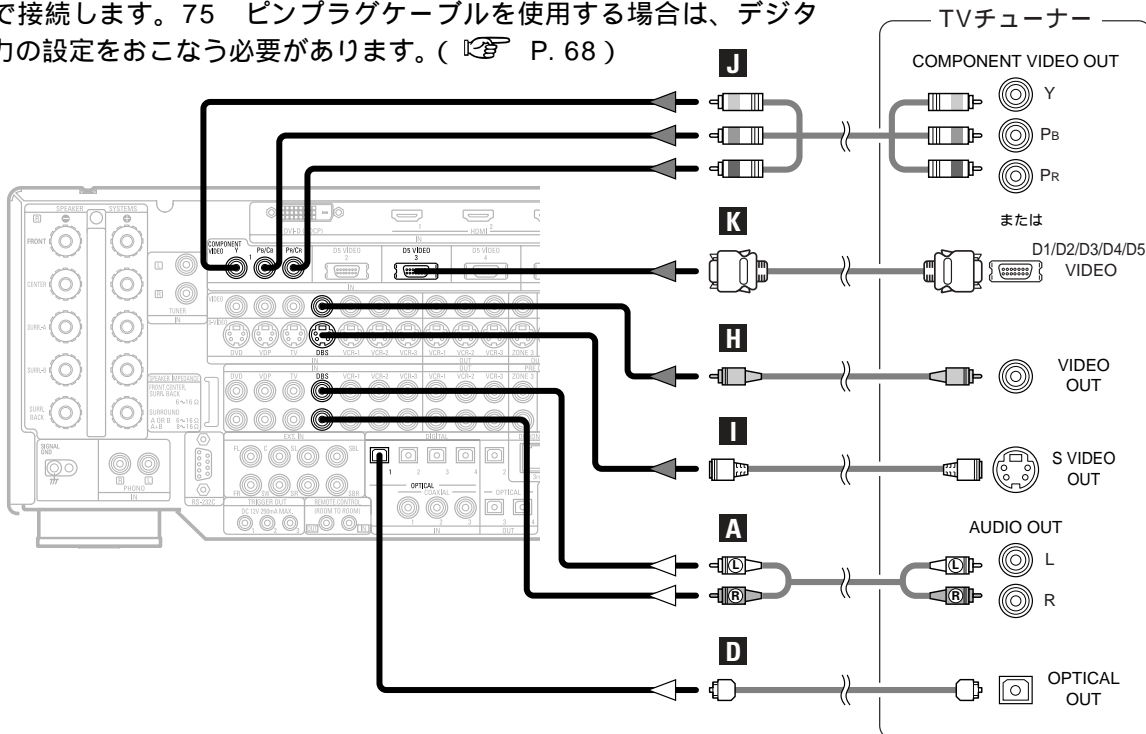
(1) アナログビデオ信号をHDMIに変換する場合のビデオ機器の接続

★本機はアナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を搭載しています。
プレーヤーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
★音声信号はHDMIモニターアウト端子からは出力されませんので、アナログまたはデジタル音声接続もおこなってください。デジタル音声を再生する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります。
（☞ P. 68）

ご注意

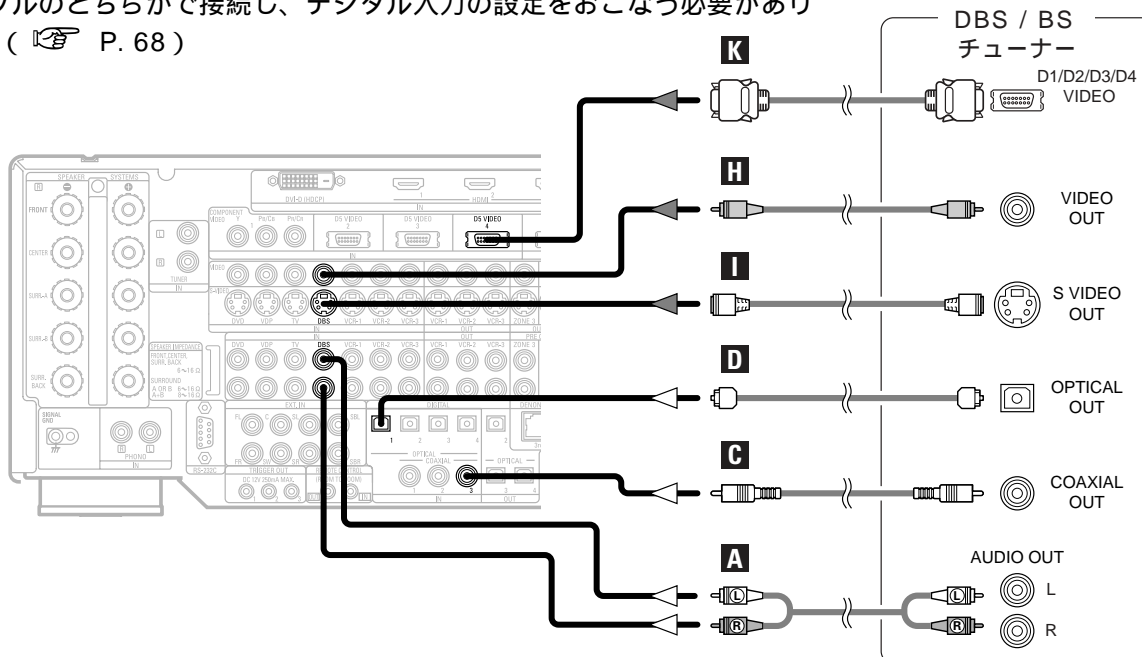
- HDMI入力の解像度が480iまたは576iに対応したHDMI端子付きモニターをご使用ください。
- ご使用になるモニターにHDMI端子が備わっていない場合は、ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ（D）端子のいずれかを使用して接続してください。

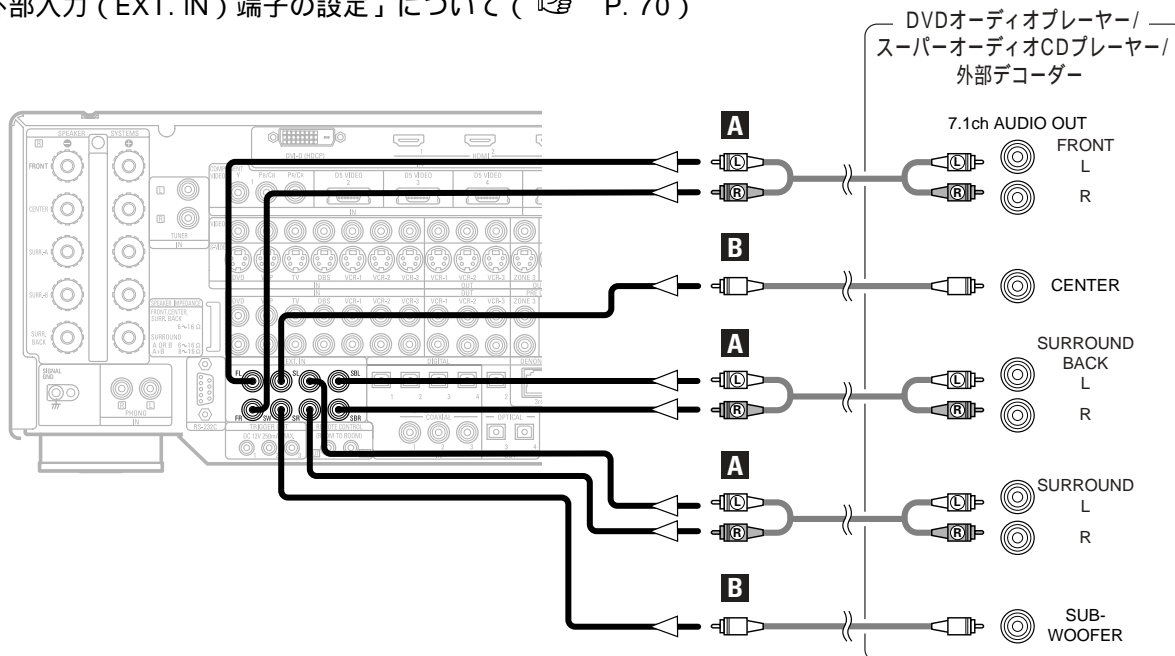
（2）TVチューナー接続

★ TVチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
コンポーネントケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります。
（☞ P. 78）

★ デジタル音声は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。75Ωピンプラグケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります。（☞ P. 68）

（3）DBSチューナー接続

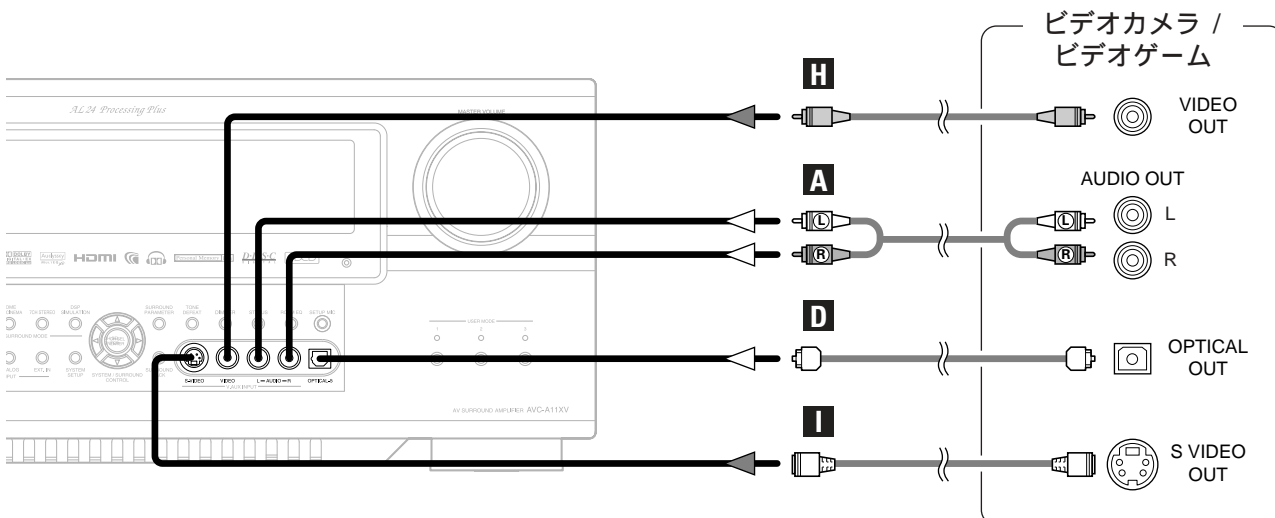
★ DBSチューナーの映像信号は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
コンポーネントケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります。
（☞ P. 78）

★ デジタル音声を再生する場合は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続し、デジタル入力の設定をおこなう必要があります。（☞ P. 68）

(4) 外部入力（EXT. IN）端子の接続（DVDオーディオ、SACDプレーヤー）

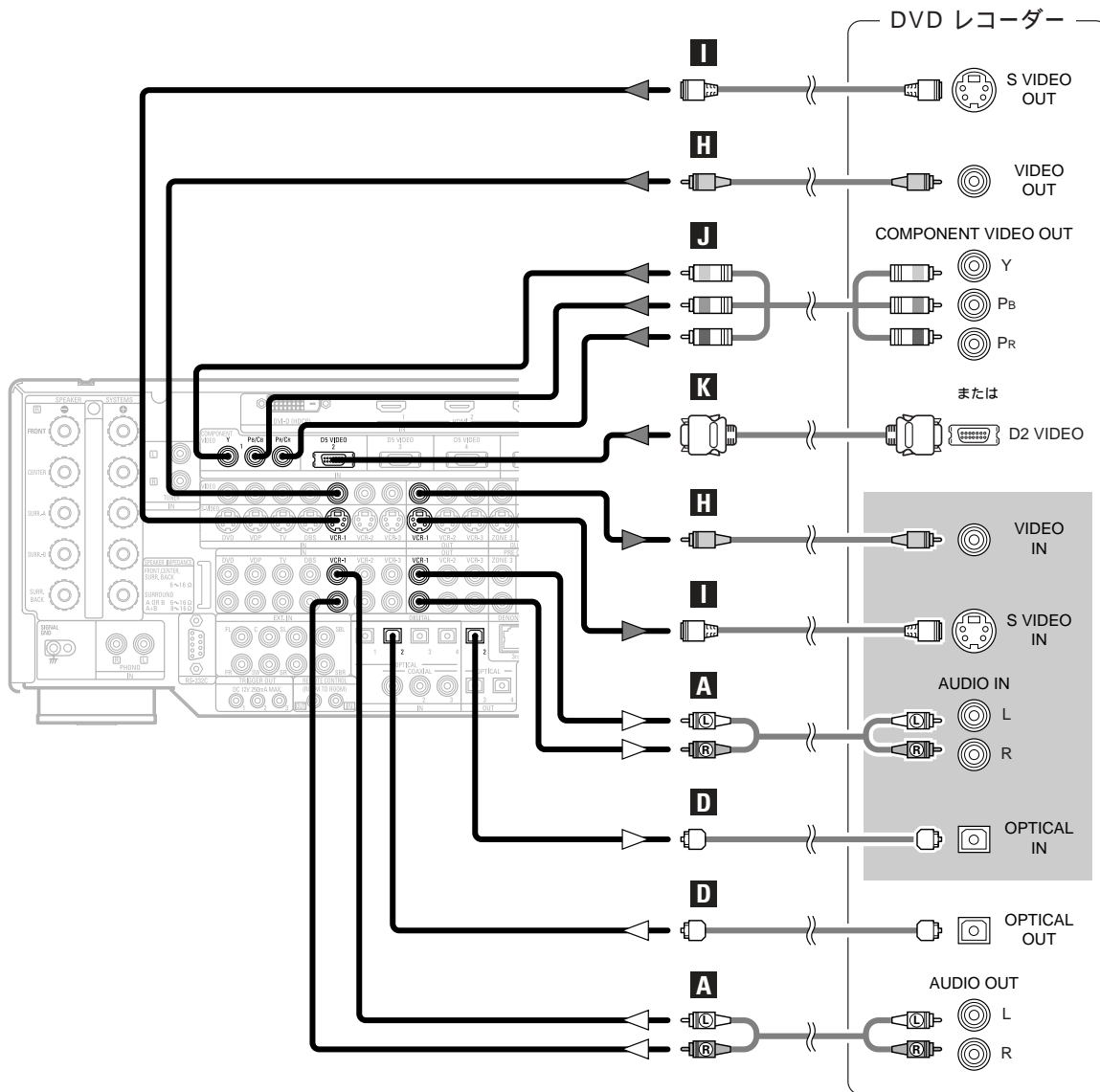
★ 本機には7.1チャンネル用アナログ外部入力端子を備えています。この入力端子はハイビジョンのMUSE 3-1方式やDVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。
★ ビデオ信号の接続のしかたはDVDプレーヤーと同じです。（☞ P. 12）
★「外部入力（EXT. IN）端子の設定」について（☞ P. 70）

MEMO

- ハイビジョン（MUSE 3-1方式）を接続するとき、サラウンドチャンネル出力がモノラルの場合には、別売りのモノ・ステレオケーブルを使用してください。
- DENON LINK端子をもつDENON製DVDプレーヤーに付属する専用の接続ケーブルで本機とDVDプレーヤーを接続すると、DVDオーディオディスクなどのマルチチャンネルソースをデジタル伝送し、マルチチャンネル再生することができます。
  しかしながら、著作権保護のかかったディスクではDVDプレーヤーのデジタル出力が出ない場合があります。このようなときには、本機のEXT. IN端子にDVDプレーヤーのアナログマルチチャンネル出力を接続して再生してください。

(5) ビデオカメラ、ゲーム機の接続

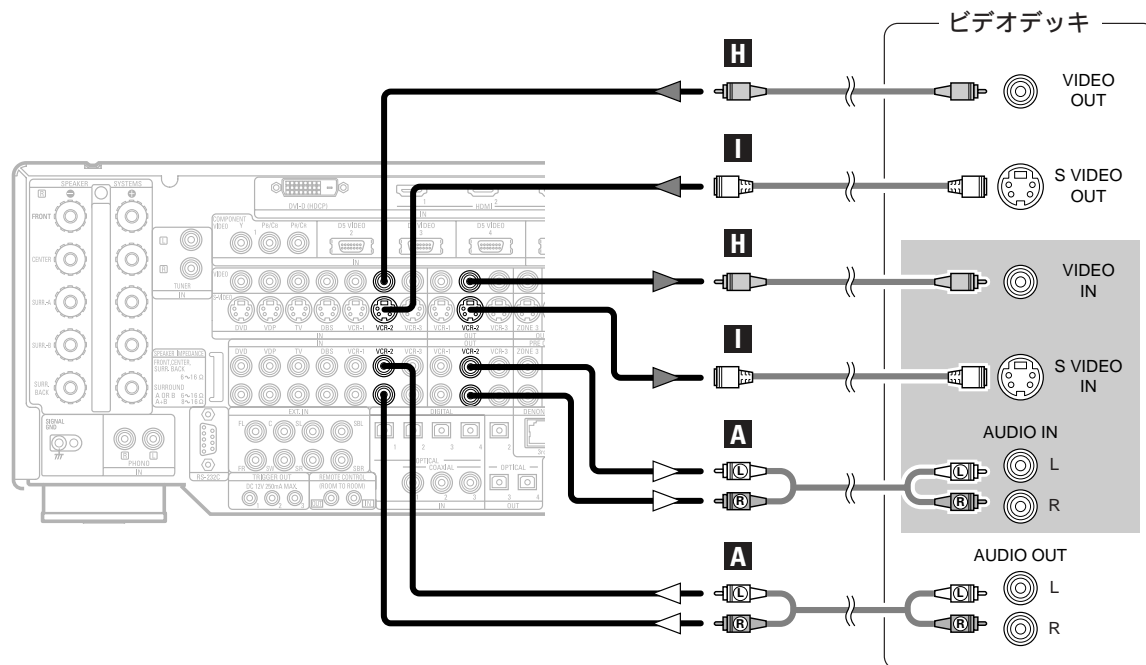
★ 本機前面のV.AUX入力端子に接続します。

（6）DVDレコーダー接続

★ DVDレコーダーの映像出力は、ビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントケーブルのいずれかで接続します。
D端子やコンポーネントケーブルを使用する場合は、コンポーネントビデオ入力の設定をおこなう必要があります。（☞ P. 78）
★ アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。

ご注意

- 本機を通して録画するときは再生ソースの機器のケーブルの種類と本機のVCR-1 (〜 3) OUT端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
(例) VCR-1 IN → S端子用接続ケーブル：VCR-1 OUT → S端子用接続ケーブル
VCR-1 IN → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-1 OUT → 映像用75Ωピンプラグケーブル
- 本機のリアパネルのOPTICAL 2 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL 2 IN端子以外に接続しないでください。

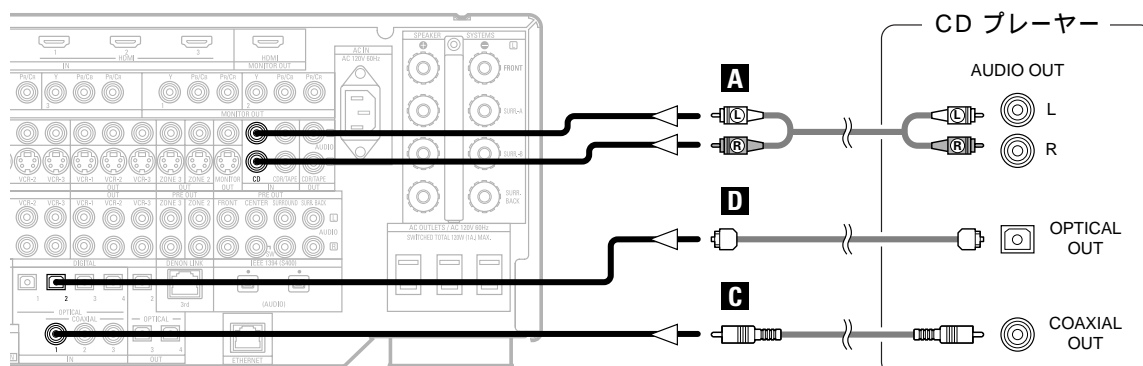
接続のしかた（つづき）

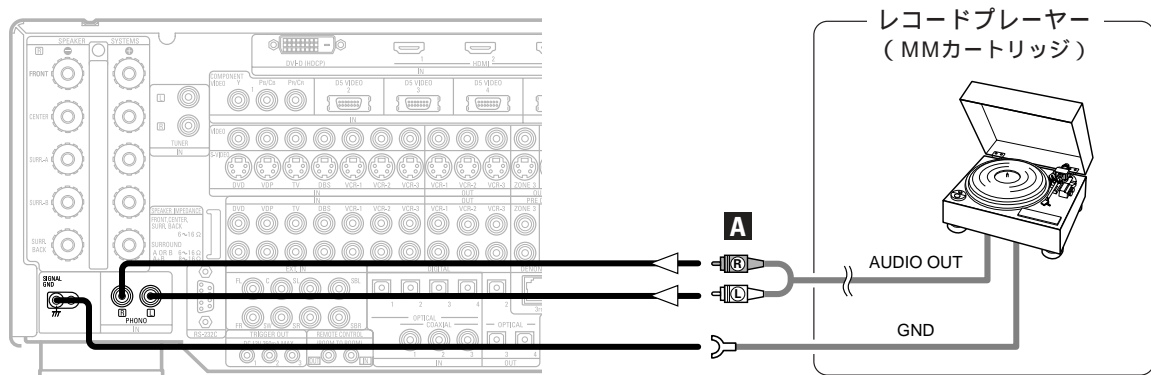
（7）VCR接続

★ ビデオデッキ（VCR）端子は3系統あり、3台のビデオデッキを接続して同時録画やビデオコピー（ダビング）がおこなえます。

ご注意

- 本機を通して録画するときは再生ソースの機器のケーブルの種類と本機のVCR-1 (〜 3) OUT端子に接続するケーブルの種類を同じにする必要があります。
  (例)　VCR-2 IN → S端子用接続ケーブル：VCR-2 OUT → S端子用接続ケーブル
  　　　VCR-2 IN → 映像用75Ωピンプラグケーブル：VCR-2 OUT → 映像用75Ωピンプラグケーブル
- 3台目のビデオデッキをVCR-3端子へ接続することが出来ます。

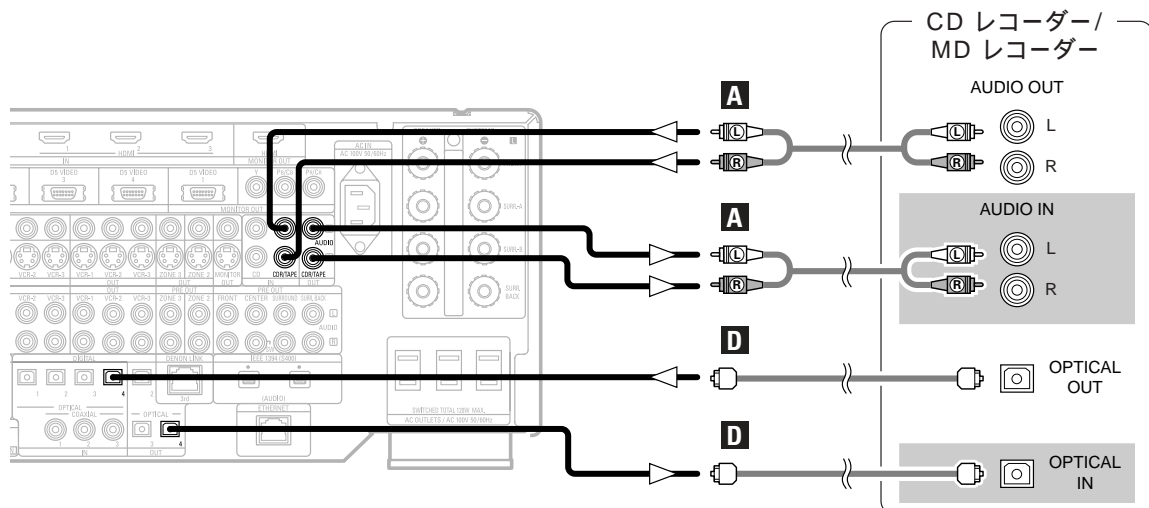
（8）CDプレーヤー接続

★ デジタル音声は、75Ωピンプラグケーブルまたは光伝送ケーブルのどちらかで接続します。光伝送ケーブルを使用する場合は、デジタル入力の設定をおこなう必要があります。（☞ P. 68）

（9）レコードプレーヤー接続

★ レコードプレーヤー（MMカートリッジ）は本機のPHONO端子に接続してください。

ご注意

- 本機ではMCカートリッジの再生はできません。市販のヘッドアンプまたは昇圧トランスを使用してください。
- レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げたときに、“ブーン”という誘導ハム音がスピーカーから出ることがあります。なお、本機のアース端子（SIGNAL GND）はレコードプレーヤーを接続した場合の雑音の低減をはかるもので、安全アースではありません。
- レコードプレーヤーによっては、アースワイヤーが接続されているときに雑音が発生する場合があります。このような場合は、アースワイヤーを外してください。

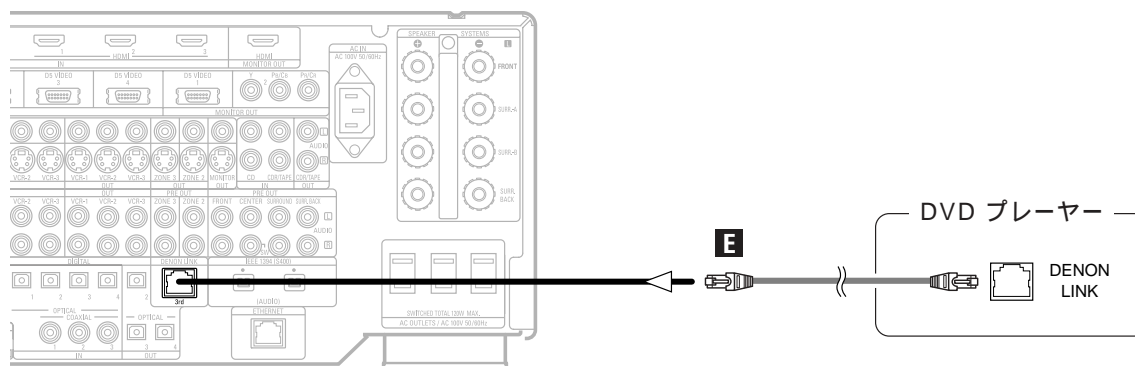
（10）CDレコーダーまたはMDレコーダー接続

★ アナログ音声の録音をする場合には、アナログ端子に接続する必要があります。

ご注意

- 本機のリアパネルのOPTICAL 4 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL 4 IN端子以外に接続しないでください。

（11）テープデッキ接続

（12）DENON LINK接続

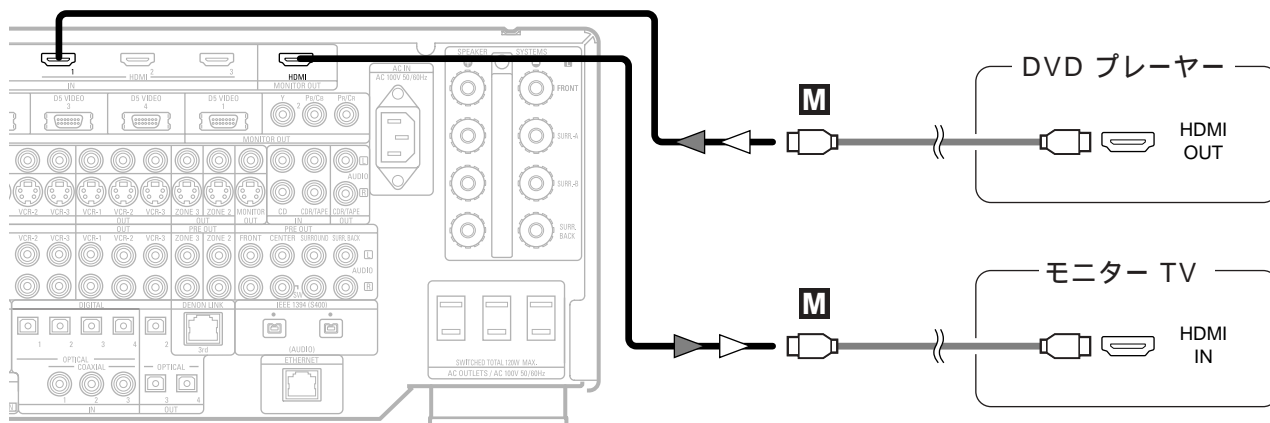
★ DENON製DVDプレーヤーに付属のDENON LINKケーブルで本機に接続すると、DVDオーディオなどのマルチチャンネルをデジタル伝送し、マルチチャンネル再生することができます。
★ DENON製DVDプレーヤーとDENON LINK接続した場合は、システムセットアップの「デジタル入力の設定」（☞ P. 68、69）で『DLINK』に設定してください。

スーパーオーディオCDについては、著作権保護を目的としたデジタル伝送のルールがあります。

DENONはすでに、スーパーオーディオCDのマルチチャンネルデジタル信号を伝送する許可を得ることを目的として、スーパーオーディオCDライセンサーやコンテンツホルダーに対しDENON LINK（3rd Edition）を提示し、現在は承認作業に入っています。その承認作業が完了し、正式にDENON LINKによるスーパーオーディオCDの音声デジタル伝送の許可が得られた段階で、DENON LINK（3rd Edition）搭載のプレーヤーからの本機へのスーパーオーディオCDのデジタル伝送が可能になります。

■DENON LINK端子での再生について

著作権保護のかかったディスクではDVDプレーヤーのデジタル出力が出ない場合があります。このようなときには、本機のEXT. IN端子にDVDプレーヤーのアナログマルチチャンネル出力を接続して再生してください。

（13）HDMI端子付きビデオ機器の接続

★ 本機とHDMI端子のある機器を1本のケーブル（別売り）で接続するだけで、DVDビデオなどのデジタル映像とDVDビデオやDVDオーディオのマルチチャンネル音声のデジタル伝送がおこなえます。
★ 本機の音声出力端子から音声を出力させる場合は、「HDMI/DVI入力の設定」（☞ P. 76、77）で『AMP』を選択してください。
TVから音声を出力させる場合は、『TV』を選択してください。

著作権保護システム

HDMI/DVI-D接続を通してDVDビデオやDVDオーディオのデジタル映像と音声を再生するには接続されたプレーヤーとモニターの双方がHDCP (High-bandwidth Digital Content Protection System)と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
本機はHDCPに対応しています。お手持ちのプレーヤーまたはモニターについては取扱説明書をご覧ください。

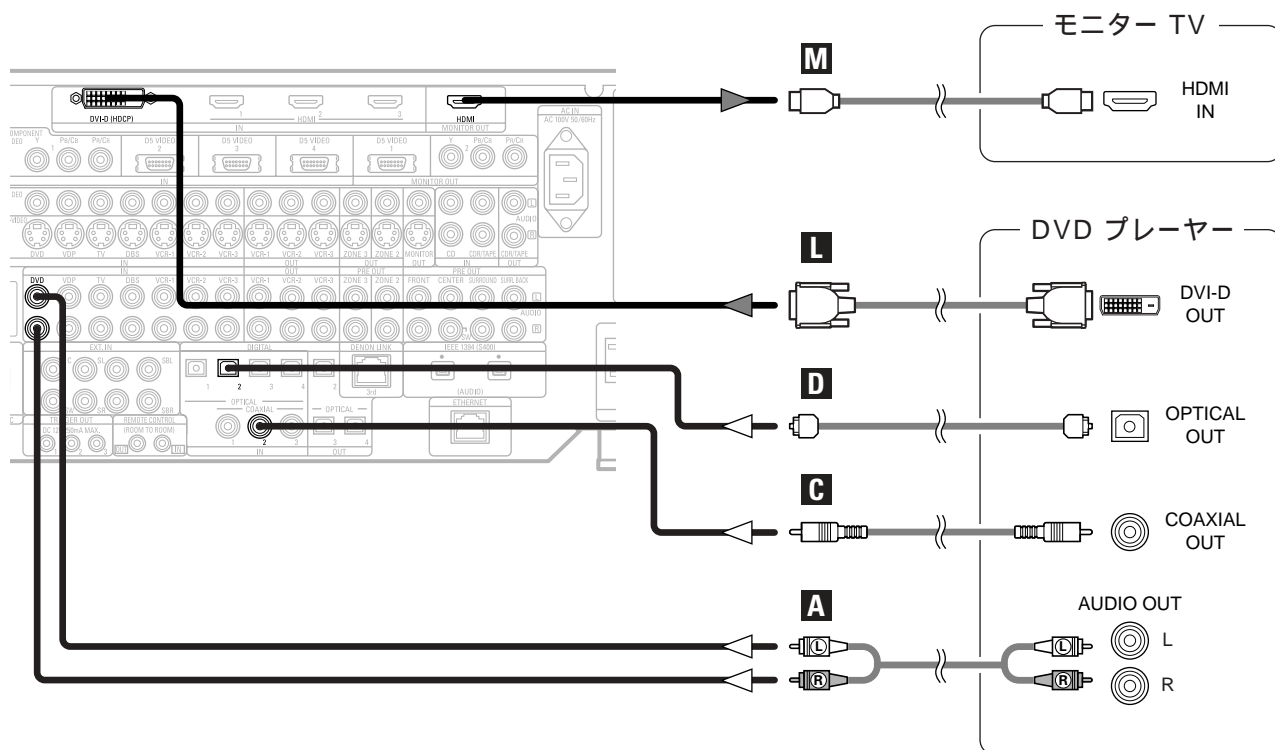
入力信号		
DVDビデオ	リニアPCM	○
	ドルビーデジタル	○
	DTS	○
DVDオーディオ	LPCMまたはP.PCM（CPPMあり/なし）	○
CD	リニアPCM	○
スーパーオーディオCD	マルチエリア	×
	ステレオエリア	×
	CDエリア	○

※ 本機はHDMI Ver 1.1に対応しています。

ご注意

- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- CPPMで著作権保護されたDVDオーディオディスクを再生する場合は、対応したプレーヤーをご使用ください。
- HDMI対応機器の中には、HDMI端子経由で他の機器を制御できるものがありますが、本機をHDMI端子経由で他の機器からコントロールすることはできません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続される機器により制限されることがあります。
- HDCPに対応していない機器をご使用の場合、映像が正常に出力されません。
- HDMI入力の解像度が480iまたは576iに対応したHDMI端子付きモニターをご使用ください。
- HDMIまたはDVI-D入力端子から入力された映像信号は、そのままの解像度でHDMIモニターアウト端子から出力されるため、入力信号の解像度と使用するモニターの解像度が合っていない場合は表示されません。このような場合は、ソース機器（プレーヤー）側でモニターが対応している解像度の設定に合わせる必要があります。
- 安定した伝送のために5m以下のケーブルを推奨します。

（14）DVI-D端子付きビデオ機器の接続

★ 本機とDVI-D端子のある機器を接続し、デジタル映像の伝送がおこなえます。音声接続もおこなってください。

ご注意

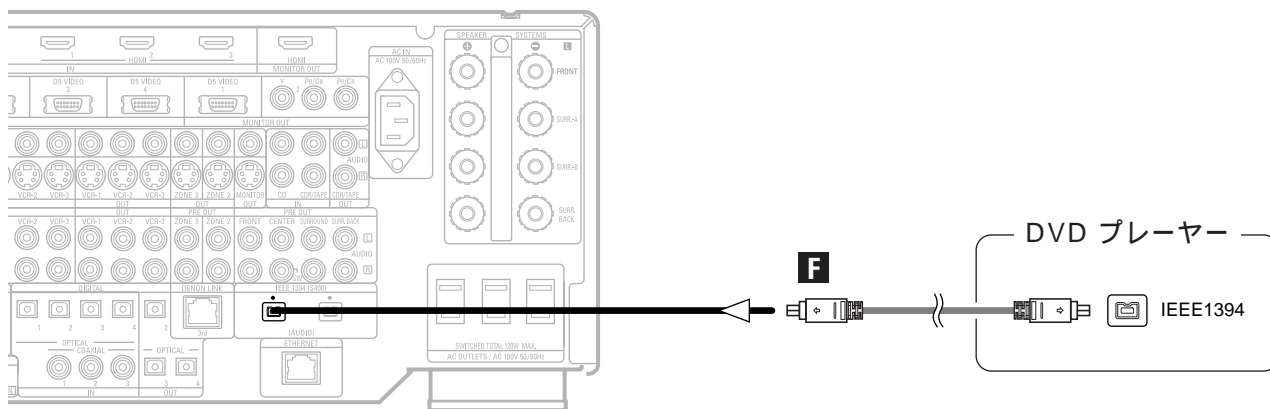
- 市販のDVI-D端子用接続ケーブルには24Pと29Pのものがありますが、本機では24PのDVI-D端子用接続ケーブルに対応しています。
- 本機はHDCPに対応しています。HDCPに対応したHDMI端子付きモニターをご使用ください。
- DVI-D入力端子に接続した場合は、HDMIモニターアウト端子からデジタル音声は出力されません。
- 接続するモニターがDVI-D端子のみ対応の場合は、HDMI-DVI変換ケーブルをご使用ください。

HDMI-DVI変換ケーブル（アダプター）での接続について

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）はDVI-Dと原理的に互換性があります。
  DVI-D端子付きモニターなどに接続する場合は、HDMI－DVI-D変換ケーブルを用いて接続できますが、機器の組み合わせによっては映像が出力されない場合があります。
- HDMI－DVI-D変換アダプターをご使用の場合、接続したケーブルとの接触不良等により、正常に映像が出力されない場合があります。
- 安定した伝送のために5m以下のケーブルを推奨します。

（15）IEEE1394機器の接続

★ スーパーオーディオCDおよびDVDオーディオディスクからのデジタル信号の転送については、IEEE1394ケーブルを使用して接続してください。スーパーオーディオCDの再生のしかたについては（☞ P. 136）をご覧ください。

★ 入力ソースにIEEE1394入力を割り当てて使用します。（☞ P. 74）

■IEEE1394ネットワークについて

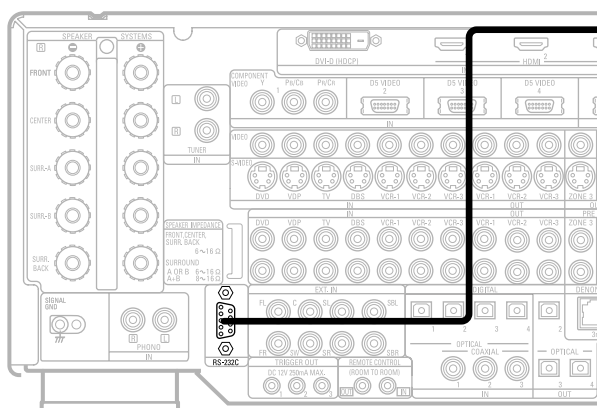
① デイジーチェーン型で接続の場合は、最大17台まで接続できます。
② ツリー型で接続の場合は最大63台まで接続できます。
③ IEEE1394入力を割り当てている入力ソースを選択して、IEEE1394機器との接続を確認中のときは、本機のディスプレイに " LINK CHECK " と表示されます。
④ 接続が輪（ループ）にならないように接続します。
ループ接続時には本機のディスプレイに " LOOP CONNECT " と表示されますので、接続を再度確認して、ループにならないようにしてください。

ご注意

- 本機は『IEEE1394 AUDIO（A＆M プロトコル）』以外やパソコン周辺機器と接続すると正常に動作しません。また、IEEE1394対応機器間であっても接続動作を保証するものではありません。IEEE1394対応機器間でデータやコントロール信号が送受信できるかは、それぞれの機器の機能によって異なりますので、接続する機器の取扱説明書もご覧になり、接続してください。
- 接続にはS400対応の4ピンIEEE1394用接続ケーブルを使用してください。
- 本機のIEEE1394インターフェースでは映像信号が伝送されないため、ビデオ機器と接続する場合には映像信号の接続をおこなってください。

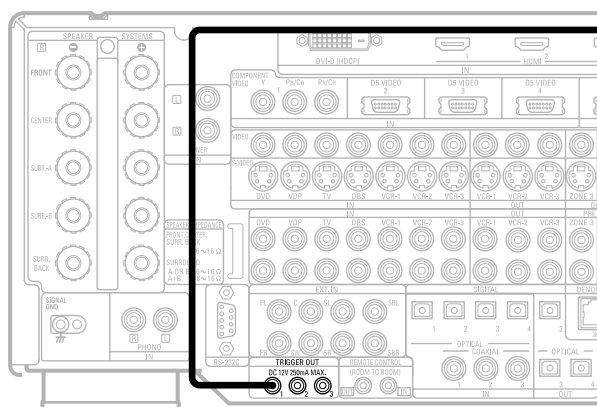
接続のしかた（つづき）

（16）コントロール用端子の接続

■ RS-232C端子の接続

RS-232C端子

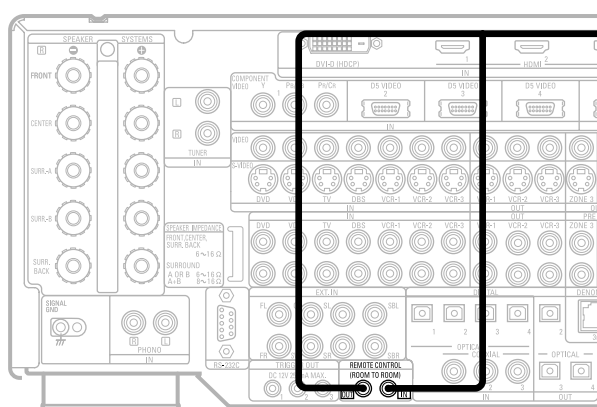
RS-232Cケーブルを使用して外部のコントロール機器から本機を操作することができます。

- RS-232C端子を使用して本機の操作をおこなう場合は、あらかじめ下記の操作をおこなう必要があります。
  ①本機の電源スイッチをONにする。
  ②外部コントロール機器から本機の電源をOFFする。
  ③本機がスタンバイ状態になっていることを確認する。

■ TRIGGER OUT端子の接続

TRIGGER OUT端子

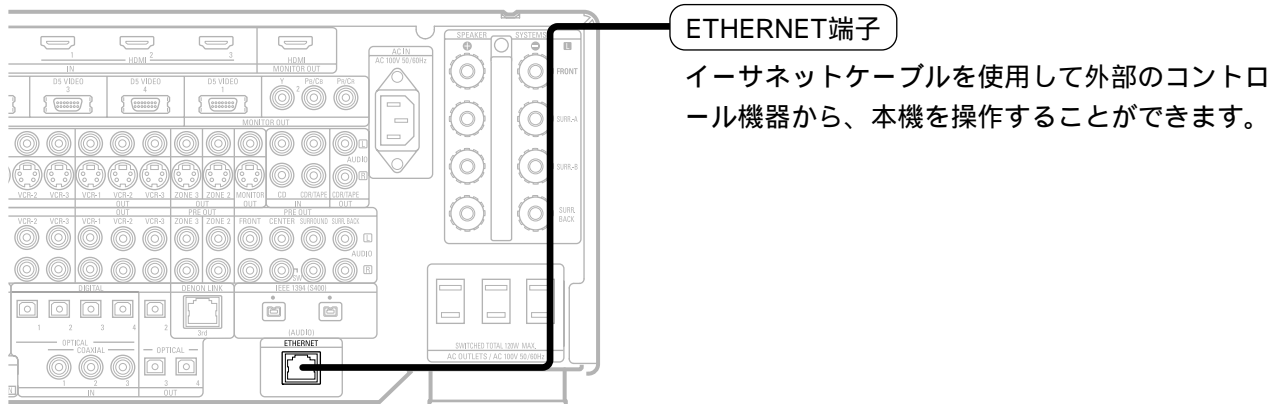
12V TRIGGER IN端子を持つ機器と接続します。この端子から12VのDC電圧を出力します。DC12VのON/OFFは本機の電源や各入力ソース、サラウンドモードに対して連動させることができます。

詳しくは「トリガーアウトの設定」（☞ P. 97、98）をご覧ください。

■ REMOTE CONTROL端子の接続

REMOTE CONTROL端子

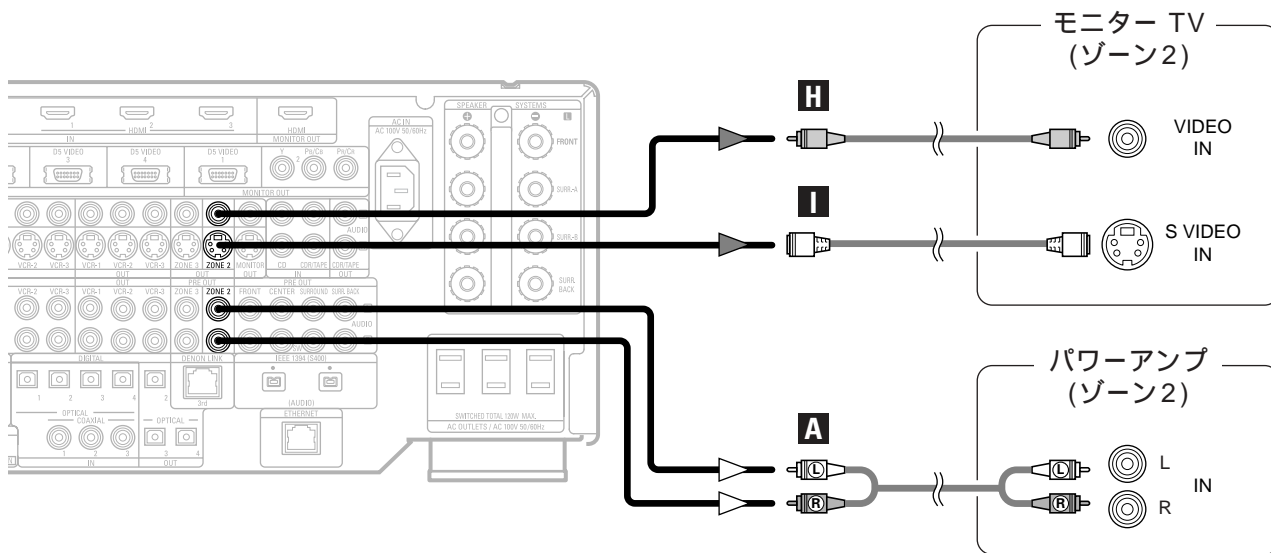
将来的な拡張用端子です。

接続のしかた（つづき）

■ETHERNET端子の接続

（17）マルチゾーン端子の接続

- 詳しくは「マルチゾーンについて」（☞ P. 139〜142）をご覧ください。

■ゾーン2プリアウト端子の接続

★ パワーアンプまたはプリメインアンプをゾーン2に追加すれば、ゾーン2プリアウト端子を用いることにより、メインゾーンでのサラウンド再生と同時に、ゾーン2でも別のプログラムソースの再生が楽しめます。
★ ゾーン2への映像出力はゾーン2モニターアウト端子（ビデオ端子、Sビデオ端子）をご使用ください。

■ゾーン3プリアウト端子の接続

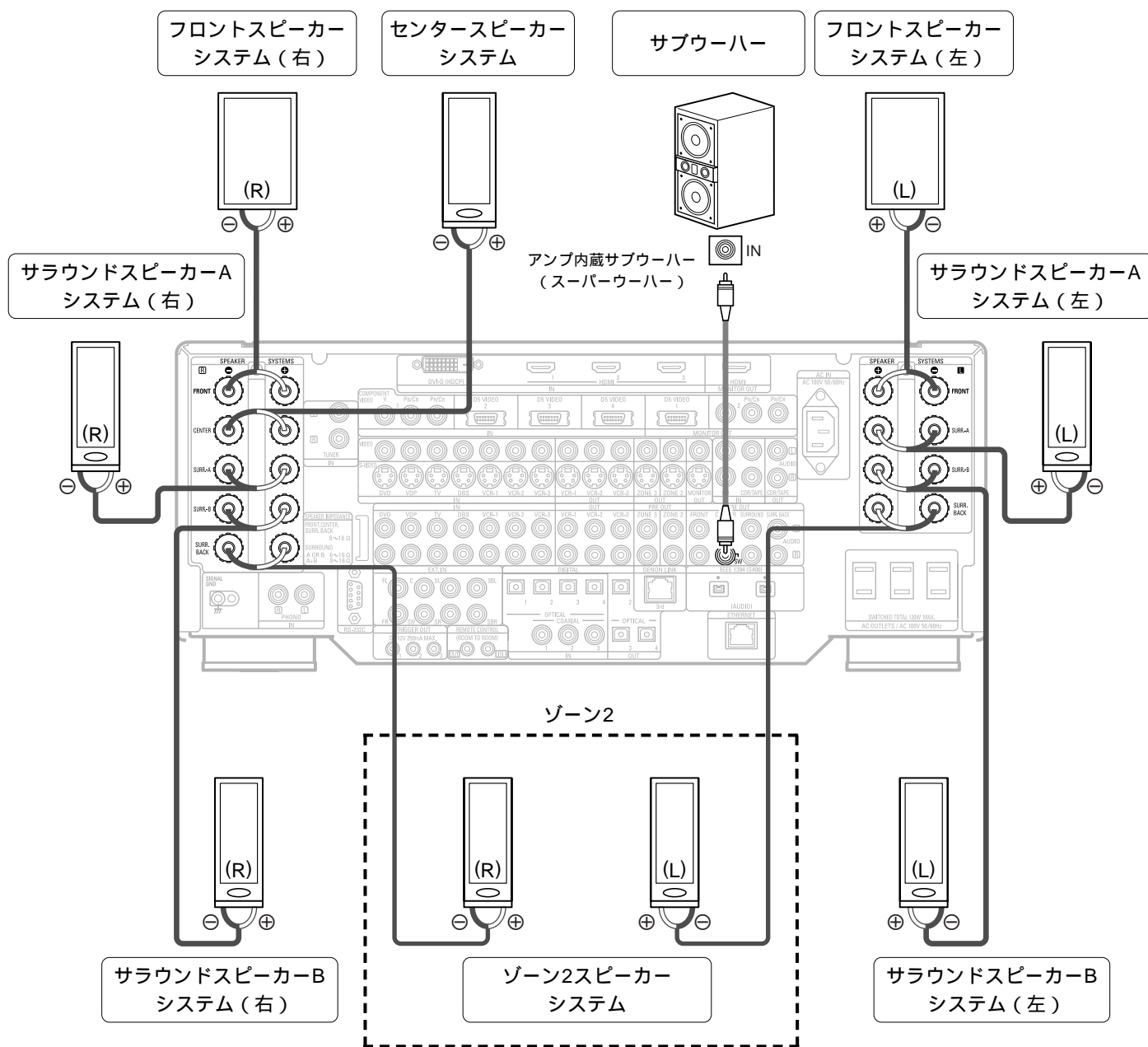
★ ゾーン2同様、ゾーン3への接続によりプログラムソースの再生が楽しめます。
★ ゾーン3への映像出力はゾーン3モニターアウト端子（ビデオ端子、Sビデオ端子）をご使用ください。

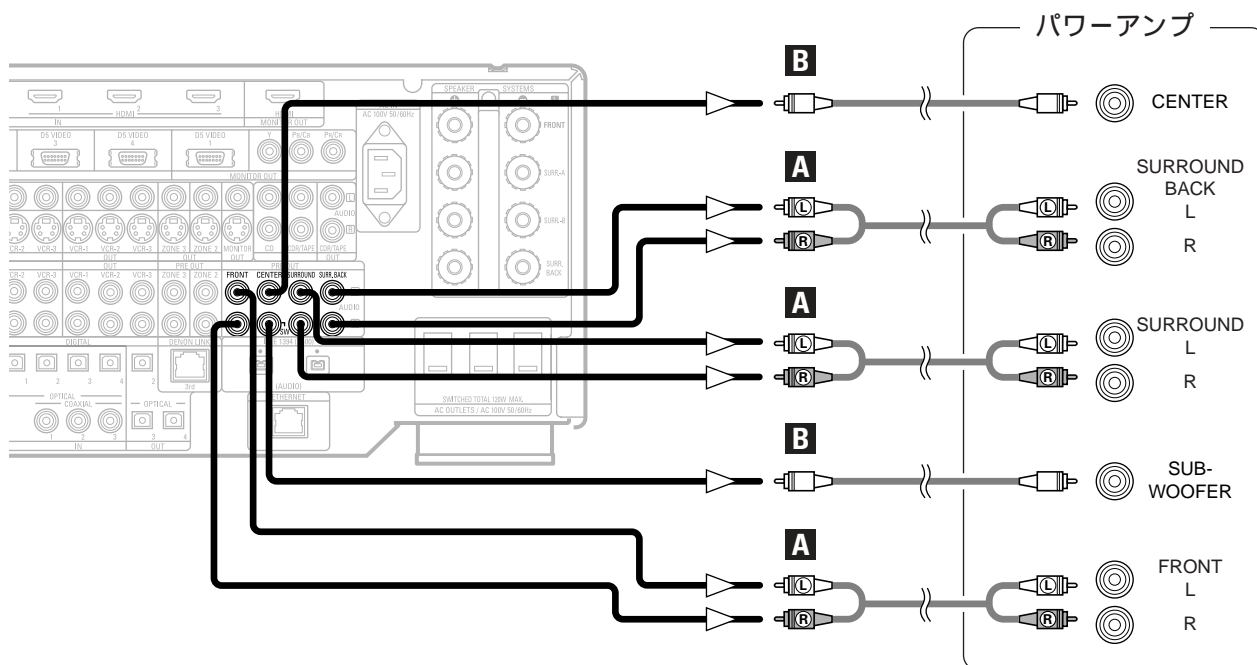
ご注意

- オーディオ出力については、誘導ハム音や雑音がないように高品質のピンプラグケーブルをご使用ください。

■ゾーン2/ゾーン3スピーカー端子の接続

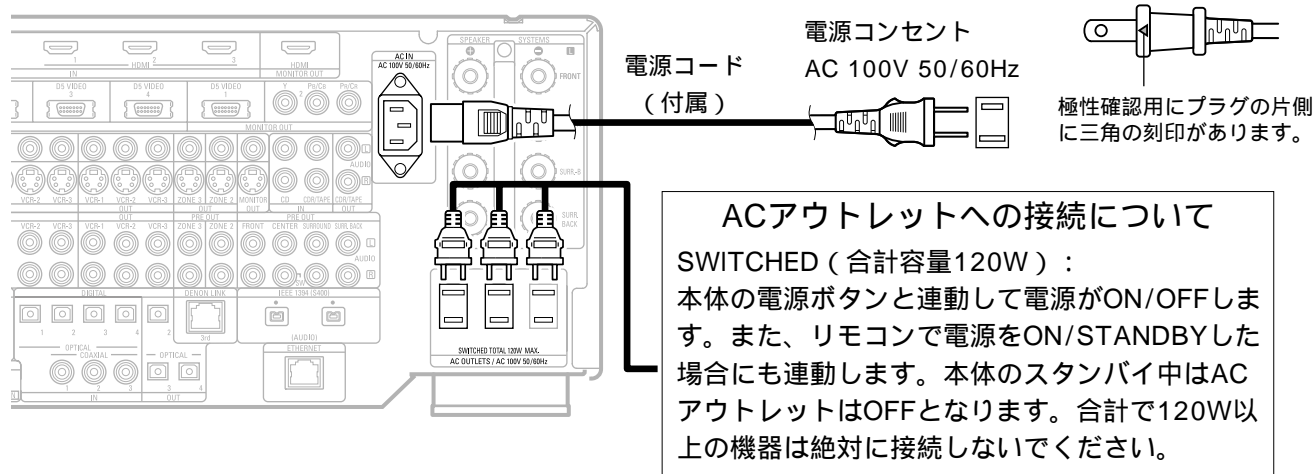
★システムセットアップメニューの「パワーアンプの割り当ての設定」（☞ P. 94、95）にて、本機のパワーアンプをゾーン2またはゾーン3の再生チャンネルに割り当てれば、メインゾーン用のスピーカー端子をゾーン2やゾーン3のスピーカー出力として使用することができます。

★ 下図はゾーン2でステレオ再生をおこなうときに、サラウンドバックスピーカー（L/R）をゾーン2の2チャンネル出力に割り当てた場合の接続例です。

（18）PRE OUT端子の接続

★ 市販のパワーアンプを使用してフロント、センター、サラウンドおよびサラウンドバックの音声をパワーアップする場合に使用します。
★ サラウンドバックスピーカーを1台で使用する場合は、Lチャンネルを使って接続してください。

（19）電源コードの接続

★ 本機に付属の電源コードには極性が表示されています。お好みの音質になるように電源コンセントへ挿入してください。

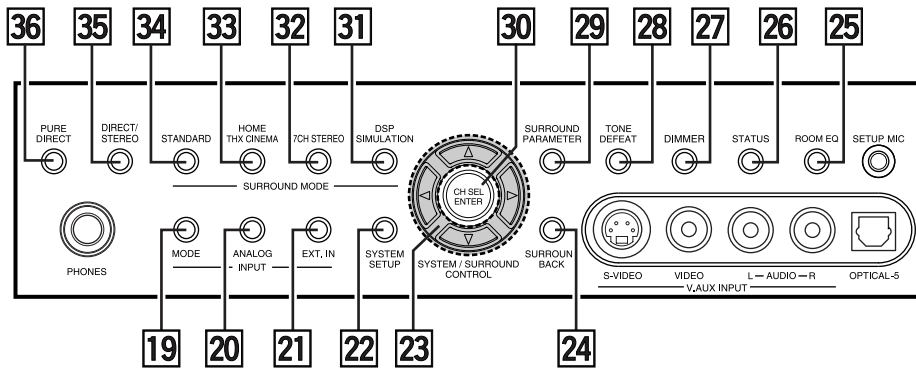
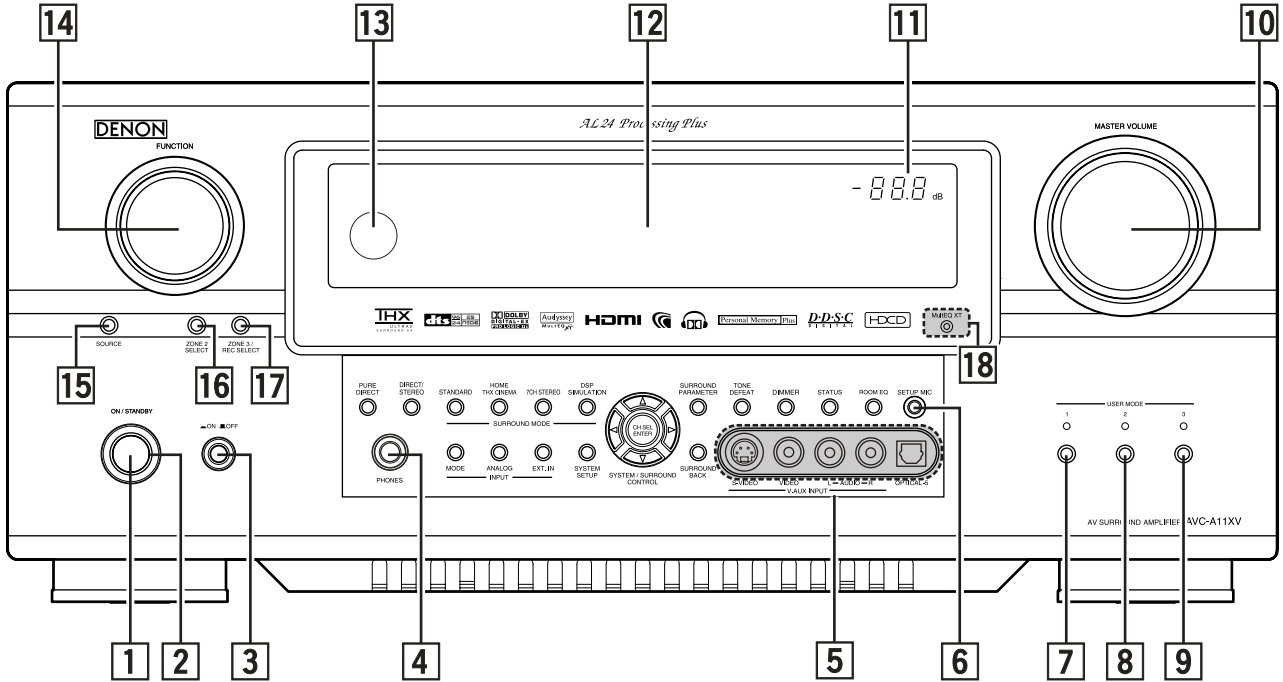
ACアウトレットへの接続について

SWITCHED（合計容量120W）：
本体の電源ボタンと連動して電源がON/OFFします。また、リモコンで電源をON/STANDBYした場合にも連動します。本体のスタンバイ中はACアウトレットはOFFとなります。合計で120W以上の機器は絶対に接続しないでください。

ご注意

- 電源プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因となります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤーやレコードプレーヤー、テープデッキなど本機に接続した機器の電源プラグを差し込んでおくと便利です。

6 各部の名前

(1) フロントパネル

★各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

各部の名前（つづき）

[1] **電源ボタン（ON/STANDBY）** …（☞ P.41）

[2] **電源表示** ………………………（☞ P.41）

[3] **電源スイッチ**
（▁ON/■OFF） …………（☞ P.41、170）

[4] **ヘッドホンジャック（PHONES）**
……………………………（☞ P.133）

[5] **V.AUX入力端子（V.AUX INPUT）**
……………………………（☞ P.20）

[6] **セットアップマイクジャック**
（SETUP MIC） ………………（☞ P.44）

[7] **ユーザーモード1ボタン**
（USER MODE1） ……………（☞ P.121）

[8] **ユーザーモード2ボタン**
（USER MODE2） ……………（☞ P.121）

[9] **ユーザーモード3ボタン**
（USER MODE3） ……………（☞ P.121）

[10] **主音量調節つまみ**
（MASTER VOLUME） …………（☞ P.106）

[11] **主音量表示** ………………………（☞ P.106）

[12] **ディスプレイ**

[13] **リモコン受光部** ……………………（☞ P.8）

[14] **入力ファンクション切り替えつまみ**
（FUNCTION） ……（☞ P.105、137、141）

[15] **ソース切り替えボタン**
（SOURCE） ……………………（☞ P.105）

[16] **ゾーン2ボタン**
（ZONE2 SELECT）………………（☞ P.141）

[17] **ゾーン3/レックボタン**
（ZONE3/REC SELECT）
……………………（☞ P.137、138、141）

[18] **MultEQ XTモード表示** …………（☞ P.133）

[19] **入力モード切り替えボタン**
（INPUT MODE） …………（☞ P.105、106）

[20] **アナログボタン（ANALOG）**
……………………………（☞ P.105、106）

[21] **外部入力ボタン（EXT.IN）** ……（☞ P.107）

[22] **システムセットアップボタン**
（SYSTEM SETUP） ………………（☞ P.36）

[23] **カーソルボタン** …………（☞ P.36、108）

[24] **サラウンドバックボタン**
（SURROUND BACK） …………（☞ P.113）

[25] **ROOM EQボタン** ………………（☞ P.133）

[26] **ステータスボタン（STATUS）**…（☞ P.134）

[27] **ディマーボタン（DIMMER）** …（☞ P.134）

[28] **トーンデフィートボタン**
（TONE DEFEAT） ………………（☞ P.125）

[29] **サラウンドパラメーターボタン**
（SURROUND PARAMETER）…（☞ P.112）

[30] **チャンネルセレクト/エンターボタン**
（CH SEL/ENTER） ………（☞ P.36、108）

[31] **DSPシミュレーションボタン**
（DSP SIMULATION） …………（☞ P.123）

[32] **7CH ステレオボタン**
（7CH STEREO）…………………（☞ P.123）

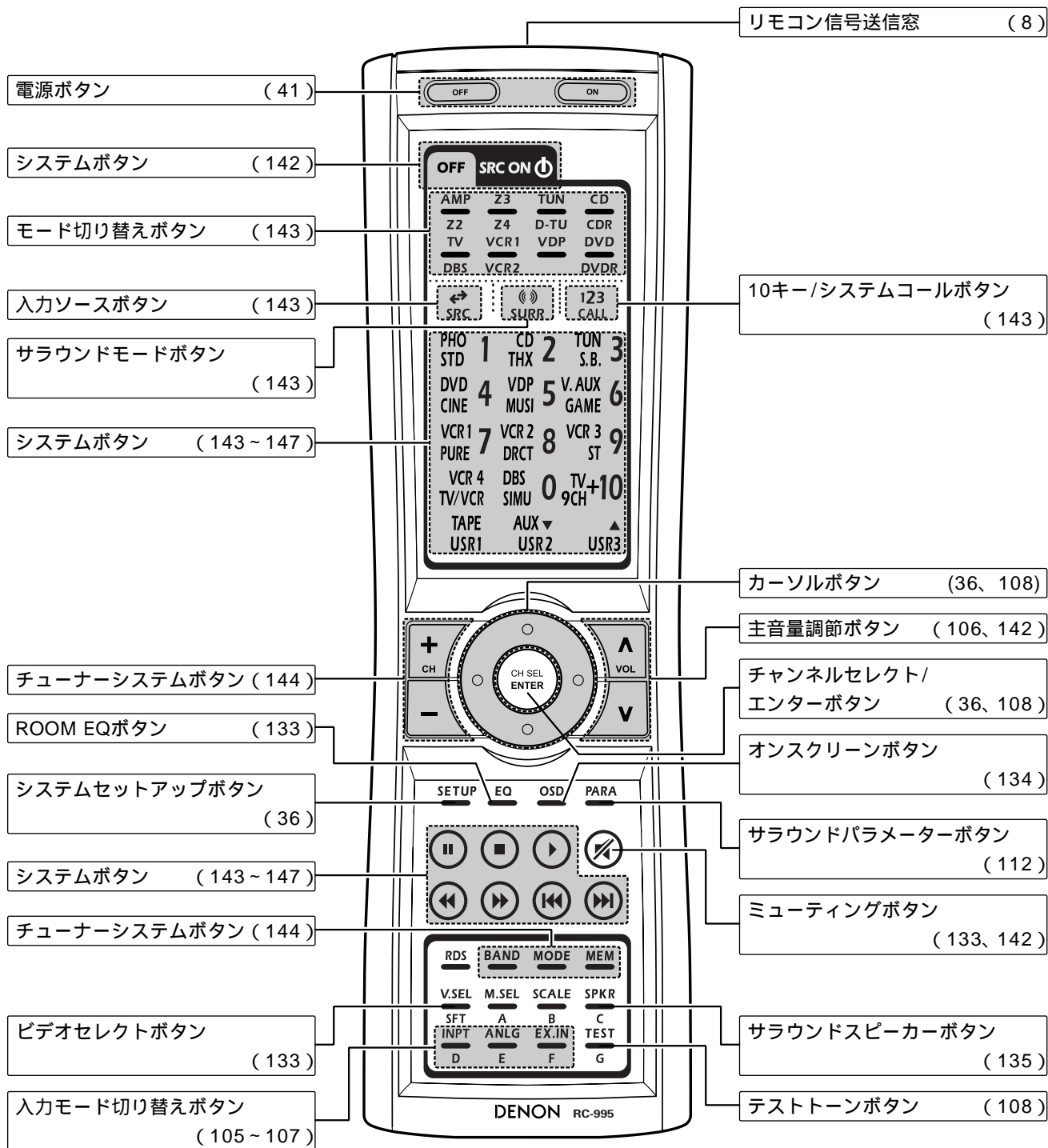
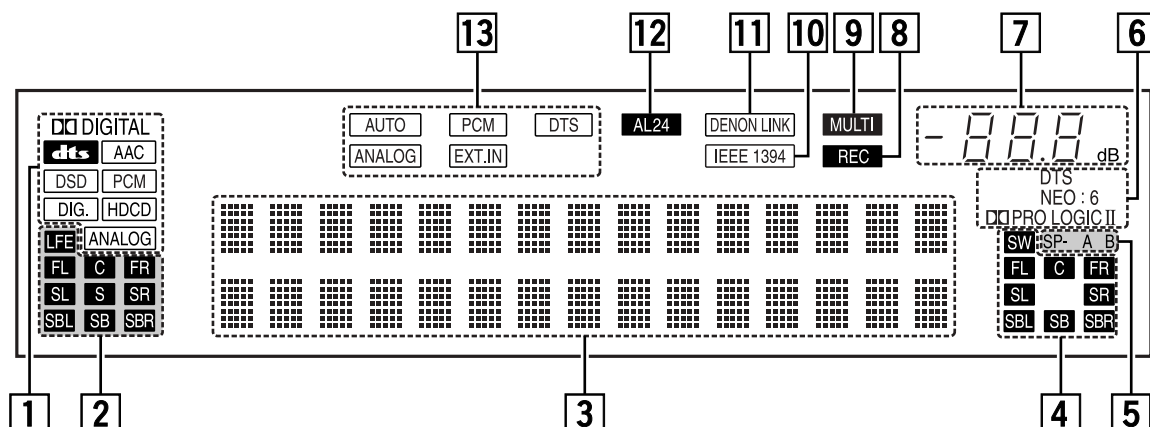
[33] **ホームTHXシネマボタン**
（HOME THX CINEMA）…（☞ P.111～113）

[34] **スタンダードボタン**
（STANDARD）……………（☞ P.114～119）

[35] **ダイレクト/ステレオボタン**
（DIRECT/STEREO） ……………（☞ P.135）

[36] **ピュアダイレクトボタン**
（PURE DIRECT） ………………（☞ P.135）

(2) リモコン

★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。
★ 本機以外の機器の操作（システムボタン）の説明について（☞ P. 143～147）

- 本機では " Z4 "、" D-TU "、" VCR4 "、" AUX "、" M.SEL "、" SCALE " および " RDS " ボタンは操作できません。
- 本機のサラウンドモードの『7CH STEREO』は " 9CH " ボタンで操作可能です。
- リモコンのバックライト点灯時間の設定のしかたについて（☞ P. 151）
（工場出荷時は10秒に設定されています。）

(3) ディスプレイ

1 **入力信号表示**
- 入力信号に合わせてそれぞれの表示が点灯します。

2 **入力信号チャンネル表示**
- 入力されたソースに含まれる音声チャンネルが点灯します。
- デジタル信号入力時に点灯します。

3 **インフォメーションディスプレイ**
- 入力ソース名、サラウンドモードおよび設定値などを表示します。

4 **出力信号チャンネル表示**
- 本機から出力可能な音声チャンネルが点灯します。

5 **スピーカー表示**
- 各サラウンドモードのサラウンドスピーカーの設定に合わせて点灯します。

6 **デコーダー表示**
- 本機内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれの表示が点灯します。

7 **主音量表示**
- 音量レベルまたはシステムセットアップ時の項目No. を表示します。

8 **REC OUT表示**
- REC OUTモードを選択している場合に点灯します。

9 **MULTI (ZONE) 表示**
- ゾーン3モードを選択している場合に点灯します。

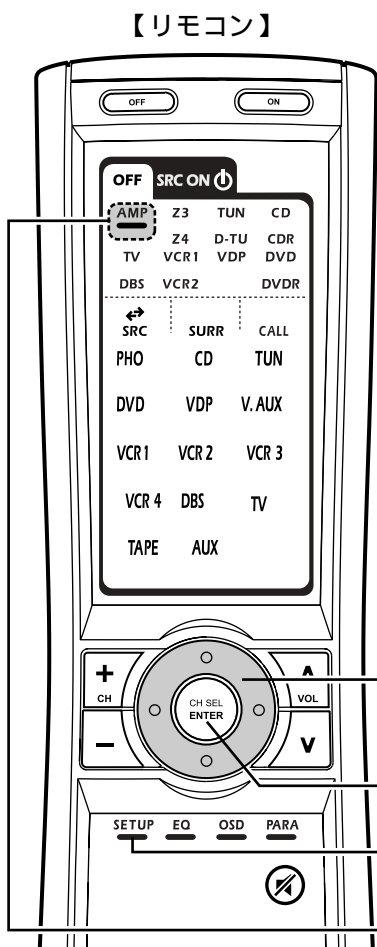
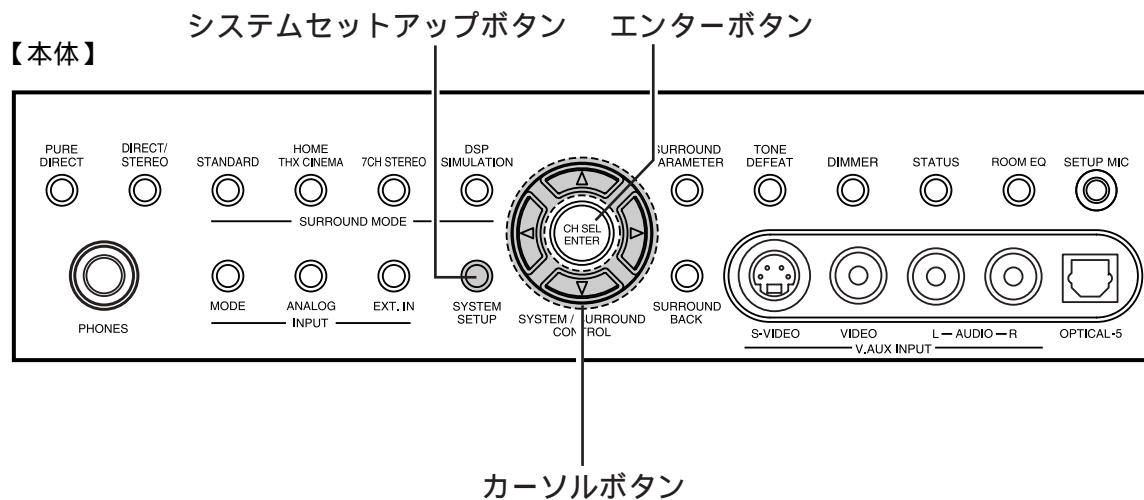
10 **IEEE1394表示**
- IEEE1394接続で再生しているときに点灯します。

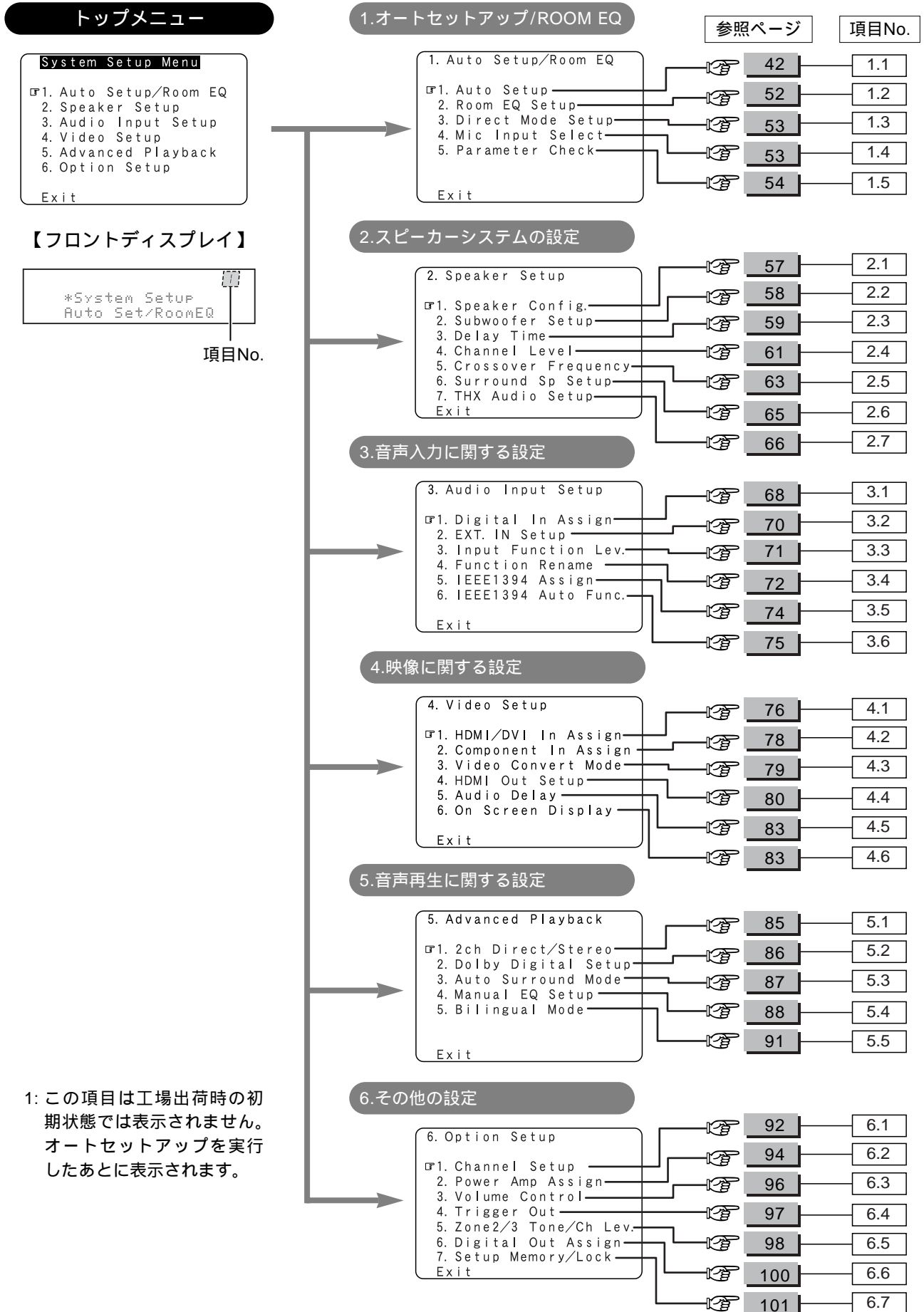
11 **DENON LINK表示**
- DENON LINK接続で再生しているときに点灯します。

12 **AL24表示**
- デジタル（PCM）信号入力時にPURE DIRECT、DIRECT、STEREO、MULTI CH PURE DIRECT、MULTI CH DIRECTまたはMULTI CH IN モードを選択した場合に点灯します。

13 **入力モード表示**
- 入力モードに合わせてそれぞれの表示が点灯します。

7 システムセットアップのしかた

★ システムセットアップは本体またはリモコンのどちらでも操作できます。

■ システムセットアップメニュー一覧

★ システムセットアップの内容については次ページをご覧ください。

※1: この項目は工場出荷時の初期状態では表示されません。オートセットアップを実行したあとに表示されます。

■ システムセットアップの内容と初期設定（工場出荷時）

1. Auto Setup / Room EQ（オートセットアップ/Room EQ）

	項　目	内　　容	初　期　設　定	参照ページ
①	Auto Setup	スピーカーシステムおよび部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動で設定します。	—	42~51
②	Room EQ Setup	各サラウンドモードごとにRoom EQ を一括設定するか、個別設定するかを選択します。	All, Room EQ=OFF	52
③	Direct Mode Setup	サラウンドモードがDIRECTまたはPURE DIRECTモードの場合にRoom EQ を使用するかどうかを設定します。	OFF	53
④	Mic Input Select	Auto Setup に使用するマイク入力端子を選択します。	Mic	53

2. Speaker Setup（スピーカーシステムの設定）

	項　目	内　　容	初　期　設　定	参照ページ
①	Speaker Configuration	サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。	Front Sp.: Small Center Sp.: Small Subwoofer: Yes Surround Sp. A / B: Small Surround Back Sp.: Small / 2spkrs	57
②	Subwoofer Setup	重低音信号を再生するサブウーハー、スピーカーを選択します。	LFE —THX—	58
③	Delay Time	リスニングポジションに応じて各スピーカーやサブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。	Front L & R: 3.6m (12ft) Center: 3.6m (12ft) Subwoofer: 3.6m (12ft) Surround A L & R: 3.0m (10ft) Surround B L & R: 3.0m (10ft) Surround Back: 3.0m (10ft)	59、60
④	Channel Level	最適な効果を得られるように、各スピーカーやサブウーハーから出力される音量をそれぞれチャンネルごとに調整します。	Front L: 0 dB Front R: 0 dB Center: 0 dB Surround L: 0 dB Surround R: 0 dB Surround Back L: 0 dB Surround Back R: 0 dB Sub-woofer: 0 dB	61、62
⑤	Crossover Frequency	各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。	FIXED —THX—	63、64
⑥	Surround Speaker Setup	より理想的なサラウンド再生をおこなうためにお客様が複数の組み合わせのサラウンドスピーカーを使用される場合は、本機能を使用します。各サラウンドモードごとに使用するサラウンドスピーカーの組み合わせをあらかじめ設定しておくことにより、自動的に各サラウンドモードごとにサラウンドスピーカーが選択されます。	サラウンドモード / サラウンドスピーカー: THX / DOLBY / DTS CINEMA: A THX / DOLBY / DTS MUSIC: A THX / DOLBY GAME: A WIDE SCREEN: A 7 CH STEREO: A DSP SIMULATION: A MULTI CH MODE: A	65
⑦	THX Audio Setup	Boundary Gain Compensation: THX Ultra2規格対応のサブウーハーを使用する場合、サブウーハーの周波数特性を設定します。	THX Ultra2 Subwoofer = No	66
		Surround Back Speaker Position: サラウンドバックスピーカーを2台使用する場合に2台の距離を設定します。	The Distance Between SBL/SBR = 0 m to 0.3 m	67

3. Audio Input Setup（音声入力に関する設定）

	項　目	内　　容	初　期　設　定	参照ページ
①	Digital In Assign	各入力ソースに対して、デジタル入力端子を割り当てます。	入力ソース / デジタル入力: CD: COAX 1 DVD: COAX 2 VDP: COAX 3 TV: OPT 1 DBS: OFF VCR-1: OPT 2 VCR-2: OPT 3 VCR-3: OFF CDR/TAPE: OPT 4 V.AUX: OPT 5 TUNER: OFF	68、69
②	EXT. IN Setup	外部入力（EXT. IN）端子の再生方法を設定します。	Surr. Sp = Surr. A, SW Level = ＋15dB	70
③	Input Function Lev.	入力ソース間で異なる再生レベルを個別に補正します。	TUNER: 0 dB PHONO: 0 dB CD: 0 dB CDR/TAPE: 0 dB DVD: 0 dB VDP: 0 dB TV: 0 dB DBS: 0 dB VCR-1: 0 dB VCR-2: 0 dB VCR-3: 0 dB V.AUX: 0 dB	71
④	Function Rename	オンスクリーンディスプレイやフロントディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。	TUNER / PHONO / CD / CDR/TAPE / DVD / VDP / TV / DBS / VCR-1 / VCR-2 / VCR-3 / V.AUX	72、73
⑤	IEEE1394 Assign	入力ソースに接続したIEEE1394機器を割り当てます。	—	74
⑥	IEEE1394 Auto Func.	接続したIEEE1394機器の自動再生機能を使用するかどうかを設定します。	OFF	75

4. Video Setup（映像に関する設定）

<table>
<tr><th colspan="2">項　目</th><th colspan="2">内　　　　容</th><th colspan="8">初　　期　　設　　定</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="3">①</td><td rowspan="3">HDMI/DVI In Assign</td><td rowspan="3">各入力ソースに対して、HDMIまたはDVI-D入力端子を割り当てます。
また、HDMIの音声信号の再生方法を選択します。</td><td>入力ソース</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>VCR-3</td><td>V. AUX</td><td rowspan="3">76、77</td></tr>
<tr><td>ビデオ入力</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="8">AUDIO = AMP</td></tr>
<tr><td rowspan="2">②</td><td rowspan="2">Component In Assign</td><td rowspan="2">各入力ソースに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。</td><td>入力ソース</td><td>DVD</td><td>VDP</td><td>TV</td><td>DBS</td><td>VCR-1</td><td>VCR-2</td><td>VCR-3</td><td>V. AUX</td><td rowspan="2">78</td></tr>
<tr><td>ビデオ入力</td><td>1-RCA</td><td>2-D</td><td>3-D</td><td>4-D</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td><td>NONE</td></tr>
<tr><td>③</td><td>Video Convert Mode</td><td colspan="2">モニター出力端子に出力する入力信号を設定します。</td><td colspan="8">AUTO</td><td>79</td></tr>
<tr><td>④</td><td>HDMI Out Setup</td><td colspan="2">アナログビデオ信号（ビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオ）からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。
また、このアップコンバージョン機能を使用する場合、HDMI端子から出力される信号のカラー形式および映像レンジを設定します。</td><td colspan="8">Convert = ON, Color Space = YCbCr, RGB Mode = Normal</td><td>80</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>Audio Delay</td><td colspan="2">映像信号と音声信号の時間差を調整します。</td><td colspan="8">0 ms</td><td>83</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>On Screen Display</td><td colspan="2">本機をリモコンや本体操作ボタンなどで操作した際に、確認のためモニター画面上に現れるオンスクリーン表示の有無を設定します。</td><td colspan="8">Function/Mode = ON
Master Volume = ON
Mode = Mode 1</td><td>83、84</td></tr>
</table>

5. Advanced Playback（音声再生に関する設定）

	項　目	内　　　　容	初　　期　　設　　定	参照ページ
①	2ch Direct / Stereo	2チャンネルのDIRECTモードおよびSTEREOモードで再生したときの設定を変更できます。	Basic	85、86
②	Dolby Digital Setup	ドルビーデジタル信号をダウンミックスするときのコンプレッションのON/OFFを設定します。	OFF	86
③	Auto Surround Mode	入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。	ON	87
④	Manual EQ Setup	再生信号を聴きながら各スピーカーの音色を合わせます。	0 dB	88~90
⑤	Bilingual Mode	ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。	MAIN	91

6. Option Setup（その他の設定）

	項 目	内 容	初 期 設 定	参照ページ
①	Channel Setup	各ゾーンで再生したいチャンネル数を設定します。	Main Zone: Surr. B = Used, S.Back = 2sp Zone2: Stereo Zone3: Stereo	92、93
②	Power Amp Assign	ご希望に応じてフロント以外のパワーアンプを任意の再生チャンネルに割り当て、フロントチャンネルのバイアンプ再生や、ゾーン2やゾーン3の再生チャンネルをスピーカーから出力することができます。	Front → Front Center → Center Surr. A → Surr. A Surr. B → Surr. B S. Back → S. Back	94、95
③	Volume Control	各ゾーン出力の音量レベルを設定します。 Volume Limit ： 主音量の上限を設定します。 Power On Level ： 各ゾーンの電源オン時の音量レベルを設定します。 Mute Level ： 各ゾーンのミューティング時の音声出力の減衰量を設定します。 Volume Level ： ゾーン2、3の出力レベルを固定または可変にするか設定します。	Main: Vol. Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Level = FULL Zone2: Vol. Lev. = VAR, Vol. Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Level = FULL Zone3: Vol. Lev. = VAR, Vol. Limit = OFF, P. On Lev. = LAST, Mute Level = FULL	96
④	Trigger Out Setup	本機の3つのトリガーアウト端子のDC12V出力を各ゾーンおよび各入力ソースに対して連動させて使用します。 連動させるゾーンをメインゾーン（MAIN）に設定した場合は、各サラウンドモードに対しても個別に設定できます。	（下表参照）	97、98
⑤	Zone2/3 Tone/Ch Lev.	ゾーン2およびゾーン3で再生される音声の音色の調整やチャンネルレベルの調整をおこないます。	Zone2: Bass = 0 dB, Treble = 0 dB, HPF = OFF, L/R = 0 dB Zone3: Bass = 0 dB, Treble = 0 dB, HPF = OFF, L/R = 0 dB	98、99
⑥	Digital Out Assign	本機のデジタル音声録音用OPTICAL2 OUTをZONE3/REC SELECT モードまたはZONE2 SELECTモードのどちらに連動させてソースを切り替えるかを設定します。	ZONE3/REC SELECT	100
⑦	Setup Memory / Lock	User Memory: 現在の設定内容を記憶させます。	—	101
		Setup Lock: システムセットアップの設定を変更できないようにロックするかどうか設定します。	Setup Lock = OFF	102

Trigger Out 1 (ZONE = MAIN)

TUNER	PHONO	CD	CDR/TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	VCR-3	V.AUX
OFF	OFF	OFF	OFF	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON

DIRECT/STEREO	THX / DOLBY / DTS CINEMA	THX / DOLBY/ DTS MUSIC	THX / DOLBY GAME	WIDE SCREEN	7CH STEREO	DSP SIMULATION	MULTI CH MODE
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON

Trigger Out 2 (ZONE = 2)

TUNER	PHONO	CD	CDR/TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	VCR-3	V.AUX
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON

Trigger Out 3 (ZONE = 3)

TUNER	PHONO	CD	CDR/TAPE	DVD	VDP	TV	DBS	VCR-1	VCR-2	VCR-3	V.AUX
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON

1 システムセットアップの前に

1

電源スイッチをONにする。

▁ ON　：電源表示が赤色に点灯します。

▇ OFF：電源表示は消灯します。

（本体）

2

電源を入れる。

● 電源表示 が緑色に点滅して、電源が入ります。

（本体）　（リモコン）

● 電源ボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。
● 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。

3

リモコンで操作する場合、アンプモードを選択する。

● アンプボタンを押して、リモコンの表示部に " AMP " を表示させます。

（リモコン）

4

システムセットアップボタンを押す。

（本体）

（リモコン）

```
System Setup Menu

☞1. Auto Setup/Room EQ
 2. Speaker Setup
 3. Audio Input Setup
 4. Video Setup
 5. Advanced Playback
 6. Option Setup

 Exit
```

```
*System Setup
Auto Set/RoomEQ
```

ご注意

● 本機のオンスクリーンディスプレイ機能は、高解像度のモニターTV用に設計されていますので、小さいキャラクター表示は小さい画面や低解像度のTVでは見にくい場合があります。
● ヘッドホンを使用している場合は、System Setup Menu画面は表示されません。
● System Setup Menuが表示されているときにシステムセットアップボタンが押されると上位画面へ戻ります。

2 オートセットアップ / Room EQについて

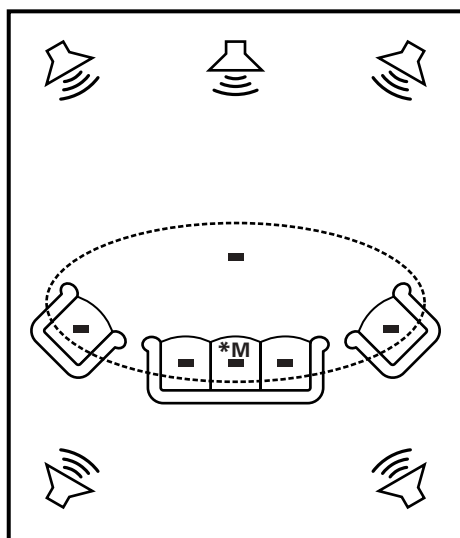
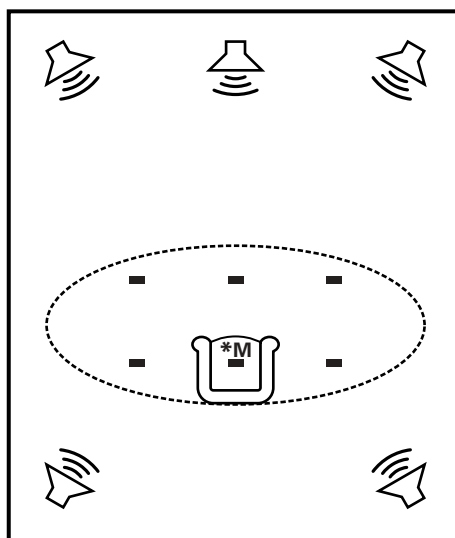
★ オートセットアップ/Room EQ機能は接続したスピーカーシステムやお部屋の音響特性を測定し、最適なセッティングを自動でおこなうことができます。

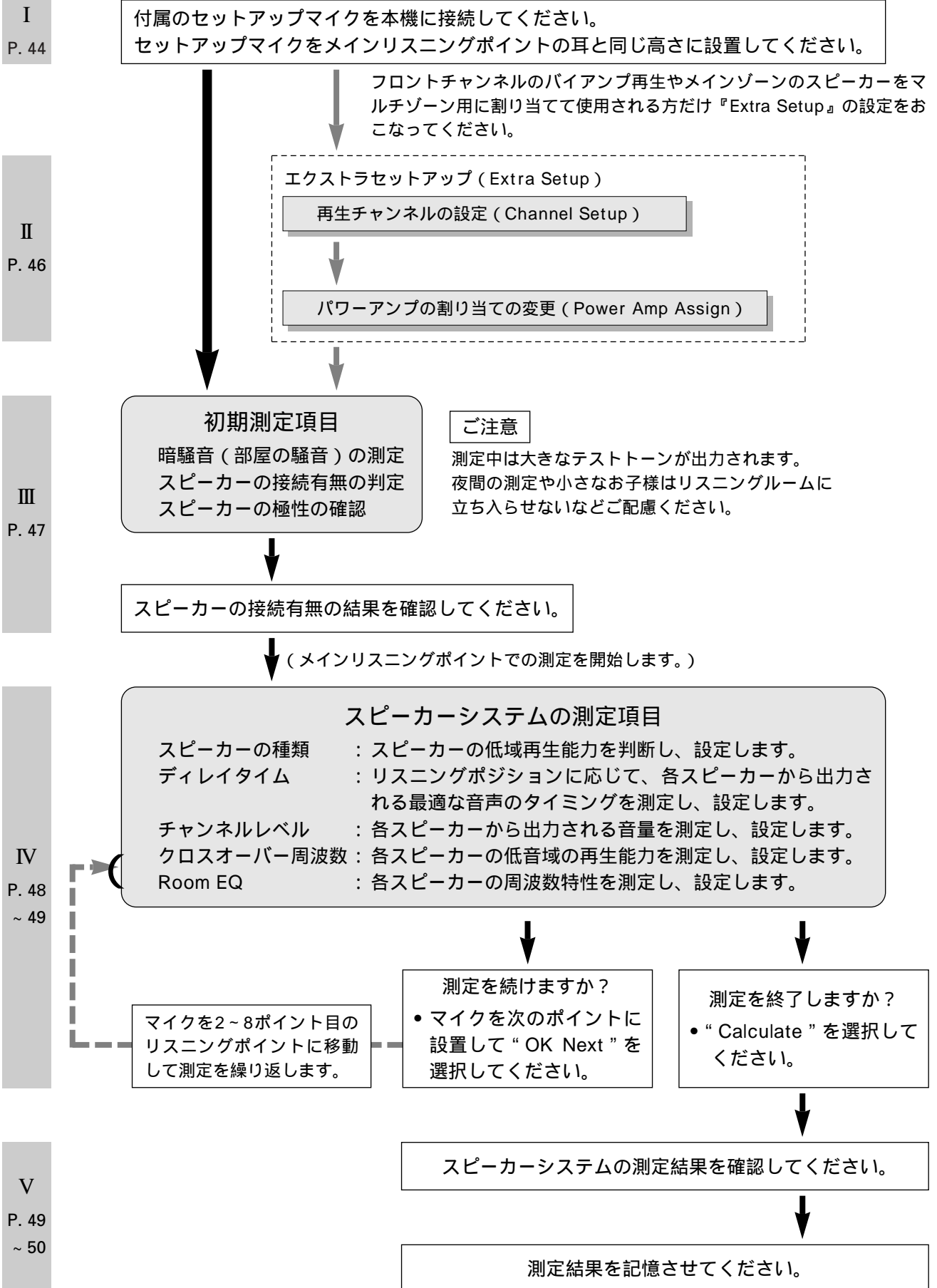
★ 本機が採用しているAudyssey MultEQ XT機能は、複数のリスナーが同時に視聴を楽しむ機会が多いホームシアターの、すべてのリスニングポイントに対して最適なリスニング環境を提供することを特長としています。
このために、まず、それぞれのスピーカーから発生されるテストノイズをすべてのリスニングポイントにおいて付属のセットアップマイクで測定します。これらのすべての測定されたデータを独自の方法で解析することにより、リスニングエリア内の音響特性を包括的に改善します。より良い効果を得るために、測定は**6ヵ所以上**でおこないます。
下図のように、スピーカーに囲まれたリスニングエリア内でセットアップマイクを順次移動し、測定をおこないます。家族で映画や音楽を楽しまれる方は、家族の方が座る場所にセットアップマイクを順次移動（図中 “ ▬ ” が設置ポイントを表す）して測定を繰り返してください【例 ①】。
また、ホームシアターが少人数用であっても、リスニングポイントの周囲を測定することにより、より効果的な補正をおこなうことができます【例 ②】。

★ 本機のRoom EQ機能では『Audyssey』、『Front』および『Flat』の3種類の補正カーブがあります。これらは一度オートセットアップを実行した後に選択可能となります。
各補正カーブの内容は以下のとおりです。
◎ **Audyssey** ：お部屋の音響特性を最適な環境に補正するよう、すべてのスピーカーの周波数特性を調整します。
◎ **Front** ：各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
◎ **Flat** ：すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。
これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

■ メインリスニングポイント（*M）について

メインリスニングポイントとは、もっとも頻繁にリスナーが座る場所、または一人で視聴をおこなうときに座るポイントをさします。本機の測定はこのポイントからはじめます。スピーカー距離の補正（Delay Time）については、このポイントを基準に設定します。

【例 ①】

【例 ②】

システムセットアップのしかた（つづき）

＜測　定　の　流　れ＞

システムセットアップのしかた（つづき）

3 オートセットアップをおこなう前に

1

ご使用のサブウーハーにボリウム設定およびクロスオーバー周波数設定機能がある場合

サブウーハーのボリウムを中央の位置に設定し、クロスオーバー周波数を『最大』またはLPFを『オフ』に設定する。

※ サブウーハーによってはスタンバイモード機能を搭載している製品がありますが、それらの機能は必ずOFFにしてからオートセットアップをおこなってください。

2

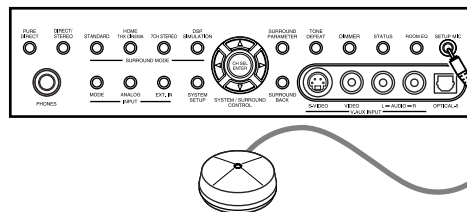
本機をテレビやプロジェクターなどのモニターに接続する。

※ オートセットアップでは、オンスクリーンディスプレイの機能を使用します。

I. セットアップマイクの接続

1

本機前面のセットアップマイクジャックに付属のセットアップマイクを接続する。

2

セットアップマイクをカメラ用三脚などに取り付け、受音部を天井に向けた状態で、リスニングルームのメインリスニングポイントに設置する。

※ セットアップマイクを設置する際は、セットアップマイクの受音部分の高さがリスニング時の耳の位置に合うように高さを調整してください。

※ 必ず、最初はメインリスニングポイントに設置して測定をスタートしてください。

※ メインリスニングポイントの位置について
（☞ P. 42）

ご注意

- セットアップマイクは設定が終わるまで、絶対に抜かないでください。

システムセットアップのしかた（つづき）

（1）オートセットアップ / Room EQ の設定

1 **System Setup Menu 画面上で "Auto Setup / Room EQ" を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

1 オートセットアップの設定

1 **Auto Setup / Room EQ 画面上で "Auto Setup" を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

※ セットアップマイクが接続されていないときは " Connect Microphone " というメッセージが表示されますので、付属のセットアップマイクを接続してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

Ⅱ. エクストラセットアップ

★ ご使用のスピーカーシステムに合わせて、再生チャンネルの設定の変更やパワーアンプの割り当ての変更をおこないたい場合はこの設定をおこなってください。
『Extra Setup』の設定をおこなわないときは初期測定（ ☞ P. 47）に進んでください。

1 **“Extra Setup”を選択する。**

2 **カーソルレフトボタンを押す。**

3 **変更したい設定を選んでエンターボタンを押す。**

- 『Channel Setup』の設定は「再生チャンネルの設定」（ ☞ P. 92、93）をご覧ください。
- 『Power Amp Assign』の設定は「パワーアンプの割り当ての変更」（ ☞ P. 94、95）をご覧ください。

※ オートセットアップで測定されるスピーカーはこれらの『Channel Setup』および『Power Amp Assign』の設定内容に従います。

4 **設定が完了したらエンターボタンを押す。**

- Extra Setup 画面に戻ります。

5 **“Exit”を選択し、エンターボタンを押す。**

- Auto Setup 画面に戻ります。

システムセットアップのしかた（つづき）

Ⅲ. 初期設定

★ この測定では暗騒音（お部屋の騒音）、スピーカーの接続の有無およびスピーカーの極性が自動的に判定されます。

測定中のご注意

- 各スピーカーとセットアップマイクの間に障害物があると正しく測定できない場合がありますので、障害物がないことを確認してください。
- 測定中はスピーカーとセットアップマイクの間や近くに立たないように気を付けてください。
- 測定に悪影響を与えないためにも、エアコンや音の出る機器の電源は切って、できる限り静かな環境で測定を実行してください。
- 測定中に主音量つまみを動かした場合は測定が中止されます。

ご注意

- 今後、この情報をもとに測定がおこなわれますので、測定結果を確認してください。
- もし、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や、エラーメッセージが表示された場合は、“ Retry ” を選択し再度測定をおこなってください。（エラーメッセージの詳細について（ ☞ P. 51））
- 再測定後の結果も、自分が接続した状態と異なる結果が出た場合や再度エラーメッセージが表示された場合には、接続を間違えている可能性がありますので、必ず一度本機の電源を切ってからスピーカーの接続を確かめて、最初から測定をやり直してください。

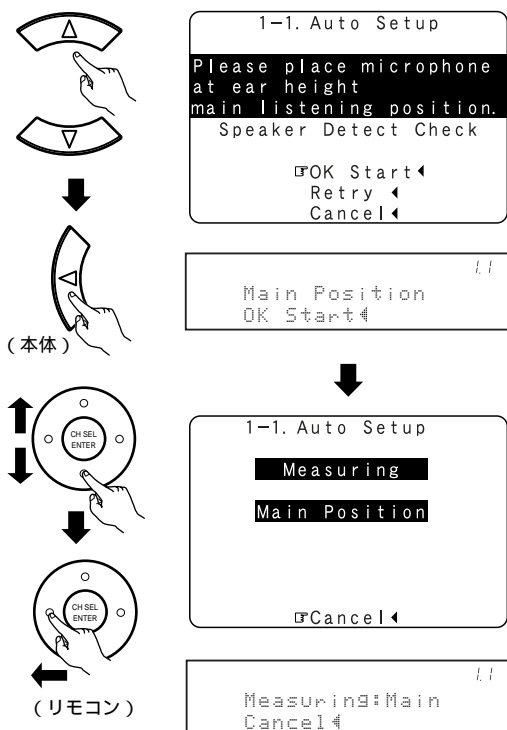
Ⅳ. スピーカーシステムの測定

★ この測定では『スピーカーの種類（Speaker Configuration)』、『ディレイタイム（Delay Time)』、『チャンネルレベル（Channel Level)』、『クロスオーバー周波数（Crossover Frequency)』、および『Room EQ』が自動的に解析されます。最初にメインリスニングポイントを測定しますので、セットアップマイクの位置はそのまま動かさないでください。

1

“ OK Start ” を選択し、カーソルレフトボタンを押す。

● 1ポイント目（メインリスニングポイント）の測定が開始されます。

2

① メインリスニングポイントの測定が終わり下記の画面が表示されたら、2ポイント目にセットアップマイクを設置する。

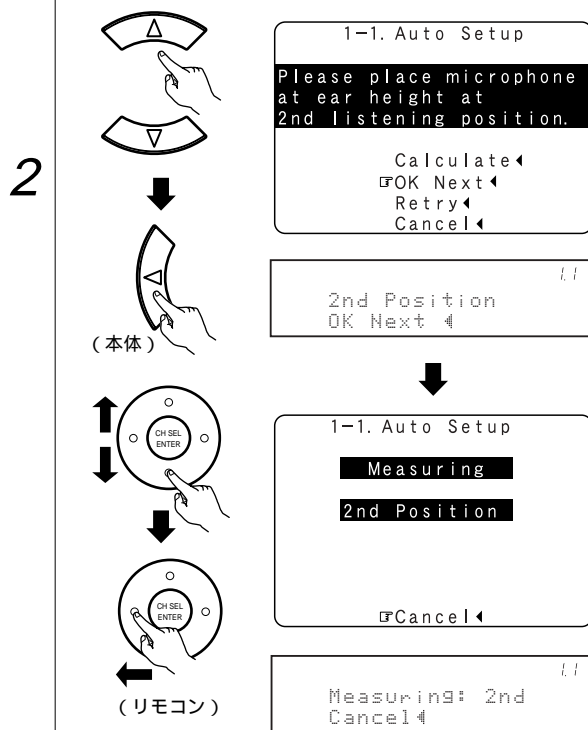
※ マイクを設置する位置について（ ☞ P. 42）（メインリスニングポイントを測定するときと同様に、マイクの受音部分の高さがリスニング時の耳の位置に合うように設置してください。）

② “ OK Next ” を選択し、カーソルレフトボタンを押す。

● 2ポイント目の測定が開始されます。

3

操作2 を繰り返しおこなう。

※ メインリスニングポイントと、その周囲を合わせて最低6ヵ所の測定をおこなってください。また、最大8ポイントまでの測定が可能です。

ご注意

● これ以降の測定は、初期測定でスピーカーが接続されていないと判定されたスピーカーからはテストトーンは出力されません。初期測定後、本測定をおこなうまでにスピーカーの接続を変更したり、サブウーハーのボリウムを変更したりしないでください。

4

必要なポイント数を測定し終えたら、
“Calculate（カルキュレイト）”を選択し、
カーソルレフトボタンを押す。

- スピーカーシステムの解析がおこなわれます。
- 計算が終了すると測定結果の確認画面が表示されます。

4 つづき

※ 解析時間は接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。
例えば9.1chシステム（サラウンドA+B接続時）で6ポイント測定をおこなった場合、解析に約6分程度かかります。

※ 測定ポイント数が5ヵ所以下でも測定を終了することができますが、より良い結果を得るためには**6ヵ所以上**の測定を推奨します。

V. 測定結果とメモリーについて

★ 自動測定が終了するとスピーカーシステムの測定結果の確認画面が表示されます。測定結果の内容を確認し記憶させてください。

★ イコライザーのパラメーターの確認について（☞ P. 54〜56）

1

確認したい項目を選択する。

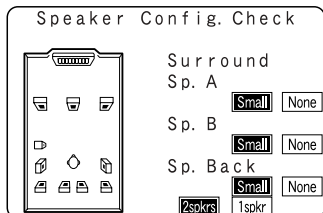
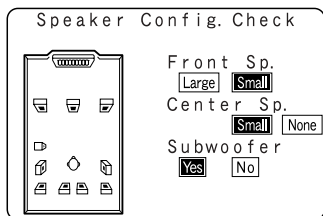
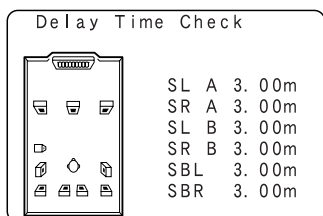
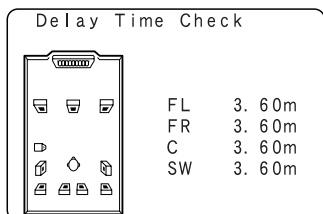
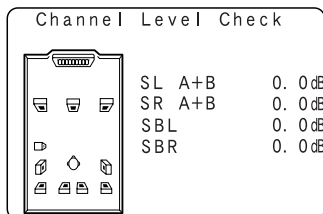
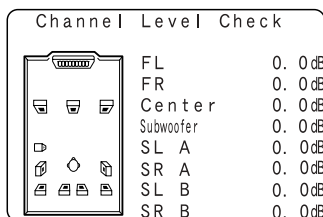
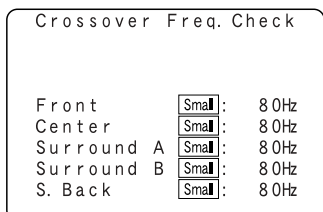
2

エンターボタンを押す。

- 第2画面に切り替えるにはエンターボタンを押します。

（次のページに続きます。）

2 つづき

［スピーカーの種類・有り無しの確認画面］

［ディレイタイムの確認画面］

［チャンネルレベルの確認画面］

［クロスオーバー周波数の確認画面］

※ セットアップマイクを使用して測定した場合、サブウーハーなどのフィルター内蔵スピーカーは、内部の電気的な遅延により実際の距離と異なる値が設定される場合があります。

3

確認が終了したらエンターボタンを押す。

CH SEL ENTER（本体）　CH SEL ENTER（リモコン）

4

確認内容を記憶させるかどうか選択する。

Store　：イコライザーを含むすべてのパラメーターがメモリーされます。（約20秒かかります。）

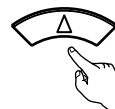
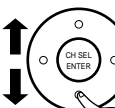
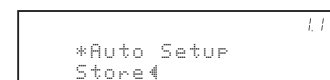
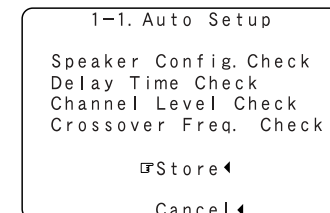
Cancel：オートセットアップの設定を取り消します。

（本体）

（リモコン）

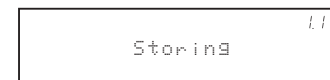
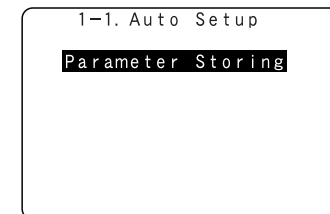
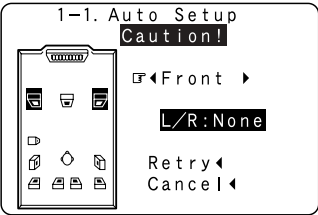
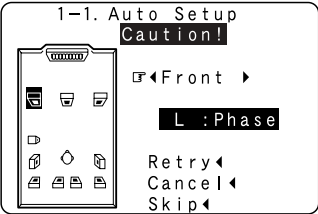
1−1. Auto Setup
Speaker Config. Check
Delay Time Check
Channel Level Check
Crossover Freq. Check
☞Store◀
Cancel◀

*Auto Setup
Store◀

5

“ Store ” を選択した場合

- メモリー完了後は自動的に Auto Setup / Room EQ 画面に切り替わります。

1−1. Auto Setup
Parameter Storing

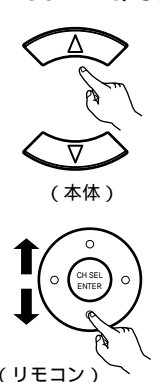
Storing

ご注意

- メモリー中は電源を切らないでください。

■ エラーメッセージについて

オートセットアップ/Room EQ の測定をおこなったとき、スピーカーの配置や測定環境などのために自動測定を完了できなかった場合はエラー画面が表示されます。下記のエラー画面をご確認のうえ、該当する項目を設定して再度測定してください。
なお、スピーカーの接続を確認する際には必ず電源を切ってからおこなってください。

画面例	エラー内容	処置
1−1. Auto Setup Caution! ☞◀Front ▶ L/R:None Retry◀ Cancel◀	① 適切な再生をおこなうために必要なスピーカーが検出されなかった場合 ● フロントLまたはフロントRスピーカーが正しく検出されなかった。 ● サラウンド（A）またはサラウンド（B）スピーカーの片方のチャンネルしか検出されなかった。 ● サラウンドバックスピーカーを1台のみ接続している場合に、Rチャンネルから検出された。 ● サラウンドバックまたはサラウンド（B）スピーカーが検出されて、サラウンド（A）スピーカーが検出されなかった。 ※ 複数のエラーが発生した場合は、左右のカーソルボタンを使用して内容を確認してください。	● 該当するスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞◀Front ▶ L :Phase Retry◀ Cancel◀ Skip◀	② スピーカーの極性が逆に接続されている場合 ※ 複数のエラーが発生した場合は、左右のカーソルボタンを使用して内容を確認してください。	● 該当するスピーカーの極性を確認してください。 ● スピーカーによっては正しく接続されていてもこの画面が表示される場合があります。このような場合には“ Skip◀ ”を選択してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Ambient Noise is Too High or Level is Too Low Retry◀ Cancel◀	③ 部屋の騒音が大きすぎて正確な測定をおこなうことができない場合 または、スピーカーやサブウーハーから出力される音量が小さすぎる場合	● 測定中は騒音を発生する機器の電源を切るか、遠ざけてください。 ● 周囲が静かな時間帯にもう一度やり直してください。 ● スピーカーの配置や向きを確認してください。 ● サブウーハーの音量を調節してください。
1−1. Auto Setup Caution! ☞Microphone:None or Speaker:None Retry◀ Cancel◀	④ 測定用マイクが接続されていない場合 または、すべてのスピーカーが検出されなかった場合	● セットアップマイクジャックに付属のセットアップマイクを接続してください。 ● スピーカーの接続を確認してください。

※ サブウーハーの内部の電気的な遅延や部屋との相互作用により、ディレイタイム測定結果が実際のスピーカー配置と異なる場合があります。同様に部屋との相互作用によりメインスピーカーのディレイタイム測定結果が実際のスピーカー配置と異なる場合があります。このような場合は、THXはディレイタイムをマニュアル設定することを推奨します。

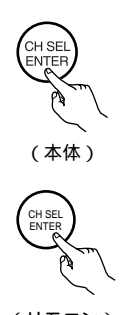
※ THX承認されたメインチャンネル用スピーカーに対するオートセットアップの判定結果が『Small』、『80Hz』とならなかった場合は、『スピーカーの種類・有り無し』および『クロスオーバー周波数』をこの値にマニュアルで設定してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

2 Room EQの設定

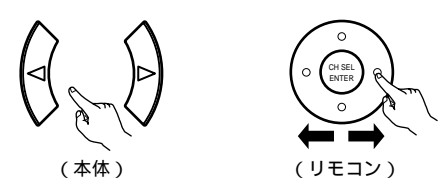
★「オートセットアップの設定」および「マニュアルイコライザーの設定」で、設定されたイコライザーを各サラウンドモードごとに個別設定するか、または一括設定するかを選択することができます。

1

Auto Setup / Room EQ 画面上で"Room EQ Setup"を選択する。

2

エンターボタンを押す。

（リモコン）

```
1−2. Room EQ Setup

  Relation To
  The Surround Mode

   All ◀:▶Assign
```

```
1,2
*Room EQ Setup
SurMode: ALL ▶
```

3

イコライザーの設定方法を選択する。

●"All"または"Assign"のどちらかを反転表示させます。

All　　：すべてのサラウンドモードに対してイコライザーを一括設定します。

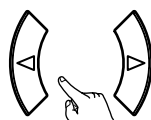
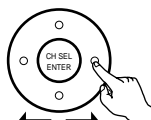
Assign：各サラウンドモードごとにイコライザーを個別設定します。

4

a)"All"を選択した場合

エンターボタンを押す。

4 つづき

設定するイコライザーを選択する。

```
1−2. Room EQ Setup

 Select The EQ Curve

☞Room EQ ◀Audyssey▶
```

```
1,2
*Room EQ Setup
EQ  :◀Audyssey▶
```

OFF：
イコライザーは使用されません。

Audyssey：
お部屋の音響特性を最適な環境に補正するようすべてのスピーカーの周波数特性を調整します。

Front：
各スピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。

Flat：
すべてのスピーカーの周波数特性を均一（フラット）にします。これはドルビーデジタル、DTS、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDのようなマルチチャンネル信号の音楽再生に適しています。

Manual：
「マニュアルイコライザーの設定」（☞ P. 88〜90）で設定されたグラフィックイコライザーを使用し、各スピーカーの特性を調整します。

b)"Assign"を選択した場合

設定終了後、本体またはリモコンのROOM EQボタンを押してお好みのイコライザーを選択する。（ここでは設定はおこないません。）

- 各サラウンドモードごとにイコライザーを記憶することができます。
- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

ROOM EQ（本体）　EQ（リモコン）

→OFF→Audyssey→Front→Manual→Flat→（OFFに戻る）

5

エンターボタンを押す。

- Auto Setup / Room EQ 画面に戻ります。

（リモコン）

ご注意

- 『Audyssey』、『Front』および『Flat』のイコライザーはオートセットアップを実行した後に選択可能となります。
- 自動測定で『なし（None）』と判定されたスピーカーを手動で『あり』に切り替えた場合は、『Audyssey』、『Front』および『Flat』のイコライザーは選択できなくなります。
- ヘッドホンを接続している場合はイコライザーの設定は『OFF』になります。

システムセットアップのしかた（つづき）

3 ダイレクトモード時のイコライザーの設定

★ サラウンドモードがDIRECTモードまたはPURE DIRECTモードのとき、Room EQ を使用するかどうかの切り替えができます。

4 マイク入力ジャックの選択

★ オートセットアップの測定時に、付属品以外のマイクを使用する場合は、本設定をおこなってください。

★ 本製品に付属されているマイクはオートセットアップ用に設計された測定用マイクです。
通常は “ Mic ” を選択して、付属のマイクをミニジャック（SETUP MIC）に接続してください。
測定用の高性能コンデンサマイクを別途用意してオートセットアップをおこなう場合は、“ V. AUX L ” を選択し、本機のフロントパネルのピンジャック（V. AUX Lch）に接続してください。

※ 付属のマイク以外をご使用になる場合は、お客様相談センターにお問い合わせください。

5 オートセットアップのパラメーターの確認と再設定

★ オートセットアップの測定結果を確認することができます。また、イコライザーのパラメーターもここで確認することができます。

★ オートセットアップの測定結果を確定した後に設定を変更した場合でも、再度オートセットアップの結果を設定することができます。

※"EQ Parameter Check" 以外の各確認画面について（☞ P. 50）

8 **エンターボタンを押す。**

（本体）

（リモコン）

EQ Check
–Audyssey–　☞Next◀▶
Exit
Front L　Front R

EQ Chk Audyssey
FL/FR　:Next◀▶

9 **確認したいチャンネルに切り替える。**

（本体）　（リモコン）

10 **確認が終了したら “Exit（エクジット）” を選択し、エンターボタンを押す。**

● EQ（イコライザー） Parameter（パラメーター） Check（チェック） 画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

EQ Check
–Audyssey–　Next◀▶
☞Exit
SurroundBack L　SurroundBack R

EQ Chk Audyssey
Exit

11 **“Exit（エクジット）” を選択し、エンターボタンを押す。**

● Parameter（パラメーター） Check（チェック） 画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

12 **［再設定について］**

再度設定したい場合は、“Restore” を選択し、カーソルレフトボタンを押す。

（本体）

（リモコン）

（次のページに続きます。）

13

“Exit” を選択し、
エンターボタンを押す。

● Auto Setup / Room EQ 画面に戻ります。

14

“Exit” を選択し、
エンターボタンを押す。

● System Setup Menu 画面に戻ります。

(2) スピーカーシステムの設定

★ スピーカーシステムを手動で設定する場合または、オートセットアップで設定された内容を変更する場合に設定してください。

1

System Setup Menu 画面上で
“Speaker Setup” を選択する。

2

エンターボタンを押す。

1 スピーカーの種類・有り無しの設定

★ 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。
★ 本機のサラウンド機能を有効にお使いいただくために、「スピーカーのセットアップについて」（☞ P. 154〜158）も合わせてお読みください。

ご注意

● Large/Smallの選択は、スピーカーの外形で判断せずに「クロスオーバー周波数」（☞ P. 63、64）で設定した周波数を基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で『Small』に設定した場合と『Large』に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

パラメーターについて

Large（ラージ）：
「クロスオーバー周波数」（☞ P. 63、64）で設定した周波数以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

Small（スモール）：
「クロスオーバー周波数」（☞ P. 63、64）で設定した周波数以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。この設定をおこなった場合、設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

None（ノーン）：
スピーカーを設置していないときに選択します。

Yes（イエス） / No（ノー）：
サブウーハーを設置しているときには『Yes』、設置していないときには『No』を選択します。

2spkrs（スピーカーズ） / 1spkr（スピーカー）：
サラウンドバックに使用するスピーカーの数を選択します。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センターおよびサラウンドの各スピーカーの設定を『Small』にしても良好な音場再生を得ることができます。
※ フロントスピーカーを『Small』に設定すると自動的にサブウーハーは『Yes』に設定され、サブウーハーを『No』に設定すると自動的にフロントスピーカーは『Large』に設定されます。

2 サブウーハーモードの設定

★ 低音域信号を再生するサブウーハー、スピーカーを選択します。

サブウーハーモードについて

- **サブウーハーモードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサブウーハーを『Yes』に設定した場合に有効です。**
- 『LFE −THX−』再生モードを選択すると、入力信号がアナログ信号やLFE信号が含まれていないPCM信号の場合、低音域信号はサブウーハーから出力されません。常にサブウーハーチャンネルから低音域信号を再生したい場合は、『LFE＋Main』再生モードを選択してください。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選択してください。

3 ディレイタイムの設定

★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。
★ サラウンドスピーカーA、Bそれぞれの使用時のディレイタイムの設定が可能です。
★ THXウルトラ2シネマモード、THXミュージックモードおよびTHXゲームズモードをお楽しみいただく場合には、サラウンドバックスピーカーは2台必要です。リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離がL、R等距離になるように置いてください。また、FL/FR、SL/SR、SBL/SBRはそれぞれのLとRのリスニングポジションからの距離の差が60cm以下になるように設置することを推奨します。

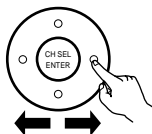
準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（右図のL1〜L11）を測定します。

（次のページに続きます。）

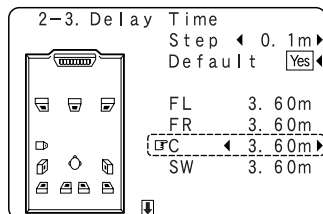
5

［例］センタースピーカーとリスニングポジションとの距離を設定する。

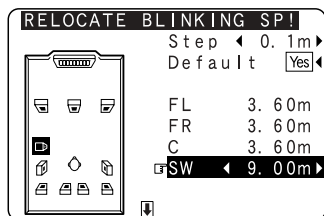
- ボタンを押すたびに数値が0.1m（1ft）単位または0.01m（0.1ft）単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択します。

（本体）

（リモコン）

【例】センタースピーカーを選択して、距離（L1）を3.6mに設定した場合

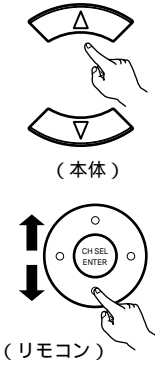
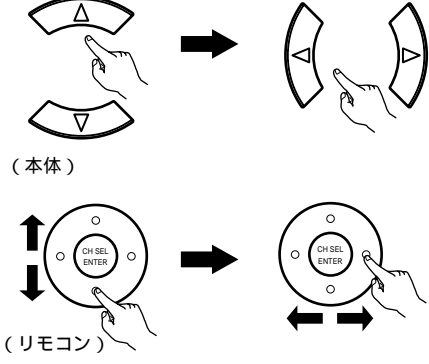
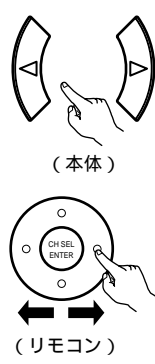
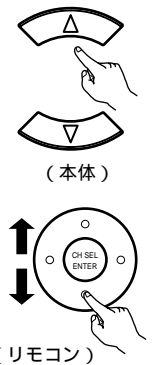
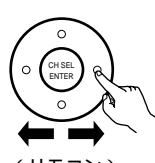
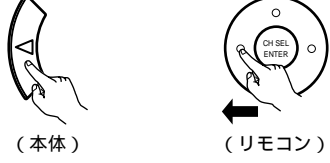
```
2−3. Delay Time
         Step ◀ 0. 1m▶
         Default   Yes◀

         FL      3. 60m
         FR      3. 60m
         C    ◀  3. 60m▶
         SW      3. 60m
```

※ Default（デフォルト）“ Yes ” を選択し、カーソルレフトボタンを押すと初期設定値に戻ります。

各スピーカーに設定した距離の差はどれも6.0m（20ft）以下でなければなりません。不適切な距離を設定すると下図のような注意（CAUTION）が表示されます。この場合、点滅しているスピーカーの距離は反転表示された値より大きく設定することができませんので、該当のスピーカーを表示の値の位置に移動してください。

6

エンターボタンを押す。

- Speaker Setup（スピーカー セットアップ）画面に戻り、自動的にリスニングルームに最適なサラウンドのディレイタイムを設定します。

（本体）

CH SEL ENTER

（リモコン）

4 チャンネルレベルの設定

★ 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。
★ リスニングポジションで各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。
★ サラウンドスピーカーA、Bともに使用する場合は、それぞれの使用時の再生レベルも調整できます。

1 **Speaker Setup 画面上で “ Channel Level ” を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

3 **Test Tone モードを選択する。**

●“ Auto ” または “ Manual ” のどちらかを反転表示させます。

Auto：
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

Manual：
テストトーンを出力させたいスピーカーを選択してレベルを調整します。
最初の設定は『Manual』でおこなうと詳細な設定ができます。

【例】『Auto』モードを選択した場合

4 **“ Surr. Sp. ” を選択し、テストトーンを出力させたいサラウンドスピーカー（A、B、A＋B）を選択する。**

Surr. Sp.：A
サラウンドスピーカーAを使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

Surr. Sp.：B
サラウンドスピーカーBを使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

Surr. Sp.：A＋B
サラウンドスピーカーA、B同時に使用した場合の各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整します。

※ “ Surr. Sp. ” の選択は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）にて、サラウンドスピーカーA、Bをともに選択した場合、（A、Bともに “ Large ” または “ Small ” に設定した場合）のみおこなえます。

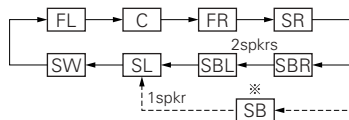
5 **“ Test Tone Start ” を選択する。**

6 **“ Yes ” を選択する。**

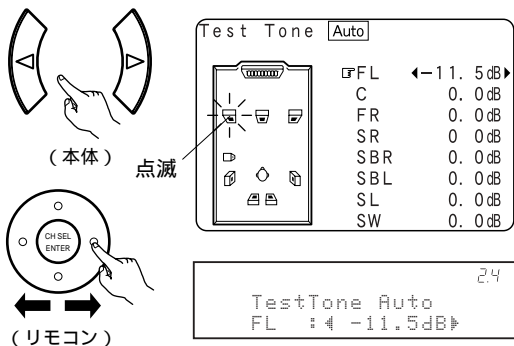
（次のページに続きます。）

7

a)『Auto』モードを選択した場合

● 下記の順序で2周目までは4秒間隔、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドバックスピーカーを『1 spkr』に設定した場合はSBとなります。

各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聞こえるように調整する。

● 音量は−12dB～＋12dBの範囲で、0.5dB単位で調整できます。

b)『Manual』モードを選択した場合

テストトーンを出力させたいスピーカーをカーソルアップまたはダウンで選択する。その後、カーソルレフトまたはライトボタンを押して各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように調整する。

【例】『Manual』モードを選択した場合

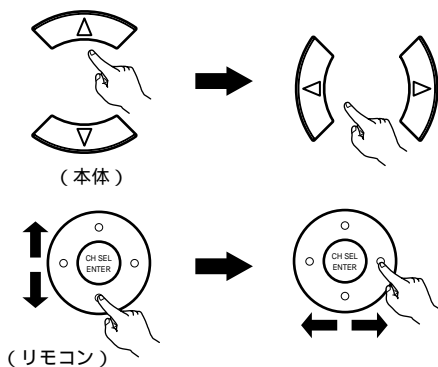
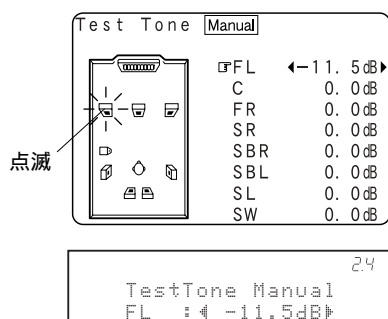
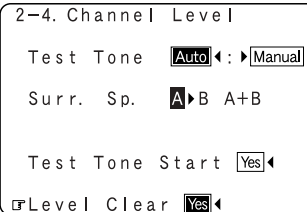
Test Tone Manual
☞FL ◂−11. 5dB▸
C 0. 0dB
FR 0. 0dB
SR 0. 0dB
SBR 0. 0dB
SBL 0. 0dB
SL 0. 0dB
SW 0. 0dB

点滅

2.4
TestTone Manual
FL :◂ -11.5dB▸

8

エンターボタンを押す。

● Channel Level 画面に戻ります。

※ **設定を取り消す場合**は、カーソルダウンボタンを押して “ Level Clear ” を選択し、さらにカーソルレフトボタンを押して “ Yes ” を選択してください。

※ チャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
チャンネルレベル設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調整する場合は（☞ P. 108）の操作をおこなってください。

※ サラウンドスピーカーA、B（Surr. SP. A, B）をそれぞれ使用する場合、またはサラウンドスピーカーA、B同時に使用（Surr. SP. A＋B）する場合は、必ず “ Surr. SP. ” のA、B、A+Bそれぞれの選択において各チャンネル間の再生レベルのバランスを調整してください。

5 クロスオーバー周波数

★ 各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。

1 **Speaker Setup 画面上で“ Crossover Frequency ”を選択する。**

（本体）

（リモコン）

2 **エンターボタンを押す。**

（本体）

（リモコン）

3 **クロスオーバー周波数を選択する。**

Fixed ーTHXー：
THX規格の80Hzのクロスオーバー周波数に設定されます。

Variable 40, 60, 80, 90, 100, 110, 120, 150, 200, 250Hz：
お手持ちのスピーカーシステムの低域の再生能力に合わせてお好みで設定してください。

Advanced：
各スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定することができます。（☞ P. 64）

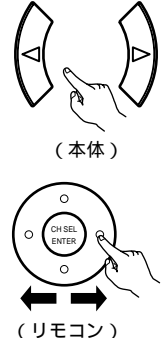
（本体）　（リモコン）

4 **エンターボタンを押す。**

- Speaker Setup 画面に戻ります。

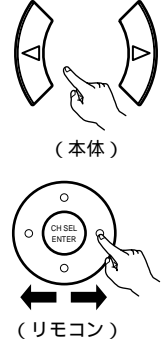
クロスオーバー周波数について

- **クロスオーバー周波数モードの設定は「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサブウーハーを『Yes』または『Small』に設定したスピーカーがある場合のみ有効です。**
- 各スピーカーからの低音域をサブウーハーまたは『Large』に設定しているスピーカー（サブウーハーを使用しない場合のみ）から何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
- 『Small』に設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーまたは『Large』に設定しているスピーカーから出力します。
- 「サブウーハーモードの設定」（☞ P. 58）で『LFE＋Main』再生モードを設定した場合、画面右上に“ SW：LFE＋Main ”と表示されます。

ご注意：

- 一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

■ クロスオーバー周波数の個別チャンネルごとの設定

1 Crossover Frequency（クロスオーバー フレクエンシー）画面上で"Advanced（アドバンスド）"を選択する。

2 周波数を設定したいスピーカーを選択する。

3 クロスオーバー周波数を選択する。

※「サブウーハーモードの設定」（☞ P. 58）で『LFE −THX−』再生モードが設定されているときは、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）で『Small』に設定したスピーカーのみ周波数の設定をおこなうことができます。

※「サブウーハーモードの設定」（☞ P. 58）で『LFE＋Main』再生モードが設定されているときは、スピーカーの大きさの設定にかかわらず、周波数の設定をおこなうことができます。

6 各サラウンドモードごとのサラウンドスピーカーの選択

★「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドスピーカーをA、Bともに使用した場合に、各サラウンドモードで使用したいサラウンドスピーカーを、あらかじめ記憶させておくことができます。

※ **サラウンドスピーカーをA＋Bで使用時のスピーカー種類の設定**
サラウンドスピーカーAまたはBのどちらかが“Small”に設定されている場合は、A、Bともに“Small”設定時と同じ出力が再生されます。

※ DSP SIMULATIONの中で『WIDE SCREEN』および『7CH STEREO』については、サラウンドスピーカーを個別に設定できます。

※入力モードを外部入力（EXT.IN）に設定しているときのサラウンドスピーカーの選択については、「外部入力端子の設定」（☞ P. 70）で設定してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

7-1 THX Ultra2規格対応サブウーハーの使用についての設定

★ THX Ultra2規格対応のサブウーハーを使用する場合、サブウーハーの周波数特性を設定します。

4 THX Ultra2規格対応または20Hzまでの信号を十分に再生できるサブウーハーを使用している場合は " Yes "、そうでない場合は " No " を選択する。

（本体）

（リモコン）

```
2–7. THX Audio Setup
 Do You Have
☞A THX Ultra2 Subwoofer
 (Or Sub That
  Extends To 20Hz)?
     Yes ◀ : ▶ No
```

```
2.7
Boundary Gain
THX U2 SW:◀ No
```

※ " Yes " を選択した場合は
" Boundary Gain Compensation "を選択して、補正を『OFF』することもできます。

※ 低音域の量感が過多になるときには
" Boundary Gain Compensation " を『ON』に設定します。55Hz以下の低音域をカットする回路が動作しますので、再生音の低音域の量感でお好みに応じて選択してください。

（本体）

（リモコン）

```
2–7. THX Audio Setup
 Do You Have
☞A THX Ultra2 Subwoofer
 (Or Sub That
  Extends To 20Hz)?
     Yes ◀ : ▶ No

 Boundary Gain
 Compensation
     ON ◀ : ▶ OFF
```

```
2.7
Boundary Gain
THX U2 SW: Yes▶
```

5 エンターボタンを押す。

● THX Audio Setup 画面に戻ります。

（本体）　（リモコン）

システムセットアップのしかた（つづき）

7-2 サラウンドバックスピーカーの設定

★**「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）で、サラウンドバックスピーカーを2台使用した場合にスピーカーの距離を設定します。『1spkr』に設定した場合は表示されません。**
★THXサラウンドEX、ウルトラ2シネマ、THXミュージックモードおよびTHXゲームズモードを最適に再生するために必要な設定です。2台のスピーカーを可能な限り接近させて設置することを推奨します。

(3) 音声入力に関する設定

1 **System Setup Menu 画面上で "Audio Input Setup" を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

1 デジタル入力の設定

★ 本機のデジタル入力端子を入力ソースに対して割り当てます。

1 **Audio Input Setup 画面上で "Digital In Assign" を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

3 **入力ソースに割り当てたいデジタル入力端子を選択する。**

※ COAX1～3およびOPT1～5から選択してください。
※「HDMI/DVI入力の設定」（☞ P. 76、77）でHDMI入力を入力ソースに割り当てている場合、HDMI入力端子が表示されます。
※「IEEE1394入力の設定」（☞ P. 74）でIEEE1394接続機器に入力シースを割り当てている場合、デジタル入力端子の設定は『OFF』に切り替わります。
※ Default "Yes" を選択し、カーソルレフトボタンを押すと工場出荷時の初期設定（☞ P. 38）に戻ります。

4 **エンターボタンを押す。**

● Audio Input Setup 画面に戻ります。

（本体）　（リモコン）

ご注意

● 本機リアパネルのOPTICAL 2/3/4入力端子はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用に光デジタル出力端子を備えていますので、デジタル録音の際にご利用ください。
● PHONOはデジタル入力の設定では選択できません。

システムセットアップのしかた（つづき）

■ DENON LINKの設定

★ DENON製DVDプレーヤーとDENON LINK接続した場合は、入力ソースにDENON LINK端子を割り当てる必要があります。

1

DENON LINKを割り当てたい入力ソースを選択する。

◎ 入力ソースの選択

（本体）

（リモコン）

◎“ DLINK ” の選択

（本体）　（リモコン）

2

本機とDVDプレーヤーの接続を EXT. IN端子、アナログ端子またはIEEE1394端子（IEEE1394接続時のみ）のいずれかに設定する。

※ DENON LINK再生できないソースの場合は、設定した入力端子で自動的に再生します。

◎“ DLINK No Signal ” の選択

（本体）

（リモコン）

◎ 入力端子の選択

（本体）　（リモコン）

2 外部入力（EXT. IN）端子の設定

★ EXT. IN端子に接続されたアナログ入力信号の再生方法を設定します。

1

Audio Input Setup 画面上で
“ EXT. IN Setup ” を選択する。

2

エンターボタンを押す。

3

設定したい項目およびパラメーターを選択する。

Surr.Sp :
EXT.INモードで使用したいサラウンドスピーカーをあらかじめ設定します。使用するプレーヤーのサラウンドチャンネルの仕様に合わせて選択します。プレーヤーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

- **A**
  サラウンドAチャンネルに接続する場合に選択します。
- **B**
  サラウンドBチャンネルに接続する場合に選択します。
- **A＋B**
  サラウンドA、Bチャンネル両方に接続する場合に選択します。

SW Level :
EXT.IN端子のサブウーハーに接続されたアナログ信号の再生レベルを設定します。
使用するプレーヤーの仕様に合わせて選択します。プレーヤーの取扱説明書も合わせてご覧ください。
デフォルトの＋15dBを推奨します。
（0、＋5、＋10、＋15dBが選択可能です。）

3 つづき

◎ 項目の選択

◎ パラメーターの選択

4

エンターボタンを押す。

● Audio Input Setup 画面に戻ります。

3 入力ソース間の再生レベルの補正

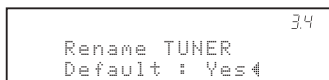
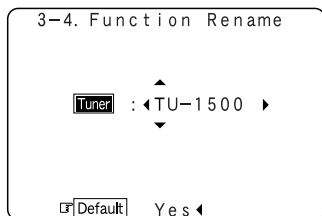
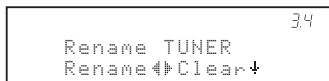
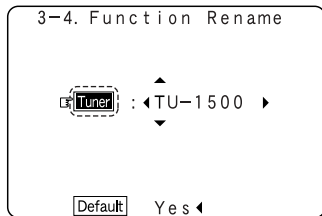
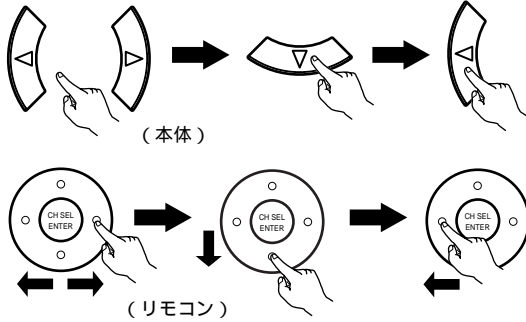
★ 入力ソース間の再生レベルを補正します。
各入力ソースに接続している機器ごとに再生レベルが異なる場合、入力ソースの再生レベルが同じになるように補正することによって、入力ソースを切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。

※ 設定後は、各入力ソース間の再生レベルが同じになっているか確認してください。

4 入力ソース名の変更

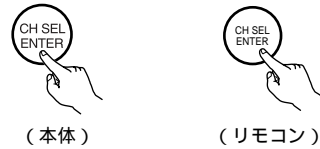
★ フロントディスプレイやオンスクリーンディスプレイに表示される入力ソース名を変更することができます。
各入力ソースに接続された機器名やメーカー名などを入力することができます。

6 つづき

※ **入力ソース名を初期状態に戻したい場合**は、カーソルレフトまたはライトボタンを押して入力ソースを反転表示させ、カーソルダウンボタンを押してください。
Default“ Yes ”を選択し、カーソルレフトボタンを押すと初期の入力ソース名に戻ります。

7 **操作5、6 を繰り返して、入力ソース名を入力する。**

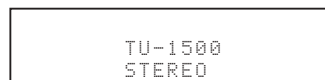
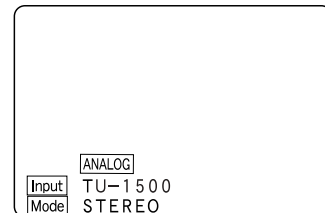
8 **決定したらエンターボタンを押す。**

● Function Rename 画面に戻ります。

※ その他の入力ソース名の変更も同じようにおこなってください。

9 **エンターボタンを押す。**

● Audio Input Setup 画面に戻ります。

※ 入力ソースが選択されたときにフロントディスプレイおよびオンスクリーンディスプレイは下記のように表示されます。

【例】入力ソース名を『TU-1500』に変更した場合

システムセットアップのしかた（つづき）

5 IEEE1394入力の設定

★ IEEE1394で接続した音声再生機器に、入力ソースを割り当てて使用します。あらかじめ接続する機器側の電源も入れておく必要があります。

1 **Audio Input Setup 画面上で "IEEE1394 Assign" を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

3 **接続機器に割り当てたい入力ソースを選択する。**

◎ 接続機器の選択

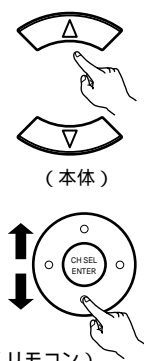
◎ 入力ソースの選択

4 **エンターボタンを押す。**

● Audio Input Setup 画面に戻ります。

※ **IEEE1394で接続した機器に入力ソースを割り当てない場合**には、本体の入力ファンクション切り替えつまみを回すことでIEEE1394入力を選択できます。
この場合には、接続した機器や本機の電源を切ると接続情報が失われますので、再度IEEE1394入力の選択操作が必要となります。

表示について

- IEEE1394機器と現在接続されておらず、またIEEE1394機器との接続履歴がなかった場合には" No Connection "と表示されます。
- 当画面表示中にIEEE1394の接続状況が変化した場合は " Connection Change " と表示されます。
- 接続したIEEE1394機器からモデル名が取得できない場合は " UNKNOWN " と表示されます。
- 音声再生機器以外のIEEE1394機器に接続した場合は " Not Play " と表示されます。
この場合、入力ソースを割り当てることはできません。

6 IEEE1394機器の自動再生

★ IEEE1394接続機器を割り当てている入力ソースを選択したときに、その機器を自動再生するかどうかを設定します。

（4）映像に関する設定

1 **System Setup Menu 画面上で**
“ Video Setup ” を選択する。

2 **エンターボタンを押す。**

1 HDMI/DVI入力の設定

★ 本機のHDMI入力端子およびDVI-D入力端子を各入力ソースに対して割り当てます。
★ HDMI入力信号に含まれる音声信号の再生方法を設定します。

1 **Video Setup 画面上で**
“ HDMI/DVI In Assign ” を選択する。

2 **エンターボタンを押す。**

3 **割り当てたいHDMI入力端子**
またはDVI-D入力端子を選択する。

◎ 入力ソースの選択

◎ 入力端子の選択

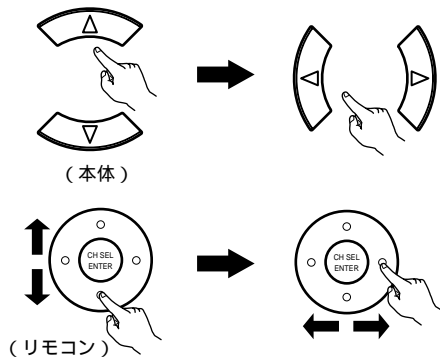
※ HDMI1〜3およびDVI-Dから選択してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

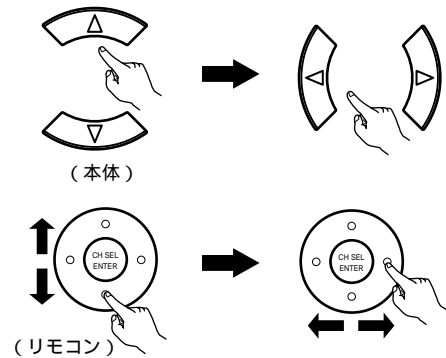
4

HDMI入力に含まれる音声信号の再生方法を設定する。

AMP：
本機に接続されたスピーカーシステムで音声信号を再生します。

TV：
本機のモニターアウト端子に接続されたモニターTVで音声信号を再生します。

5

本機とHDMI接続機器のアナログ接続をEXT. IN端子またはアナログ端子のどちらに設定するかを選択する。

※ 音声再生できないソースの場合は、設定したアナログ端子で自動的に再生します。
※ 1〜3はそれぞれHDMI1〜3入力端子に対応しています。

6

エンターボタンを押す。

● Video Setup（ビデオ セットアップ） 画面に戻ります。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とモニター間を接続してもモニターがHDMI音声の再生に対応していない場合には、本機からは映像信号だけがモニターに対して出力されます（DVIモード）。
  HDMI信号の出力モード（HDMIモード/DVIモード）はステータスボタンで確認することができます。
- アナログ端子、デジタル端子およびEXT.IN端子から入力された音声信号はモニターに出力されません。
- HDMIでは映像と音声信号が同時に転送されます。HDMIを入力ソースに割り当てると、映像とともにデジタル音声入力の割り当てもHDMIに切り替わります。DENON LINKやIEEE1394等のデジタル音声入力をあらかじめ割り当てた入力ソースに対して後から本設定をおこなった場合は、デジタル音声の割り当てがHDMIになります。この場合は、「デジタル入力の設定」（☞ P. 72）および「IEEE1394入力の設定」（☞ P. 74）にてご使用になるデジタル入力を再度割り当ててください。

2 コンポーネント（D端子、Y・PB/CB・PR/CR）ビデオ入力の設定

★ 入力ソースの音声信号に本機のコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。

1 Video Setup 画面上で " Component In Assign " を選択する。

2 エンターボタンを押す。

3 入力ソースに割り当てたいコンポーネントビデオ入力端子を選択する。

◎ 入力ソースの選択

◎ コンポーネントビデオ端子の選択

※ 1−RCAおよび2−D〜4−Dから選択してください。

※ Default " Yes " を選択し、カーソルレフトボタンを押すと工場出荷時の初期設定に戻ります。（☞ P. 39）

4 エンターボタンを押す。

● Video Setup 画面に戻ります。

ご注意

● コンポーネントビデオ入力端子に入力される信号は、コンポーネントビデオモニターアウトのD5端子、コンポーネント（ピンジャック）端子（Y・PB/CB・PR/CR）から同時に出力されます。
コンポーネントビデオモニターアウト端子は、お手持ちの機器に合わせて接続してください。

3 ビデオコンバートモードの設定

★ ビデオモニターアウト端子に出力する入力信号を選択します。

1 **Video Setup 画面上で “Video Convert Mode” を選択する。**

（本体）（リモコン）

2 **エンターボタンを押す。**

（本体）（リモコン）

3 **コンバートモードを選択する。**

◎ 入力ソースの選択

（本体）（リモコン）

◎ モードの選択

（本体）（リモコン）

3 つづき

AUTO：
複数の入力信号がある場合に、入力信号を検出してコンポーネント、S、ビデオの中から自動的にモニターアウト端子に出力する入力信号を選択します。

Component：
常にコンポーネントビデオ入力端子に接続された信号を再生します。
ビデオおよびSビデオモニターアウト端子にはコンポーネントビデオ入力信号がダウンコンバートされて出力されます。
コンポーネントビデオ入力端子に入力信号がない場合には、コンポーネントビデオモニターアウト端子に映像信号は出力されません。
「コンポーネントビデオ入力の設定」（☞ P. 78）でコンポーネントビデオ入力端子を設定した場合に選択できます。

S-Video：
常にSビデオ入力端子に接続された信号を再生します。
ビデオおよびコンポーネントビデオモニターアウト端子にはSビデオ入力信号がコンバートされて出力されます。

Video：
常にビデオ入力端子に接続された信号を再生します。
Sおよびコンポーネントビデオモニターアウト端子にはビデオ入力信号がアップコンバートされて出力されます。

OFF：
ビデオコンバージョン機能は動作しません。
ビデオ入力信号はビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。
Sビデオ入力信号はSビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。
コンポーネントビデオ入力信号はコンポーネントビデオモニターアウト端子にのみ出力されます。

4 **エンターボタンを押す。**

● Video Setup 画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

ご注意

● ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。
このようなときはコンバートモードを『OFF』に設定してください。
● ビデオコンバージョン機能を使用した場合、映像信号に付加される文字放送などの情報が出力されない場合があります。このようなときはコンバートモードを『OFF』に設定してください。
● 入力されたコンポーネントビデオ信号の解像度が480i/576i以外のときは、コンポーネントビデオ信号からSおよびビデオ信号へのダウンコンバートはできませんので、コンポーネントビデオモニターアウト端子を使用しない場合は、Sまたはビデオ入力端子で再生機器と接続してください。
詳しくは「ビデオコンバージョン機能について」（☞ P. 16）をご覧ください。

システムセットアップのしかた（つづき）

4 HDMIコンバート出力の設定

★ アナログビデオ信号からHDMIへのアップコンバージョン機能を使用するかどうかを設定します。
★ このコンバージョン機能を使用する場合のHDMI端子から出力される信号のカラー形式および映像レンジの設定をします。

Normal：
HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を16（黒）〜235（白）で出力します。

Enhanced：
HDMIのデジタルRGB映像レンジ（データ範囲）を0（黒）〜255（白）で出力します。
HDMI/DVI-D接続時にご使用のTVやモニターによっては、黒色が浮くような場合があります。このような場合は本モードをご使用ください。

6 エンターボタンを押す。

● Video Setup 画面に戻ります。

（本体） （リモコン）

ご注意

- 『Color Space』および『RGB Mode Setup』は『Analog to HDMI Convert』を『ON』に選択した場合に設定可能です。
- HDMI変換ケーブルを使用してDVI-D端子付きモニター（HDCP対応）と接続する場合は、『Color Space』を『Y Cb Cr』、『RGB』のどちらかに設定しても、RGB形式で出力されます。
- 『Color Space』が『Y Cb Cr』設定のときは『RGB Mode Setup』は効果ありません。
- HDMI出力でシステムセットアップのオンスクリーンディスプレイをご覧になる場合は、『Analog to HDMI Convert』を『ON』に設定してください。

■ ビデオコンバートモードの各設定における映像入力信号とモニター出力の関係

ビデオコンバートモード	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
AUTO	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	VIDEO	COMPONENT ＊1	VIDEO	VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT ＊1	COMPONENT ＊1	× ＊3	VIDEO
	×	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT ＊1	COMPONENT ＊1	COMPONENT	VIDEO
	×	○ (1080p)	○	×	S-VIDEO	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	× ＊4
	×	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	COMPONENT ＊4
	×	○ (1080p)	○	○	S-VIDEO	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊4
	×	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊4
	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	○	×	×	○	HDMI ＊1	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	HDMI ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	HDMI ＊2	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	×	×	HDMI	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (480i/576i以外)	×	○	HDMI ＊1	COMPONENT ＊1	× ＊3	VIDEO
	○	○ (480i/576i)	×	○	HDMI ＊1	COMPONENT ＊1	COMPONENT	VIDEO
	○	○ (480i/576i以外)	○	×	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	× ＊4
	○	○ (480i/576i)	○	×	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	COMPONENT ＊4
	○	○ (480i/576i以外)	○	○	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊4
	○	○ (480i/576i)	○	○	HDMI ＊2	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊4

480p ~ 720p : 480p/576p/1080i/720p

ビデオコンバートモード	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
COMPONENT	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	×	×	×	×
	×	×	○	×	×	×	×	×
	×	×	○	○	×	×	×	×
	×	○ (1080p)	×	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	×	○	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	○	×	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	×	○ (1080p)	○	○	×	COMPONENT	×	×
	×	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT	COMPONENT	×	×
	×	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	×	×	×	× ＊5	×	×	×
	○	×	×	○	× ＊5	×	×	×
	○	×	○	×	× ＊5	×	×	×
	○	×	○	○	× ＊5	×	×	×
	○	○ (1080p)	×	×	× ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480p ~ 720p)	×	×	COMPONENT ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	×	×	COMPONENT ＊5	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	×	○	× ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480p ~ 720p)	×	○	COMPONENT ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	×	○	COMPONENT ＊5	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	○	×	× ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480p ~ 720p)	○	×	COMPONENT ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	○	×	COMPONENT ＊5	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT
	○	○ (1080p)	○	○	× ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480p ~ 720p)	○	○	COMPONENT ＊5	COMPONENT	×	×
	○	○ (480i/576i)	○	○	COMPONENT ＊5	COMPONENT	COMPONENT	COMPONENT

480p ~ 720p : 480p/576p/1080i/720p

（次のページに続きます。）

システムセットアップのしかた（つづき）

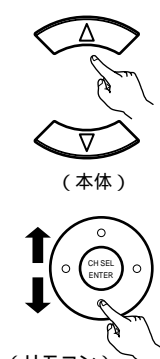
ビデオコンバートモード	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
S-VIDEO	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	×	×	×	×
	×	×	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	×	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○	×	×	×	×	×	×
	×	○	×	○	×	×	×	×
	×	○	○	×	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	×	○	○	○	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	×	×	× ＊5	×	×	×
	○	×	×	○	× ＊5	×	×	×
	○	×	○	×	S-VIDEO ＊5	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	×	○	○	S-VIDEO ＊5	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○	×	×	× ＊5	×	×	×
	○	○	×	○	× ＊5	×	×	×
	○	○	○	×	S-VIDEO ＊5	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO
	○	○	○	○	S-VIDEO ＊5	S-VIDEO	S-VIDEO	S-VIDEO

ビデオコンバートモード	入力信号				モニター出力			
	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
VIDEO	×	×	×	×	×	×	×	×
	×	×	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	×	○	×	×	×	×	×
	×	×	○	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	○	×	×	×	×	×	×
	×	○	×	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	×	○	○	×	×	×	×	×
	×	○	○	○	VIDEO	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	×	×	× ＊5	×	×	×
	○	×	×	○	VIDEO ＊5	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	×	○	×	× ＊5	×	×	×
	○	×	○	○	VIDEO ＊5	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	○	×	×	× ＊5	×	×	×
	○	○	×	○	VIDEO ＊5	VIDEO	VIDEO	VIDEO
	○	○	○	×	× ＊5	×	×	×
	○	○	○	○	VIDEO ＊5	VIDEO	VIDEO	VIDEO

ビデオコンバートモード	S-VIDEOモニターアウト	入力信号				モニター出力			
		HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	COMPONENT	S-VIDEO	VIDEO
OFF	—	×	×	×	×	×	×	×	×
	—	×	×	×	○	×	×	×	VIDEO
	—	×	×	○	×	×	×	S-VIDEO	×
	使用	×	×	○	○	×	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	×	○	○	×	×	—	VIDEO
	—	×	○	×	×	×	COMPONENT	×	×
	—	×	○	×	○	×	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	—	×	○	○	×	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	×	○	○	○	×	COMPONENT ＊1	—	VIDEO
	—	○	×	×	×	HDMI	×	×	×
	—	○	×	×	○	HDMI	×	×	VIDEO
	—	○	×	○	×	HDMI	×	S-VIDEO	×
	使用	○	×	○	○	HDMI	×	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	×	○	○	HDMI	×	—	VIDEO
	—	○	○	×	×	HDMI	COMPONENT	×	×
	—	○	○	×	○	HDMI	COMPONENT ＊1	×	VIDEO
	—	○	○	○	×	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	×
	使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊2	S-VIDEO	VIDEO ＊2
	未使用	○	○	○	○	HDMI	COMPONENT ＊1	—	VIDEO

○：信号あり
×：信号なし

× ：モニター出力しない
＊1 ：OSD表示はVIDEO信号にスーパーインポーズして出力
＊2 ：OSD表示はS-VIDEO信号にスーパーインポーズして出力
＊3 ：" Analog to HDMI convert " 機能を『OFF』に設定しているときはVIDEO信号を出力
＊4 ：" Analog to HDMI convert " 機能を『OFF』に設定しているときはS-VIDEO信号を出力
＊5 ：" Analog to HDMI convert " 機能を『OFF』に設定しているときはHDMI信号を出力
COMPONENT ：システムセットアップ、サラウンドパラメーターおよびオンスクリーンボタン操作時のみOSD表示
HDMI ：" Analog to HDMI convert " 機能を『ON』に設定しているときのみOSD表示
（網掛け） ：" Analog to HDMI convert " 機能を『OFF』に設定しているときはモニター出力しない

※ HDMIにアップコンバートされた信号は入力された解像度のままHDMIモニターに出力されます。
ただし1080pには対応しません。

5 オーディオディレイの調整

★ DVDなどの映像ソフトを視聴しているときに、モニター画面の映像が音声に対して遅れていると感じる場合があります。このような場合にはオーディオディレイを調整し、音声を遅らせることで映像とのタイミングを合わせます。**初期状態でデジタル入力がない場合は表示されません。**
★ オーディオディレイの設定値は現在選択されている入力ソースごとに記憶されます。

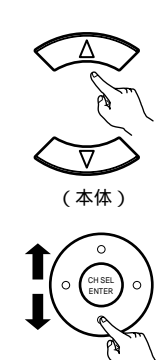
1 **Video Setup 画面上で"Audio Delay"を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

3 **ディレイ時間を設定する。（0ms〜200ms）**
- 映画ソースなどで俳優の口の動きと声の出るタイミングなどを見て調整します。

4 **エンターボタンを押す。**
- Video Setup 画面に戻ります。

ご注意

- コンポーネントビデオ信号に対して本設定をおこなう場合は、ディレイ時間を設定してオンスクリーン表示をオフした後、コンポーネント映像と音声のタイミングが合っているか確認してください。
- EXT. INモード時およびアナログ入力時のDIRECTモードとSTEREOモード（Crossover Frequency＝Fixed －THX－、TONE DEFEAT=ON、Room EQ=OFF設定時）の再生中は、オーディオディレイは効きません。

6 オンスクリーンディスプレイの設定（OSD）

★ メニュー画面以外のオンスクリーンディスプレイ表示の有無を設定します。

1 **"On Screen Display"を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

（次のページに続きます。）

システムセットアップのしかた（つづき）

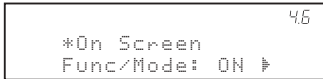
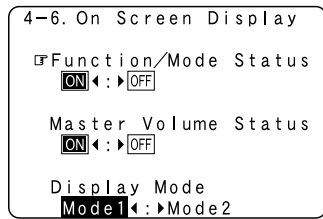
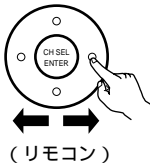
3

入力ソースが選択されたときにオンスクリーンディスプレイを表示する場合は“ ON ”、表示しない場合は“ OFF ”を選択する。

（本体）

（リモコン）

```
4−6. On Screen Display

 ☞Function／Mode Status
   ON ◀：▶ OFF

  Master Volume Status
   ON ◀：▶ OFF

  Display Mode
   Mode1◀：▶Mode2
```

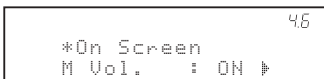
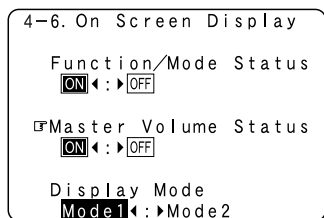
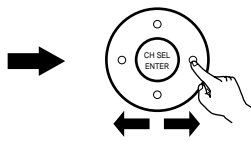
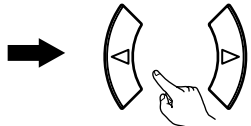
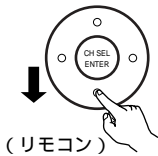
```
                4.6
 *On Screen
 Func/Mode: ON ▶
```

4

主音量が操作されたときにオンスクリーンディスプレイを表示する場合は“ ON ”、表示しない場合は“ OFF ”を選択する。

（本体）

（リモコン）

```
4−6. On Screen Display

  Function／Mode Status
   ON ◀：▶ OFF

 ☞Master Volume Status
   ON ◀：▶ OFF

  Display Mode
   Mode1◀：▶Mode2
```

```
                4.6
 *On Screen
 M Vol.   : ON ▶
```

5

ちらつき防止の設定を選択する。

Mode1：

映像信号がないとき、オンスクリーンディスプレイのちらつきを防止します。

Mode2：

ちらつきの防止はおこないません。
ご使用になるTVの組み合わせにより、Mode1にてオンスクリーンディスプレイが表示されない場合は本モードをご使用ください。

（本体）

（リモコン）

5 つづき

```
4−6. On Screen Display

  Function／Mode Status
   ON ◀：▶ OFF

  Master Volume Status
   ON ◀：▶ OFF

 ☞Display Mode
   Mode1◀：▶Mode2
```

```
                4.6
 *On Screen
 Display: Mode1▶
```

6

エンターボタンを押す。

● Video Setup（ビデオ セットアップ）画面に戻ります。

（本体）　（リモコン）

7

“ Exit（エクジット） ”を選択し エンターボタンを押す。

● System Setup Menu（システム セットアップ メニュー）画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

```
4. Video Setup

 1. HDMI／DVI In Assign
 2. Component In Assign
 3. Video Convert Mode
 4. HDMI Out Setup
 5. Audio Delay
 6. On Screen Display

☞Exit
```

```
                4.0
 *Video Setup
 Exit
```

（5）音声再生に関する設定

1 System Setup Menu 画面上で " Advanced Playback " を選択する。

2 エンターボタンを押す。

1 2チャンネルのDIRECTモードおよびSTEREOモードの設定

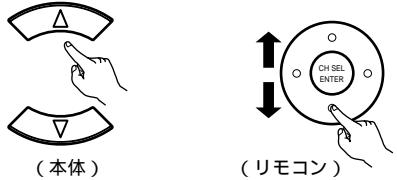
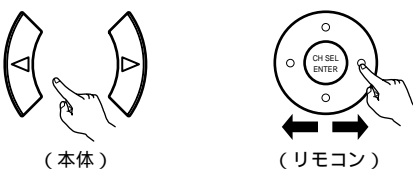
★ 2チャンネルのDIRECTモードおよびSTEREOモードでのスピーカーの設定を変更する場合に設定します。

1 Advanced Playback 画面上で " 2ch Direct/Stereo " を選択する。

2 エンターボタンを押す。

- 「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）、「サブウーハーモードの設定」（☞ P. 58）、「ディレイタイムの設定」（☞ P. 59、60）、「クロスオーバー周波数」（☞ P. 63、64）での設定内容が表示されます。

2 つづき

3 " Custom " を選択します。

（次のページに続きます。）

4 スピーカーの設定を変更する。

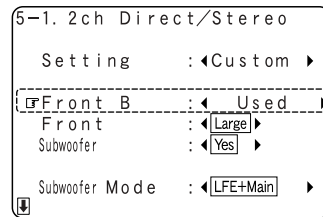
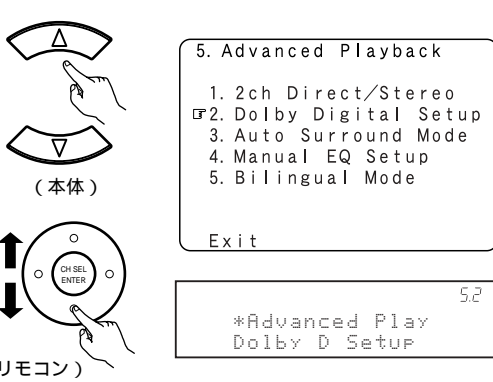
◎ 設定内容の選択

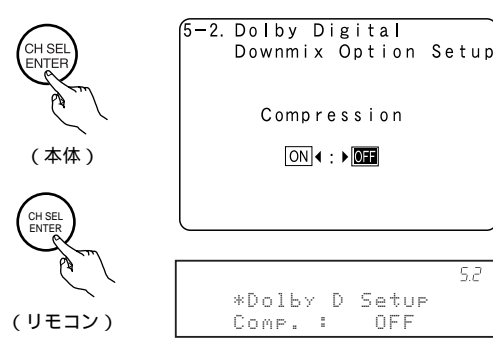
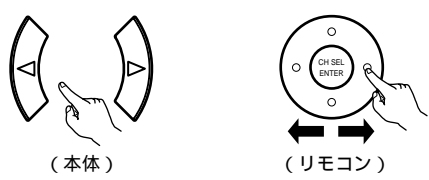
◎ パラメーターの選択

5 エンターボタンを押す。

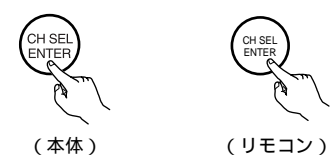
● Advanced Playback 画面に戻ります。

■ フロントBスピーカーの設定について

● フロントBの設定をおこなうと、サラウンド再生用とは別に2チャンネル再生専用のスピーカーを使用することができます。
● 「パワーアンプの割り当ての変更」（ ☞ P. 94、95）でパワーアンプをフロントBに割り当てた後、本設定の『Setting』で『Custom』を選択した場合に『Front B』を選択することができます。
● 2チャンネルのDIRECTモードおよびSTEREOモードで再生するときに、フロントBスピーカーをご使用になる場合は『Front B』を『Used』に選択してください。

2 Dolby Digitalダウンミックスの設定

★ センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合のダウンミックス方法を設定します。

1 Advanced Playback 画面で“ Dolby Digital Setup ”を選択する。

2 エンターボタンを押す。

3 Dolby Digital ダウンミックスの圧縮をする場合は“ ON ”、使用しない場合は“ OFF ”を選択する。

ON：
聴取される平均音量レベルが大きい場合に、フロントスピーカーの再生音がピークレベルで歪んで聞こえるときに選択します。

OFF：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないません。
（通常はこのモードでご使用ください。）

（本体）　（リモコン）

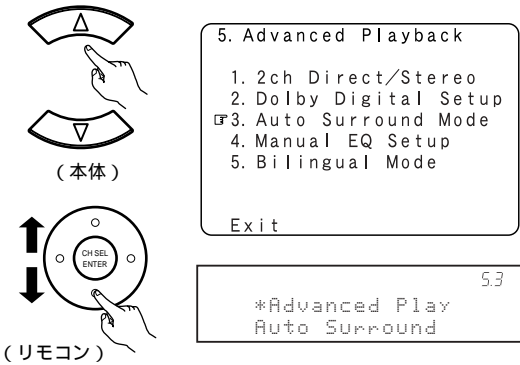
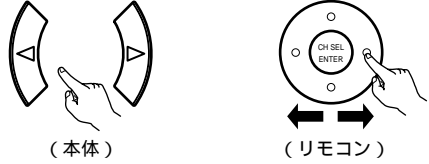
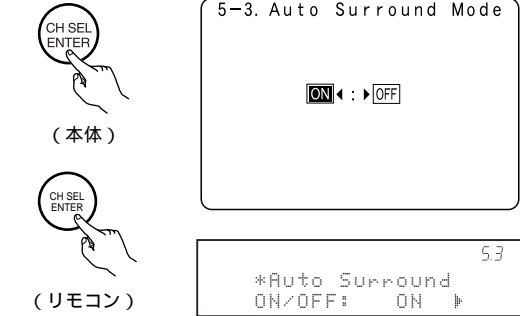
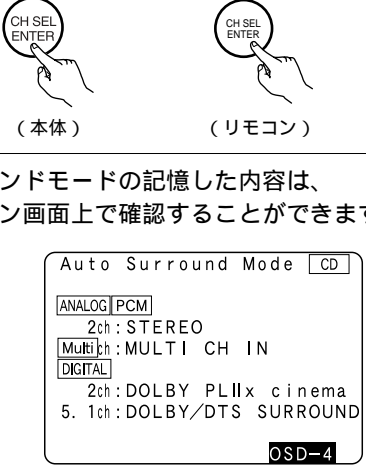
※ センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを使用しない場合、再生音はフロントスピーカーから出力されます。

4 エンターボタンを押す。

● Advanced Playback 画面に戻ります。

（本体）　（リモコン）

3 オートサラウンドモードの設定

★ 下記の4種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号（STEREO）
② ドルビーデジタルやDTSなどの2チャンネル信号（DOLBY PLⅡx cinema）
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号（DOLBY / DTS SURROUND）
④ ドルビーデジタルやDTS以外のPCMおよびDSDのマルチチャンネル信号（MULTI CH IN）
※（　）内は初期設定。
※ PURE DIRECTモードで再生中は入力信号が変化してもサラウンドモードは変わりません。

※ オートサラウンドモードの記憶した内容は、オンスクリーン画面上で確認することができます。

（リモコン）

Auto Surround Mode CD
ANALOG PCM
2ch：STEREO
Multi ch：MULTI CH IN
DIGITAL
2ch：DOLBY PLⅡx cinema
5. 1ch：DOLBY/DTS SURROUND
OSD-4

4 マニュアルイコライザーの設定

★ オートセットアップのRoom EQとは別に、グラフィックイコライザーを使用して音楽などを聞きながら、サブウーハーを除く各スピーカーの音色を手動で合わせることができます。

1 Advanced Playback 画面で “Manual EQ Setup” を選択する。

2 エンターボタンを押す。

3 “Adjust CH” を選択し、エンターボタンを押す。

L/R CH ：ペアで使用されるスピーカーのL/Rチャンネルごと同時にイコライザーを調整します。

Each CH：各チャンネルごとに個別にイコライザーを調整します。

All CH ：すべてのチャンネルに対して同時にイコライザーを調整します。

4 音色を調整するスピーカーを選択する。

- 下記の順序で表示が切り替ります。

a) “L/R CH” を選択した場合

b) “Each CH” を選択した場合

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドバックスピーカーを『1spkr』に設定した場合はSBとなります。

c) “All CH” を選択した場合

スピーカーの選択はおこなわれません。

【例】“L/R CH” を選択した場合

5 調整する周波数を選択する。

- 63Hz、125Hz、250Hz、500Hz、1kHz、2kHz、4kHz、8kHz、16kHzが選択できます。

6 **選択した周波数のレベルを調整する。**

● 各周波数のレベルは－20dB～＋6dBの範囲で、0.5dB単位で調整できます。

（本体）　（リモコン）

7 **エンターボタンを押す。**

● Manual EQ（マニュアル イコライザー）画面に戻ります。

（本体）　（リモコン）

8 **Exit（エクジット）” を選択し、エンターボタンを押す。**

● Advanced Playback（アドバンスド プレイバック）画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

※ Default “ Yes ” を選択し、カーソルレフトボタンを押すと初期設定値に戻ります。

ご注意

●“ Base Curve Copy ” は、オートセットアップを実行している場合に表示されます。

■「オートセットアップ」で設定されたRoom EQの『Flat』の補正カーブをグラフィックイコライザーにコピーして手動調整する方法

1 **Manual EQ 画面上で“ Base Curve Copy ”を選択する。**

2 **カーソルレフトボタンを押す。**

3 **“ Yes ”を選択する。**

4 **エンターボタンを押す。**

● Manual EQ 画面に戻ります。

※ コピーされた補正カーブの種類が画面の右上に表示されます。

5 バイリンガルモードの設定

★ AACソースおよびドルビーデジタルソースの二重音声の出力内容を設定します。

ご注意

● バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては、切り替えても無効です。

AACソースまたはドルビーデジタルソースで二重音声の情報を検出した場合

点灯
●“ MAIN ” 選択時： FL C FR
●“ SUB ” 選択時： FL C FR ← 点灯
●“ MAIN/SUB ” または “ MAIN＋SUB ” 選択時：

※ DTSソースで二重音声を検出した場合は
バイリンガルモードの設定に関わらず、FL FR が点灯します。

（6）その他の設定

★ ここではその他のエキスパート設定をおこないます。

1 **System Setup Menu 画面上で “ Option Setup ” を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

1 再生チャンネルの設定

★ この設定では各ゾーンで再生されるチャンネル数を用途に応じて変更できます。
メインゾーンでサラウンドBスピーカーとサラウンドバックチャンネルを使用するかどうかを設定してください。
ゾーン2およびゾーン3専用のそれぞれのプリアウト端子から出力されるチャンネル数は、各マルチゾーンでの再生方法に応じて『Mono』または『Stereo』を設定することができます。

★ 本設定により「パワーアンプの割り当ての変更」（☞ P. 94）で割り当て可能となるパワーアンプと再生チャンネルの組み合わせが異なります。

1 **Option Setup 画面上で “ Channel Setup ” を選択する。**

2 **エンターボタンを押す。**

3 **ゾーンを選択し、チャンネル数を設定する。（Main、Zone2、Zone3）**

Main Zone（メインゾーン）
Surr. B:

- **Not used**
  サラウンドBチャンネルを使用しない場合に選択します。
- **Used**
  サラウンドBチャンネルを使用する場合に選択します。

3 つづき

S. Back:

- **2sp**
  サラウンドバックチャンネルを2ch（SBL ＆ SBR）使用する場合に選択します。
- **1sp**
  サラウンドバックチャンネルを1ch（SBL）使用する場合に選択します。
- **Not used**
  サラウンドBチャンネルを使用しない場合に選択します。

Zone2（ゾーン2）

Stereo: ゾーン2でステレオ（2ch）再生する場合に選択します。

Mono ： ゾーン2でモノラル（1ch）再生する場合に選択します。

Zone3（ゾーン3）

Stereo: ゾーン3でステレオ（2ch）再生する場合に選択します。

Mono ： ゾーン3でステレオ（1ch）再生する場合に選択します。

※ ゾーン2またはゾーン3で『Mono』を選択した場合は、それぞれ本機リアパネルのZONE2、ZONE3 PRE OUTのL/R端子両方から出力されます。

```
6−1. Channel Setup

 Main Zone
☞Surr. B      ◀Not Used▶
  S. Back     ◀   1sp   ▶

 Zone2        ◀  Mono   ▶
 Zone3        ◀  Mono   ▶
```

4

エンターボタンを押す。

- Option Setup（オプション セットアップ）画面に戻ります。

CH SEL ENTER（本体）　CH SEL ENTER（リモコン）

2 パワーアンプの割り当ての変更

★ 本機のフロントを除いた7チャンネルのパワーアンプは、メインゾーン、ゾーン2およびゾーン3の任意のチャンネルに割り当ててスピーカーに出力することが可能です。
これにより、メインゾーンで使用していないパワーアンプをゾーン2やゾーン3に割り当てたり、フロントスピーカーをバイアンプで接続するなど、あなたの希望するスピーカーシステムの構成に合わせて、スピーカーシステムを組むことができます。

★ パワーアンプを割り当て可能なチャンネルは「再生チャンネルの設定」（☞ P. 92、93）の内容によって異なります。

3 つづき

Center :
センタースピーカーのパワーアンプは「再生チャンネルの設定」でゾーン2またはゾーン3の再生チャンネルを『Mono』に設定している場合に割り当て可能です。

- **ZONE2**
  ゾーン2のモノラル出力はセンタースピーカーから出力されます。
- **ZONE3**
  ゾーン3のモノラル出力はセンタースピーカーから出力されます。
- **- - -**
  センタースピーカーからは信号は出力されません。

Surr.A :
サラウンドAスピーカーのパワーアンプはメインゾーンでサラウンドＢを使用しない設定にしている場合に割り当て可能です。

- **Front**
  フロントチャンネルをサラウンドＡスピーカーから出力して、バイアンプで再生することができます。
- **Front B**
  サラウンドＡスピーカーをフロントＢスピーカーとして使用することができます。
  フロントＢを使用する時の設定方法について（☞ P. 86）
- **ZONE2**
  ゾーン2の出力チャンネルはサラウンドＡスピーカーから出力されます。
  「再生チャンネルの設定」でゾーン2の再生チャンネル数を『Mono』に設定しているときは、ゾーン2のモノラル出力がサラウンドＡスピーカーのＬ/Ｒ端子両方から出力されます。
- **ZONE3**
  ゾーン3の出力チャンネルはサラウンドＡスピーカーから出力されます。
  「再生チャンネルの設定」でゾーン3の再生チャンネル数を『Mono』に設定しているときは、ゾーン3のモノラル出力がサラウンドＡスピーカーのＬ/Ｒ端子両方から出力されます。
- **- - -**
  サラウンドAスピーカーからは信号は出力されません。

システムセットアップのしかた（つづき）

3 つづき

Surr.B :

メインゾーンでサラウンドBスピーカーを使用しておらず、サラウンドAスピーカーをサラウンドAまたはフロントチャンネルに割り当てている場合にサラウンドＢスピーカーは割り当て可能です。

- **Front B**
  サラウンドＢスピーカーをフロントＢスピーカーとして使用することができます。
  フロントＢを使用するときの設定方法について（☞ P. 86）
- **- - -**
  サラウンドＢスピーカーからは信号は出力されません。

S.Back :

メインゾーンで使用するサラウンドバックチャンネルのスピーカー数によって割り当てできるチャンネルが異なります。

- **Front**
  フロントチャンネルをサラウンドバックスピーカーから出力して、バイアンプで再生することができます。
- **Front B**
  サラウンドバックスピーカーをフロントＢスピーカーとして使用することができます。
  フロントＢを使用する時の設定方法について（☞ P. 86）
- **ZONE2**
  ゾーン2の出力チャンネルはサラウンドバックスピーカーから出力されます。
  「再生チャンネルの設定」でゾーン2の再生チャンネル数を『Mono』に設定しているときは、ゾーン2のモノラル出力がサラウンドバックスピーカーのＬ/Ｒ端子両方から出力されます。
- **ZONE3**
  ゾーン3の出力チャンネルはサラウンドバックスピーカーから出力されます。
  「再生チャンネルの設定」でゾーン3の再生チャンネル数を『Mono』に設定しているときは、ゾーン3のモノラル出力がサラウンドバックスピーカーのＬ/Ｒ端子両方から出力されます。
- **SB/Z2**
  ゾーン2モノラル出力はメインゾーンで使用していないサラウンドバックRスピーカーから出力されます。
- **SB/Z3**
  ゾーン3モノラル出力はメインゾーンで使用していないサラウンドバックRスピーカーから出力されます。
- **SB/- - -**
  サラウンドバックRスピーカーからは信号は出力されません。
- **- - -**
  サラウンドバックスピーカーからは信号は出力されません。

3 つづき

※『SB/Z2』,『SB/Z3』および『SB/---』はサラウンドバックスピーカーを『1spkr』に設定しているときのみ選択できます。

※『Z2/Z3』は「再生チャンネルの設定」でゾーン2およびゾーン3の再生チャンネル数をともに『Mono』に設定しているときのみ選択できます。

4

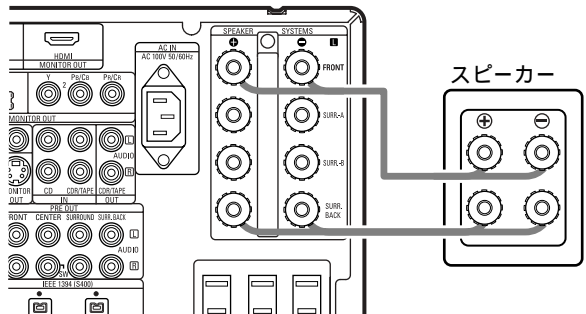
エンターボタンを押す。

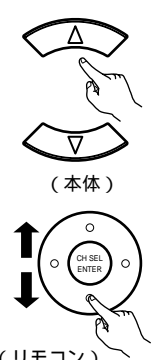
- Option Setup（オプション セットアップ） 画面に戻ります。

（本体）

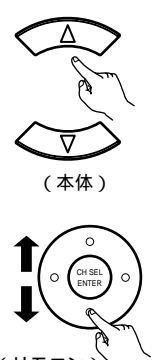
（リモコン）

フロントスピーカーのバイアンプ接続について

- お手持ちのスピーカーがバイアンプ対応の場合、アンプ出力を高音用と低音用に振分け、それぞれスピーカーのウーハー端子とツィーター端子に接続します。
  これによりスピーカーの特性を最大限に活かし、フルレンジのシステムに比べてレンジの広いダイナミックなサウンドを再生することができます。
  接続の際にはスピーカーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

ご注意

- バイアンプで接続する時は、スピーカーに付属されている短絡板は必ずはずしてください。

3 音量の設定

★ 各ゾーンに対して、音量の上限値、電源オン時およびミューティング時の音量の設定をおこないます。

3 つづき

Vol. Limit：音量の上限値を設定します。
- **OFF**
  音量の上限値を設定しないときに選択します。この場合は＋18dBまで音量を上げることができます。
- **-20dB / −10dB / 0dB**
  それぞれ設定されたレベルまで音量を上げることができます。

P. On Lev.：
電源オン時の音量を設定します。
音量は−80dB〜＋18dBの範囲で、1dB単位で設定できます。
- **LAST**
  前回使用していたときの音量が記憶され、電源オン時に設定されます。
- **−−−**
  電源オン時の音量のレベルは常時“ −−− ”（消音）となります。

Mute Lev.：
ミューティング時の音量の減衰量を設定します。
- **FULL**
  音声出力を完全にミュートします。
- **−20dB**
  現在の再生レベルから−20dＢ減衰させて再生します。
- **−40dB**
  現在の再生レベルから−40dＢ減衰させて再生します。

Vol. Lev.：
マルチゾーンのプリアウトの出力レベルを設定します。
- **VAR**
  リモコンのボタンで、自由にレベル調整ができます。
- **−40dB / 0dB**
  それぞれの出力レベルで固定となります。
  この場合、リモコンのボタンで音量の調整はできません。

4 **エンターボタンを押す。**
- Option Setup 画面に戻ります。

ご注意

- ゾーン2およびゾーン3の『Vol. Limit』および『P. On Lev.』の設定は『Vol. Lev.』を『VAR』に選択した場合に設定可能です。
- 「パワーアンプの割り当ての変更」（☞ P. 94、95）で、ゾーン2およびゾーン3の出力チャンネルにパワーアンプを割り当ててご使用の場合、各ゾーンの『Vol. Lev.』の設定は“ −VAR− ”と表示されます。

4 トリガーアウトの設定

★ 本機は3つのDC12Vトリガーアウト出力を備えており、トリガー入力端子を持つ外部機器をコントロールすることができます。
★ 各入力ソースに対して、トリガーアウト端子から出力されるDC12VのON/OFFを設定します。

（次のページに続きます。）

6

操作5で“MAIN”（メインゾーン）を選択した場合、さらに各サラウンドモードに対してトリガーアウト出力の設定をおこなうことができます。

ON：

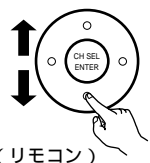
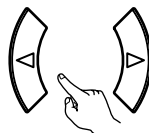
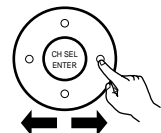
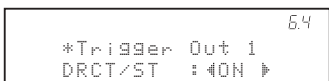
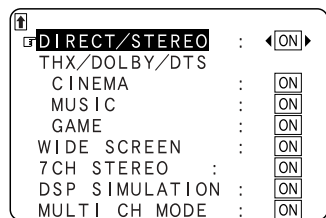
『ON』に設定された入力ソースが選択されているときに該当するサラウンドモードが選択された場合、トリガーアウトから出力される電源がONします。

OFF：

該当するサラウンドモードが選択された場合、トリガーアウトから出力される電源がOFFします。

◎ サラウンドモードの選択

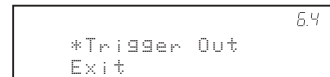
◎ ON/OFFの選択

7

エンターボタンを押す。

● Trigger Out 画面に戻ります。

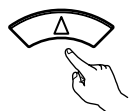
※ トリガーアウト2、3の設定も同様におこなってください。

8

“Exit”を選択し、
エンターボタンを押す。

● Option Setup 画面に戻ります。

※ Default“Yes”を選択し、カーソルレフトボタンを押すと工場出荷時の初期設定（☞ P. 40）に戻ります。

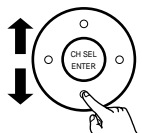
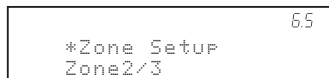
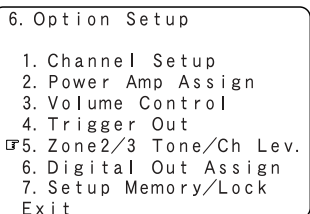
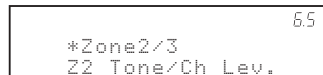
5 ゾーン2/ゾーン3の音質およびチャンネルレベルの調整

★ ゾーン2やゾーン3で出力される音声の音質やチャンネルレベルを調整します。

1

Option Setup 画面上で
“Zone2/3 Tone/Ch Lev.”を選択する。

2

エンターボタンを押す。

3

ゾーンを選択し、エンターボタンを押す。（Zone2、Zone3）

（本体）

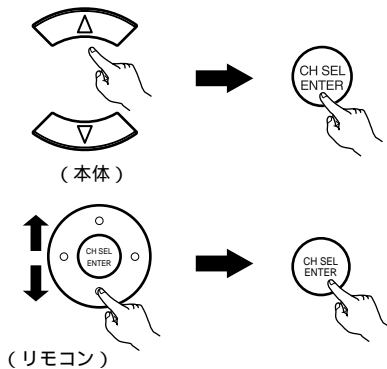
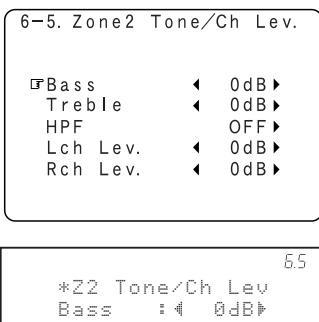
（リモコン）

【例】ゾーン2を選択した場合

6−5. Zone2 Tone/Ch Lev.

☞Bass ◀ 0dB▶
Treble ◀ 0dB▶
HPF OFF▶
Lch Lev. ◀ 0dB▶
Rch Lev. ◀ 0dB▶

6.5
*Z2 Tone/Ch Lev
Bass :◀ 0dB▶

4

設定内容を選択し、調整する。

Bass：低音域の音色を調整します。
−12dB〜＋12dBの範囲で、2dB単位で調整できます。

Treble：高音域の音色を調整します。
−12dB〜＋12dBの範囲で、2dB単位で調整できます。

HPF（ハイ パス フィルター）：
使用しているスピーカーが低音域を十分に再生できないスピーカーの場合には“ ON ”を選択します。HPFを使用することにより、低音の歪みを解消することができます。

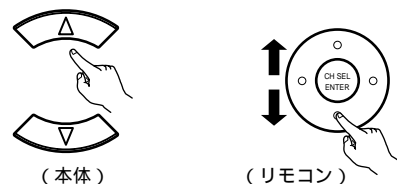
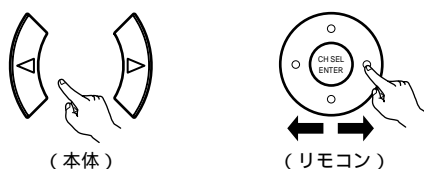
L/Rch Lev.：
L/Rチャンネル間の再生レベルが等しくなるようにチャンネルレベルを調整します。
−12dB〜＋12dBの範囲で、1dB単位で調整できます。
「再生チャンネルの設定」でゾーン2またはゾーン3の再生チャンネル数を『Mono』に設定しているときは表示されません。

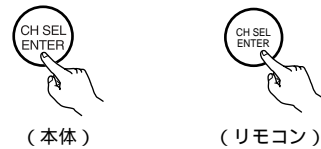
◎ 設定内容の選択

（本体） （リモコン）

◎ 設定値の選択

（本体） （リモコン）

5

エンターボタンを押す。

● Zone2/3 Tone/Ch Lev. 画面に戻ります。

（本体） （リモコン）

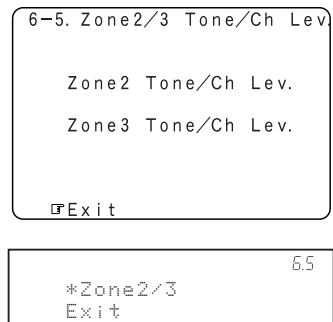
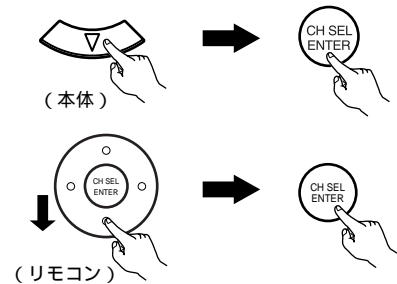
※ ゾーン3の設定も同様におこなってください。

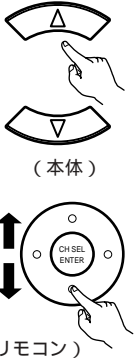
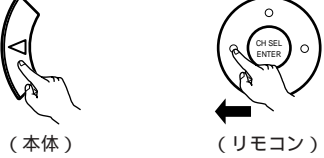
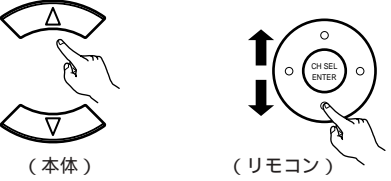
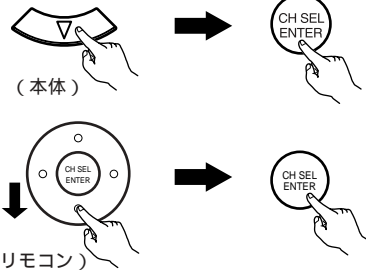
6

“ Exit ”を選択し、エンターボタンを押す。

● Option Setup 画面に戻ります。

（本体）

（リモコン）

6 デジタル出力の設定

★ 本機のリアパネルのデジタル音声録音用端子（OPTICAL2～4　OUT） は通常ZONE3/REC SELECTモードに連動して入力ソースが選択されます。
本設定ではOPTICAL 2 OUTのデジタル出力をZONE2 SELECTモードに連動させて使用することができます。

7-1 ユーザーメモリー

★ システムセットアップやサラウンドパラメーターなどの現在の本機の設定を記憶させ、必要な時に呼び出すことができます。

7-2 セットアップ内容の保護

★ システムセットアップで設定した内容を簡単に変更できないようにロックします。

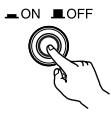
※『Setup Lock』を『ON』に設定すると
下記設定が変更できなくなり、
関連するボタンを操作すると “ SETUP LOCKED！ ”
が表示されます。

- システムセットアップの設定
- サラウンドパラメーターの設定値
- トーンコントロールの設定値
- チャンネルレベルの設定値（テストトーンも含む）
- Room EQ の設定

※ **設定を解除する場合**は、
システムセットアップボタンを押して
再度 Setup Lock 画面を表示させ、『OFF』に設定し直してください。

システムセットアップのしかた（つづき）

システムセットアップ後の操作

★ 以上でシステムセットアップは終了です。
システムセットアップは一度設定をおこなったら、接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り、再度設定をおこなう必要はありません。

8 操作のしかた

(1) 入力ソースの再生のしかた

1	**電源スイッチをONにする。**（本体）
2	**電源を入れる。**（本体）（リモコン）
3	**リモコンで操作する場合、アンプモードを選択する。**（リモコン）

1 入力ソースの再生

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

- DTS方式で記録されたCDやLDをANALOGモードまたはPCMモードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。
  DTS対応のソースを再生する場合は、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定してください。
- AUTOモードでDTSを再生した場合、再生のはじめおよびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、『DTS』モードで再生してください。

1 **再生したい入力ソースを選択する。**

【例】
CD

（本体）　　（リモコン）

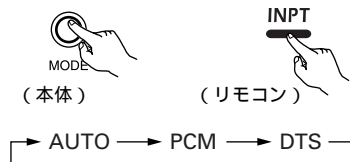
※ 入力ソースにZONE2 SELECTまたはZONE3/REC SELECTを選択している場合は、ソースボタンを押してから入力ファンクション切り替えつまみを操作してください。

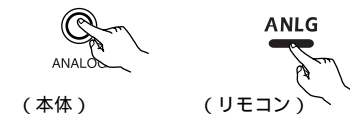
（本体）

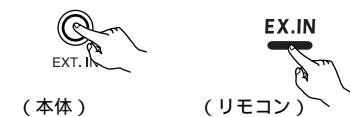
2 **入力モードを選択する。**

◎ **AUTO、PCM、DTSモードを選択する場合**
入力モード切り替えボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

（本体）　　（リモコン）

→ AUTO → PCM → DTS →

◎ **ANALOGモードを選択する場合**
アナログボタンを押して、ANALOG入力に切り替えます。

（本体）　　（リモコン）

◎ **外部入力（EXT. IN）モードを選択する場合**
外部入力ボタンを押して、外部入力（EXT. IN）に切り替えます。

（本体）　　（リモコン）

入力モード選択機能

入力モードは、各入力ソースごとに選択が可能です。また、選択された入力モードは、入力ソースごとに記憶されます。

① **AUTO（オールオートモード）**
選択された入力ソースごとにデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替え、再生するモードです。デジタル入力の設定（☞ P. 68）をしているソースで選択することが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で、自動的にデコード・再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。

（次のページに続きます。）

操作のしかた（つづき）

2 つづき

② **PCM（PCM信号再生専用モード）**
PCM信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。
ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

③ **DTS（DTS信号再生専用モード）**
DTS信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。

④ **ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）**
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。

⑤ **EXT. IN**
（外部デコーダー用入力端子選択モード）
外部デコーダー用入力端子に入力されている信号を再生します。（☞ P. 107）

3 **再生モードを選択する。**

【例】STEREO

● 本体のボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DIRECT ←→ STEREO

4 **選択した機器の再生をはじめる。**

● 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **音量を調節する。**

※ 音量は−80〜0〜18dBの範囲で0.5dBステップで調節できます。ただし、61、62、108ページに記載されている方法でチャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋0.5dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。（この場合、音量の最大調整範囲は“18dBーチャンネルレベルの最大値”となります。）

［入力モードの表示］

● AUTOモード時

● DIGITAL PCMモード時

● DIGITAL DTSモード時

● ANALOGモード時

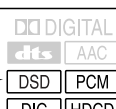
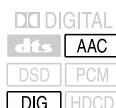
● EXT. INモード時

［入力信号の表示］

● DOLBY DIGITAL

● DTS

● PCM

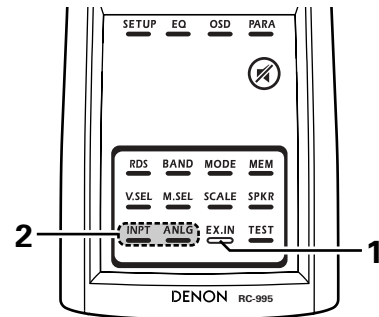
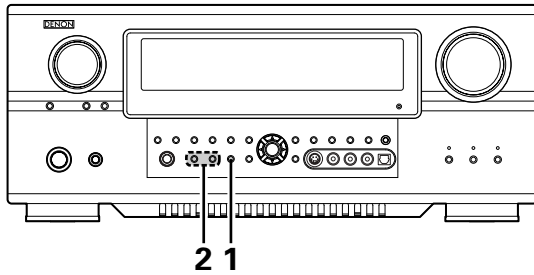
● AAC

※ デジタル信号が正常に入力されると DIG. が点灯します。点灯しない場合はデジタル入力機器のセットアップ（☞ P. 68）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。

※ サラウンドモードがPURE DIRECT / DIRECT / STEREO / MULTI CH PURE DIRECT / MULTI CH DIRECT / MULTI CH IN 時にPCM信号を再生すると、AL24 Processingが動作します。

ご注意

● オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに DIG. が点灯しますが音声は聞けません。

● DVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

2 外部入力（EXT. IN）端子での再生について

1

入力モードを外部入力（EXT. IN）に設定する。

（本体）

（リモコン）

設定後はEXT. INのFL（フロント左）、FR（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）、SBL（サラウンドバック左）およびSBR（サラウンドバック右）端子に接続された入力信号をサラウンド回路を通さずに直接フロント（左/右）、センター、サラウンド（左/右）およびサラウンドバック（左/右）の各スピーカーシステムおよび各プリアウトに出力します。
また、SW（サブウーハー）端子に入力された信号はプリアウト（PRE OUT）のSW端子に出力されます。

2

【外部入力モードの解除のしかた】

- 外部入力（EXT. IN）の設定を解除するときには、入力モード切り替えボタンまたはアナログボタンを押して、再生したい入力モードに切り替えてください。（☞ P. 105、106）

（本体）

（リモコン）

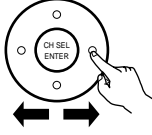
または

（本体）

（リモコン）

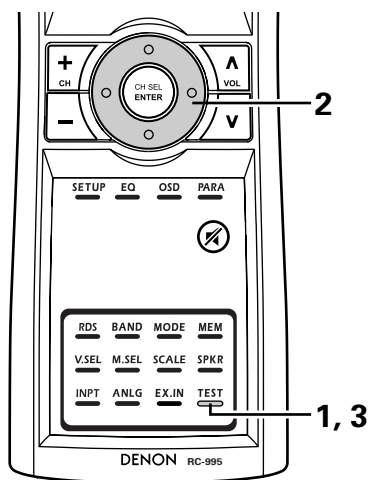
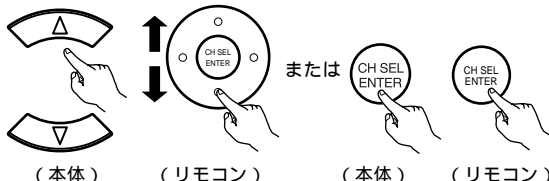
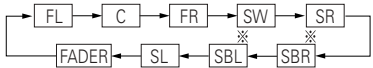
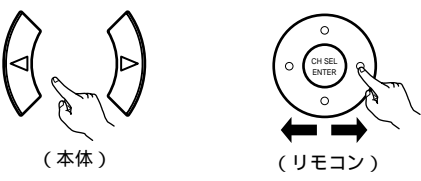
入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモード（DIRECT、STEREO、HOME THX CINEMA、STANDARD、7CH STEREO、WIDE SCREEN、DSP SIMULATION）の設定はできません。

ご注意

- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子に入力された信号は再生できません。
  また、入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。
- 外部入力モードは、どの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。

(2) サラウンド再生のしかた

1 テストトーン

★ オートセットアップをおこなっていない場合は、テストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（ ☞ P. 61、62）でもできますが、下記の通りリモコンでも調節できます。

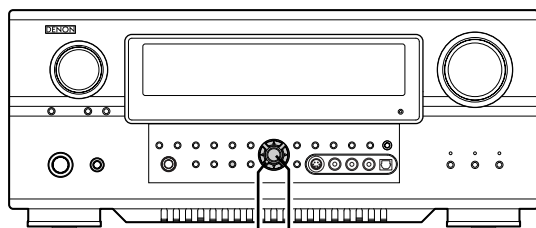
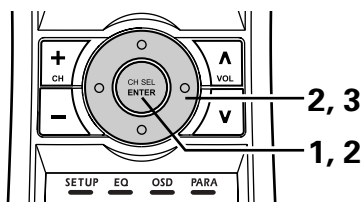
★ リモコンでのテストトーンによる調節は『AUTO』のみで、ドルビーサラウンドモード、DTSサラウンドモードおよびホームTHXシネマモード時のみ有効です。調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

2 チャンネルレベルの調節

★ テストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

3 フェーダー機能について

★ 本機能は、フロント側（FL、C 、FRチャンネル）とリア側（SL、SR、SBL、SBRチャンネル）のそれぞれの音量を一括して減衰させることが可能な機能です。
マルチチャンネルミュージックソース再生時などの定位バランスの調整に活用できます。

1

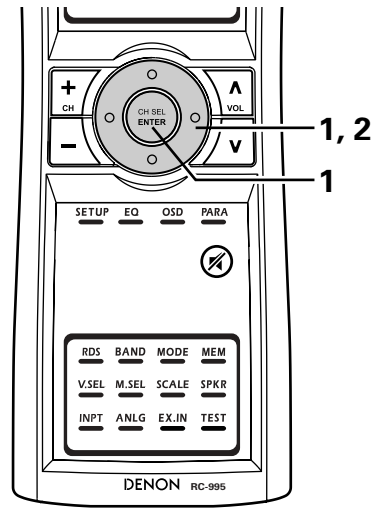
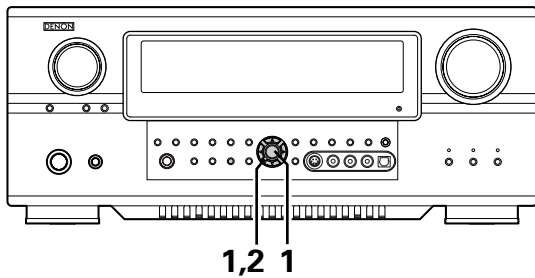
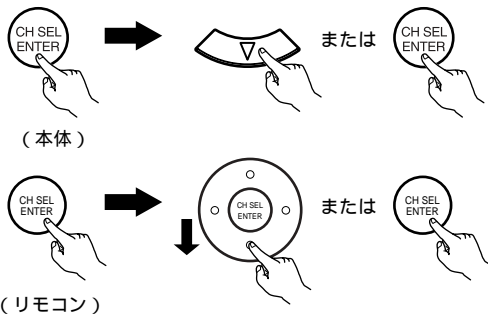
エンターボタンを押し、“ FADER ”を選択する。

● エンターボタンを押すたびに下記の順序でチャンネルが切り替わります。

FL → C → FR → SW → SR → SBR → SBL → SL → FADER → FL
（SW、SBLに※）

※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドバックスピーカーを『1spkr』に設定した場合はSBとなります。
また、『None』に設定した場合は表示されません。

2

リア側の音量を一括して減衰させたい場合はカーソルライトボタンを、またフロント側の音量を一括して減衰させたい場合はカーソルレフトボタンを押す。

【例】“ FRONT ” を選択した場合

```
       Channel Vol.
FL  − 0. 5dB SR     0. 0dB
C   − 0. 5dB SBR    0. 0dB
FR  − 0. 5dB SBL    0. 0dB
SW    0. 0dB SL     0. 0dB

            Fader
            FRONT◂:▸REAR
```

```
*Fader Vol.
Front Fade
```

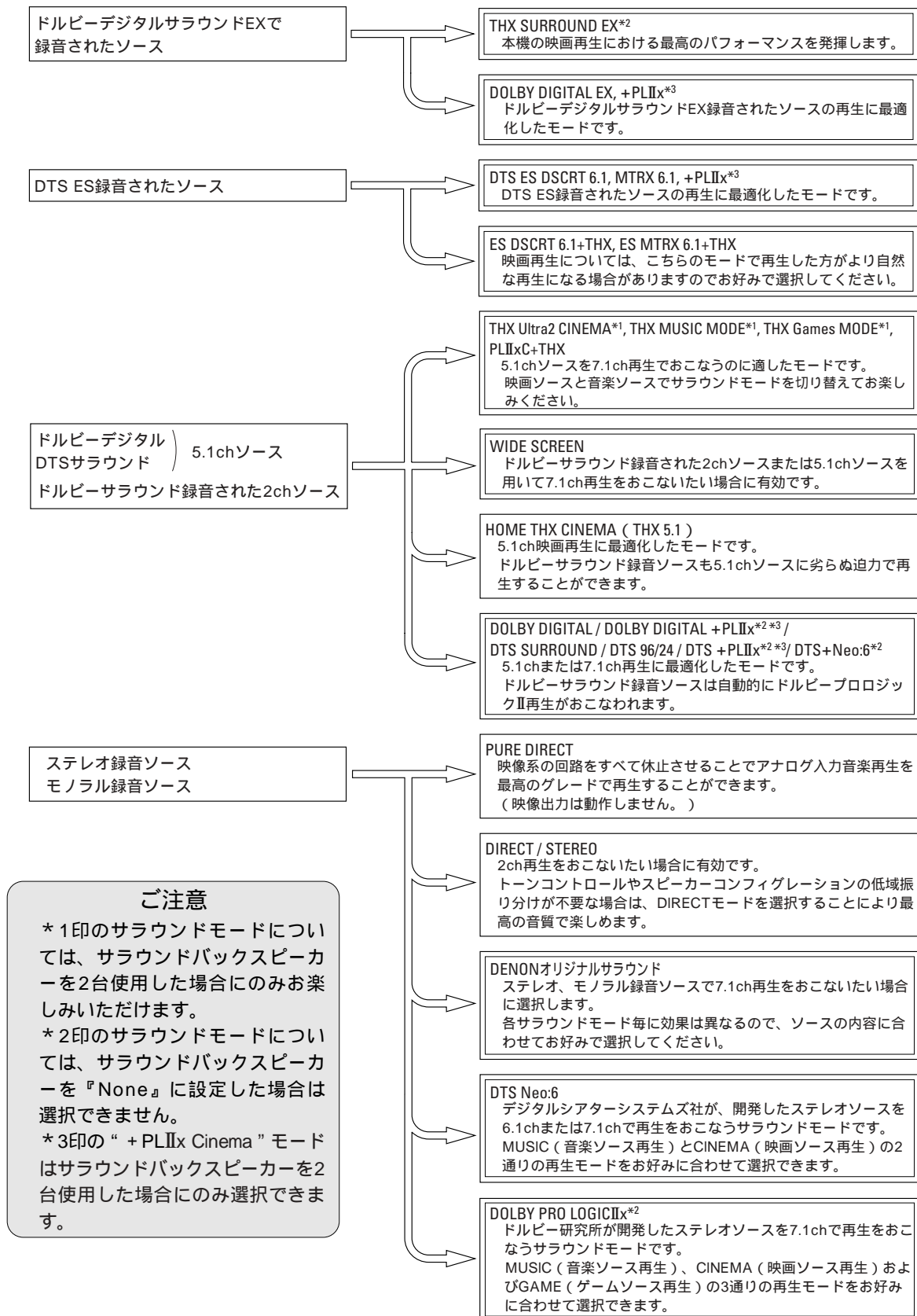
※ なお、SWチャンネルにはフェーダー機能は働きません。

※ フェーダーの調整は、チャンネルレベルが一番小さく調整されているチャンネルがフェーダー機能により−12dBに減衰するまで可能です。
※ フェーダーの調整後、チャンネルレベルを個別に調整した場合は、フェーダー調整値はクリアされますので、その時点から新たにフェーダー調整をおこなってください。

4 ソースに対する再生モードについて

★ 本機にはたくさんのサラウンドモードがあります。それらの中で信号ソースの特長を生かして最高の効果を得るために下記のサラウンドモードを使用することをおすすめします。

ご注意

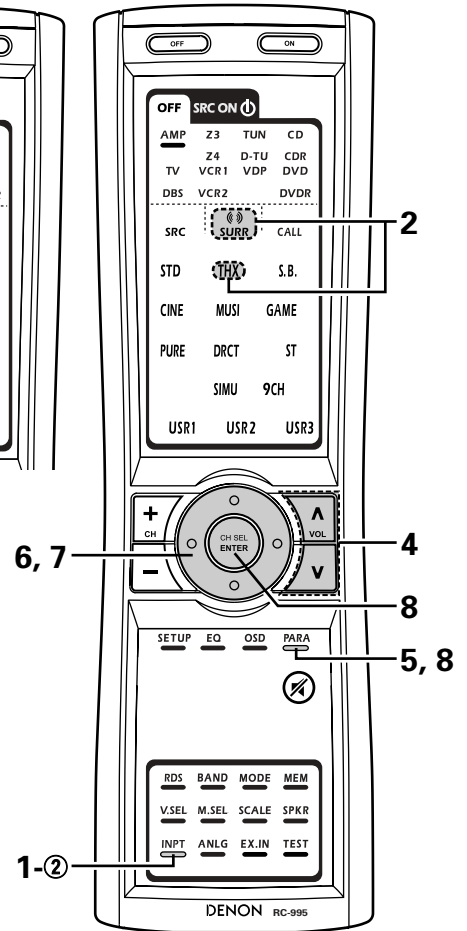
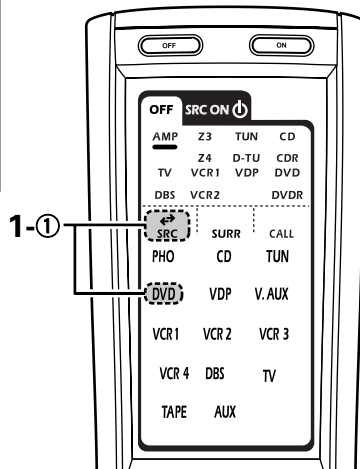
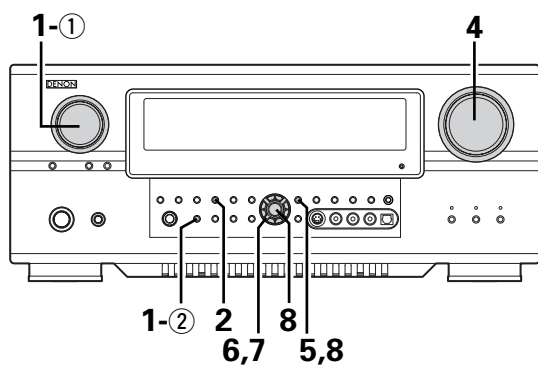
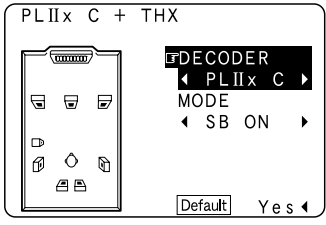
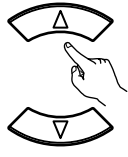
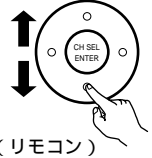
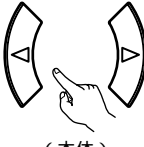
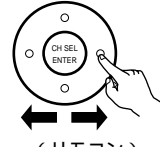
- ＊1印のサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカーを2台使用した場合にのみお楽しみいただけます。
- ＊2印のサラウンドモードについては、サラウンドバックスピーカーを『None』に設定した場合は選択できません。
- ＊3印の“＋PLIIx Cinema”モードはサラウンドバックスピーカーを2台使用した場合にのみ選択できます。

上記の組み合わせでサラウンドモードを選択することをおすすめしますが、他のサラウンドモードを選択することも可能です。

5 THXサラウンドEX/ホームTHXシネマモード

★ ホームTHXシネマボタンを押すと再生する信号とスピーカーの設定に応じて、次のサラウンドモードになります。

- THX Surround EX（THX Ultra2 CINEMA）
- Home THX CINEMA（PLⅡx C＋THX）
- THX 5.1
- ES DSCRT 6.1 +THX、 ES MTRX 6.1 + THX

※ DVDを再生したときにHome THX CINEMAモードになった場合には、DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定を確認し、ドルビーデジタルおよびDTSのビットストリーム信号が出力できる『ビットストリーム』などの設定に変更してください。

❶ ドルビーサラウンドで録音されたソースをホームTHXシネマサラウンドで再生するには

1	① 入力ソースを選択する。 ② 入力モードを『AUTO』に設定する。
2	ホームTHXシネマモードを選択する。
3	DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生する。 ● 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
4	音量を調節する。

（次のページに続きます。）

5 **サラウンドパラメーター画面を表示させる。**

※「サラウンドパラメーターについて」
（☞ P. 126〜132）

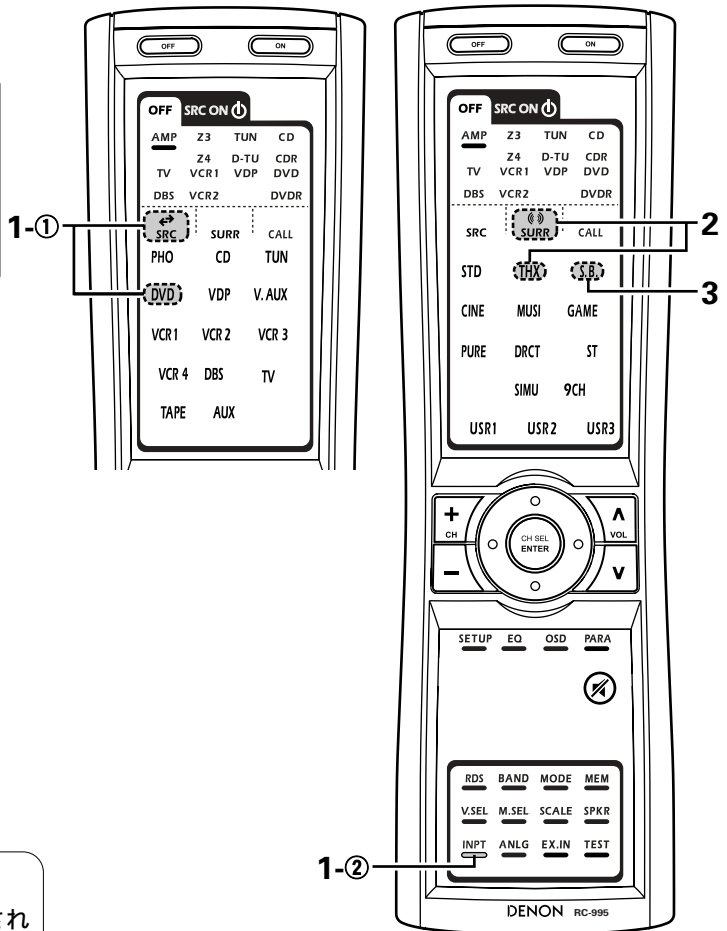
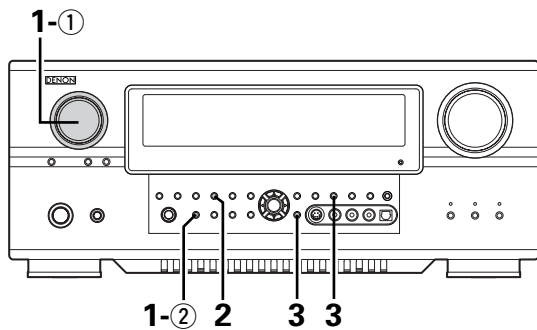
6 **各種パラメーターを選択する。**

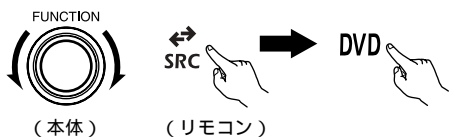
7 **設定値を選択する。**

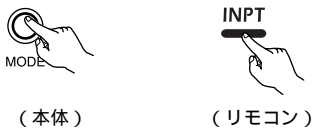
8 **サラウンドパラメーターボタンまたはエンターボタンを押す。**

ご注意

- “ Default ” を選択してカーソルレフトボタンを押すと、自動的にサラウンドパラメーターの設定が初期値に設定されます。

❷ ドルビーデジタルまたはDTSで録音されたソースを THXサラウンドEX/ホームTHXシネマサラウンドで再生するには（デジタル入力のみ）

1

入力ソースを選択する。

① **デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（☞ P. 68）入力ソースを選択する。**

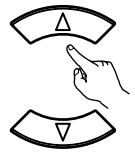
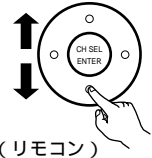
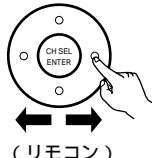
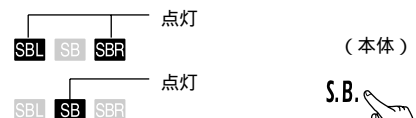
② **DTSの場合は、入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定する。**
ドルビーデジタルの場合は、入力モードを『AUTO』に設定する。

2

ホームTHXシネマモードを選択する。

3

DOLBY DIGITAL または DIGITAL dts SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生する。

- ドルビーデジタルソース再生中はドルビーデジタル表示（ DIGITAL ）が点灯します。
- DTSソース再生中はDTS表示（ dts ）が点灯します。

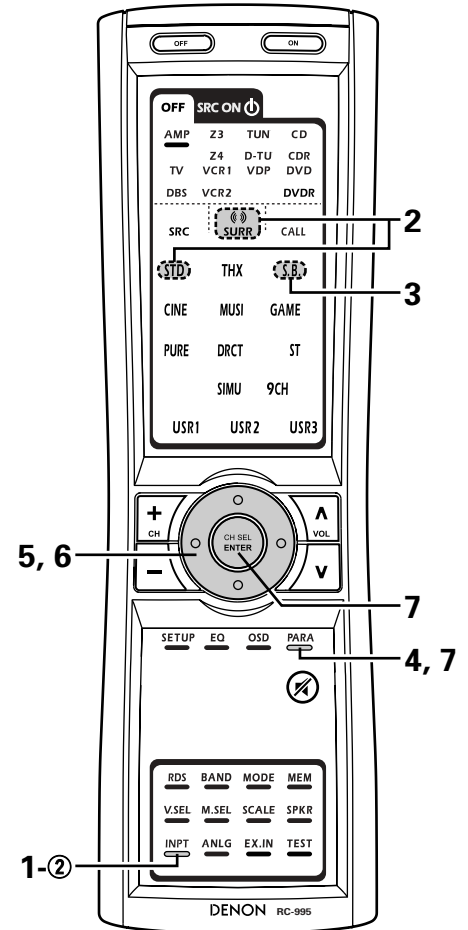
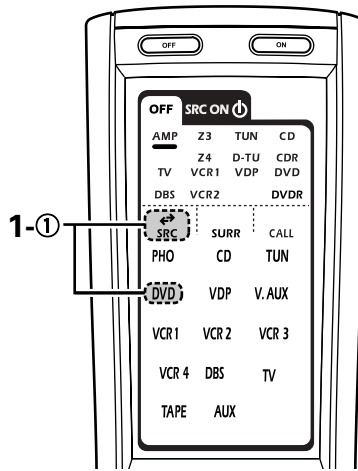
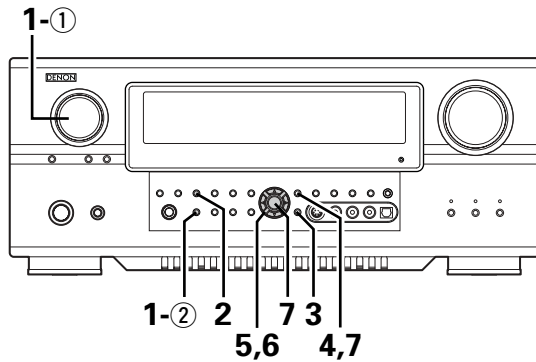
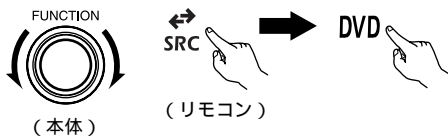
※ ドルビーデジタルまたはDTSソースの再生中に本体のステータスボタンを押すと、各種設定がディスプレイ上で確認できます。

※ サラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示が点灯します。

（次のページに続きます。）

6 ドルビーデジタルモード、DTSサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1 入力ソースを選択する。

① デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（☞ P. 68）入力ソースを選択する。

（本体）　（リモコン）

② DTSサラウンドの場合は、入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定する。
ドルビーデジタルの場合は、入力モードを『AUTO』に設定する。

（本体）　（リモコン）

2 再生するプログラムソースに合わせて、スタンダードボタンを押し、ドルビーまたはDTSサラウンドモードを選択する。

（本体）　（リモコン）

3 DOLBY DIGITAL または dts マークの付いたプログラムソースを再生する。

- ドルビーデジタルソース再生中はドルビーデジタル表示（DD DIGITAL）が点灯します。
- DTSソース再生中はDTS表示（dts）が点灯します。

※ サラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

点灯 SBL SB SBR

点灯 SBL SB SBR

サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示が点灯します。

（本体）　（リモコン）

■ ダイアログノーマライゼーションについて

- ドルビーデジタルプログラムソースの再生中は、ダイアログノーマライゼーション機能が自動的に動作します。
  この機能は、ドルビーデジタルの基本機能であり、プログラムソースごとに異なるレベルで記録されている信号のレベル（標準レベル）を自動的に補正する作用があります。
  本内容は本体のステータスボタンで確認できます。

Dial.Norm
Offset -4dB

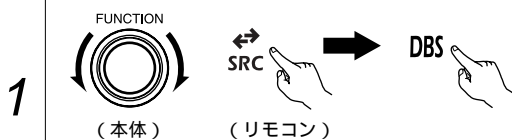
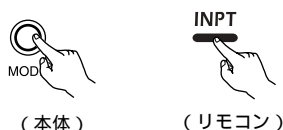
数字は再生中のプログラムを標準レベルに補正をした場合の補正レベルを表わします。

（本体）

7 AACサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1

入力ソースを選択する。

① デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（☞ P. 68）入力ソースを選択する。

② 入力モードを『AUTO』に設定する。

2

AACのプログラムソースを再生する。

● AACソース再生中はAAC表示（ AAC ）が点灯します。

3

5.1chの再生をおこなうときは、AACサラウンドモードを選択する。

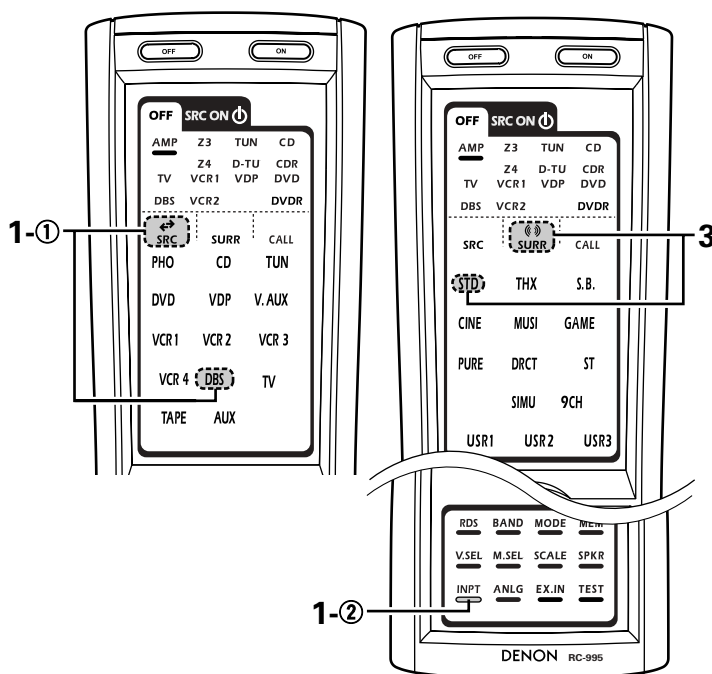
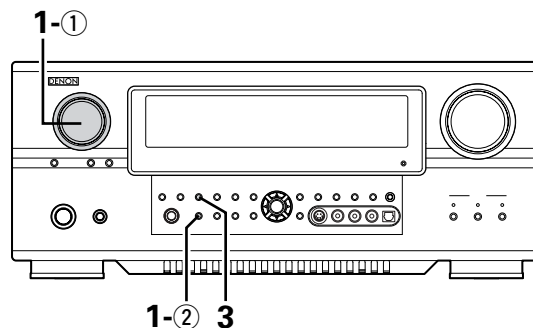
※ 5.1chのプログラムソースが入力されているとき、AACサラウンドモードは“ MPEG2 AAC ”と表示されます。

※ AACの2chソースが入力されているときは、PRO LOGIC IIxモードまたはDTS NEO:6モードになります。

※ AAC放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れることがあります。

ご注意

● BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が『AAC』に設定されていることを確認してください。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

● AACのプログラムソースは、上記のサラウンドモード以外でも再生できます。お好みに合わせて各種サラウンドモードをお楽しみください。

二重音声の情報があるAACソースを再生する場合

● 音声出力内容を設定することができます。
設定のしかたは「バイリンガルモードの設定」（☞ P. 91）をご覧ください。

AACサラウンドモードはサラウンドパラメーター画面で、AFDM（Auto Flag Detect Mode）および SB CH OUT（サラウンドバックチャンネルアウト）の設定により6.1ch再生をおこなうことができます。なお、6.1ch再生をおこなっているときは、“ AAC＋Dolby EX ”が表示されます。

8 ドルビープロロジックⅡx（プロロジックⅡ）モード

★ アナログ入力およびデジタル入力の2ch信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。

（次のページに続きます。）

操作のしかた（つづき）

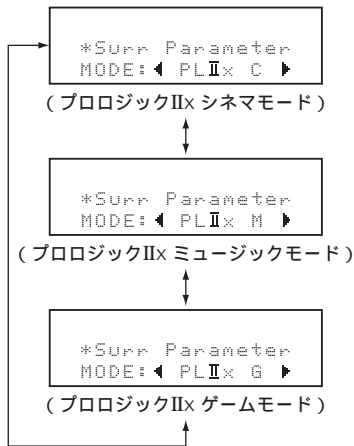
4 つづき

[『SB CH OUT』が “ ON ” の場合]

- システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが『1spkr』または『2spkrs』に設定されている場合

（プロロジックⅡx シネマモード）

（プロロジックⅡx ミュージックモード）

（プロロジックⅡx ゲームモード）

[『SB CH OUT』が “ OFF ” の場合]

- システムセットアップでサラウンドバックスピーカーが『None』に設定されている場合

（プロロジックⅡ シネマモード）

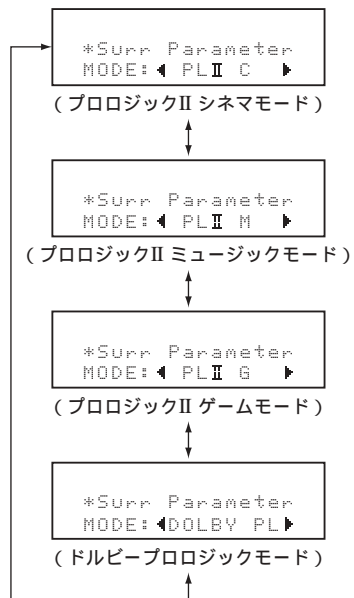
（プロロジックⅡ ミュージックモード）

（プロロジックⅡ ゲームモード）

（ドルビープロロジックモード）

5 **各種パラメーターを選択する。**

（本体）

（リモコン）

※ MUSICモード時にオプションパラメーターの設定をする場合には、“ OPTIONS◀ ” を選択し、カーソルレフトボタンを押してください。
（☞ P. 128）
エンターボタンを押すと、前画面に戻ります。

6 **設定値を選択する。**

（本体）　（リモコン）

7 **サラウンドパラメーターボタンまたはエンターボタンを押す。**

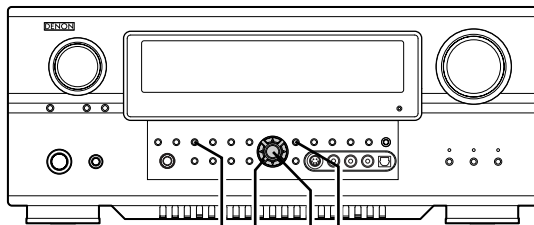
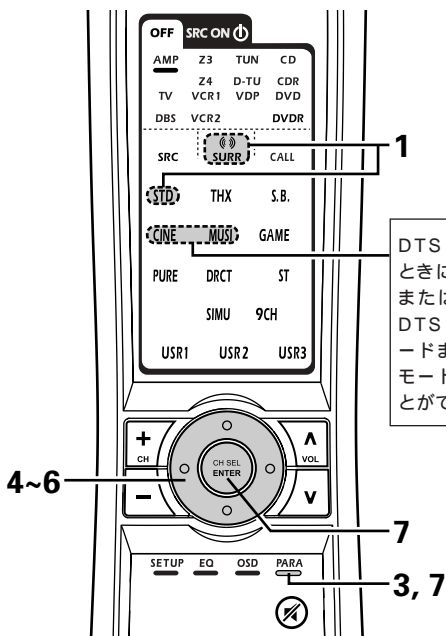
（本体）　（本体）　（リモコン）　（リモコン）

ご注意

- ドルビーサラウンドプロロジックは『NORMAL（ノーマル）』、『PHANTOM（ファントム）』、『WIDE（ワイド）』および『3CH. LOGIC（チャンネル ロジック）』の4つのモードがありますが、これらはシステムセットアップの「スピーカーの種類、有り無しの設定」（☞ P. 57）をおこなうことにより本機が自動的に設定します。

操作のしかた（つづき）

9 DTS NEO:6モード

★ アナログ入力およびデジタル入力の2ch信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。

DTS NEO：6モードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでDTS NEO：6シネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

1 DTS NEO:6モードを選択する。

● DTS NEO:6表示（DTS NEO : 6）が点灯します。

● スタンダードボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

DOLBY PLⅡx ←→ DTS NEO:6

ご注意

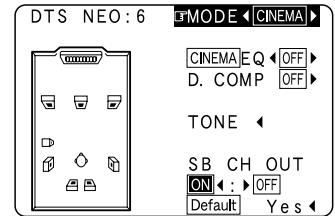
● PCMデジタル信号またはアナログ信号をDOLBY PRO LOGIC ⅡxまたはDTS NEO:6のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルに切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドモードに切り替わります。

2 プログラムソースを再生する。

3 サラウンドパラメーター画面を表示させる。

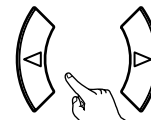
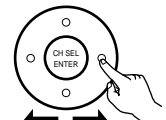
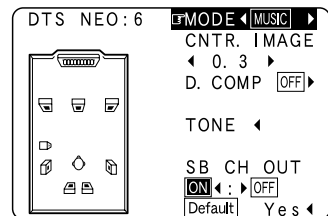
※「サラウンドパラメーターについて」
（☞ P. 126～132）

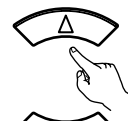
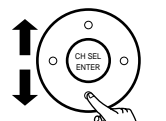
SURROUND PARAMETER（本体）
PARA（リモコン）

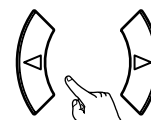
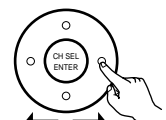
DTS NEO:6 MODE CINEMA
CINEMA EQ OFF
D. COMP OFF
TONE
SB CH OUT ON : OFF
Default Yes

*Surr Parameter
MODE: Cinema

4 ソースに合わせて最適なモードを選択する。

（本体）（リモコン）

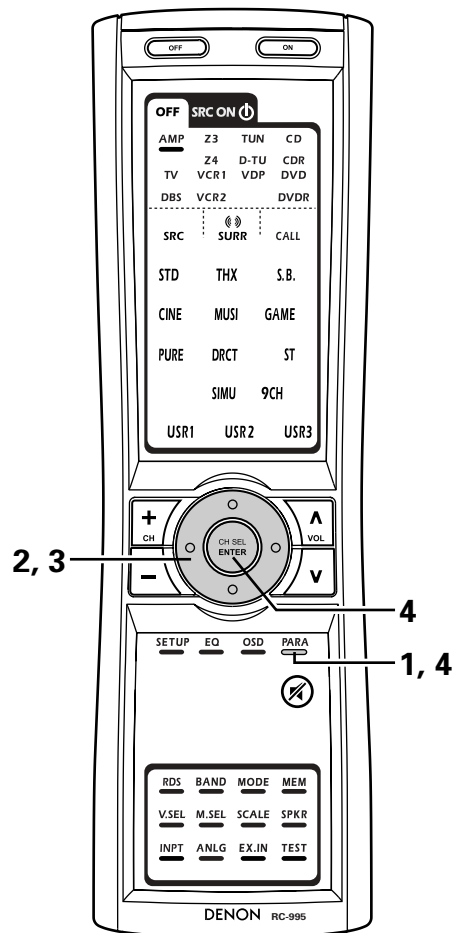
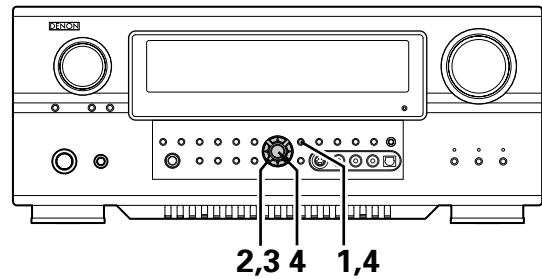
DTS NEO:6 MODE MUSIC
CNTR. IMAGE 0. 3
D. COMP OFF
TONE
SB CH OUT ON : OFF
Default Yes

*Surr Parameter MODE: Cinema ←→ *Surr Parameter MODE: Music

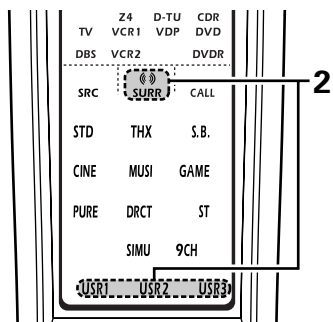
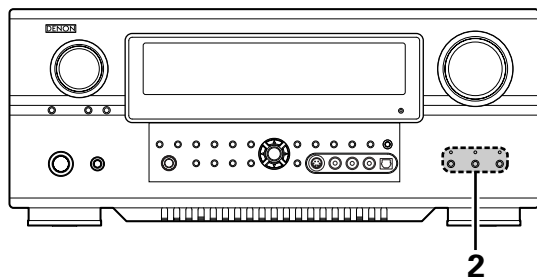
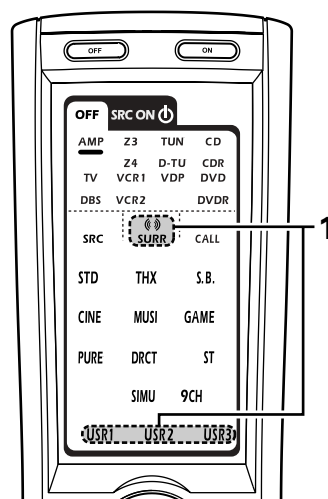
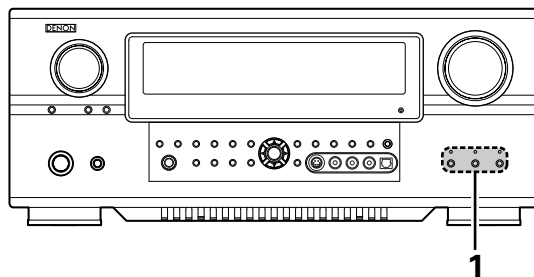
5 各種パラメーターを選択する。

（本体）（リモコン）

6 設定値を選択する。

（本体）（リモコン）

7 サラウンドパラメーターボタンまたはエンターボタンを押す。

SURROUND PARAMETER（本体） または CH SEL ENTER（本体） PARA（リモコン） または CH SEL ENTER（リモコン）

⑩ ドルビーヘッドホンモード

★ ドルビー/DTSサラウンド（MPEG2 AAC）モード時に、ヘッドホンジャックにヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。

11 ユーザーモード機能

★ 本機はメインゾーンで選択されている入力ソース、オートサラウンドモードおよび入力モードの内容を記憶して、使用したいときにいつでも呼び出すことのできるユーザーモード機能を備えています。
★ 本体またはリモコンのユーザーモード1、2および3ボタンを使用して、3パターンの設定内容を記憶させることができます。

❶ 記憶方法

1	**下記を記憶させたい状態に設定する。** ◎ **入力ソース** ◎ **オートサラウンドモード** ◎ **入力モード**
2	**お好みのユーザーモードボタンを長押しする。** ※ 選択しているユーザーモードボタンのモード表示が点灯するまで押し続けてください。

❷ 呼び出し方法

1	**呼び出したい設定が記憶されているユーザーモードボタンを押す。** ● 選択されたユーザーモードボタンのモード表示が点灯します。

操作のしかた（つづき）

(3) DENONオリジナルサラウンドについて

★ 本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。9通り用意されたサラウンドモードを再生するプログラムソースに合わせて選択して、パラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。

1 各サラウンドモードとその特長

1	ワイド スクリーン WIDE SCREEN	大きなスクリーンの映画館で映画を見ているような雰囲気で楽しみたいときに選択します。このモードでは、ドルビープロロジックやドルビーデジタル5.1chをはじめとしたすべての信号ソースを7.1ch再生します。サラウンドチャンネルには、映画館のマルチサラウンドスピーカーをシミュレートした効果が付加されます。
2	スーパー スタジアム SUPER STADIUM	野球やサッカーなどの中継プログラムをスタジアムで観戦しているような雰囲気で楽しみたいときに選択します。最も長い残響信号を得ることのできるモードです。
3	ロック アリーナ ROCK ARENA	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	ジャズ クラブ JAZZ CLUB	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	クラシック コンサート CLASSIC CONCERT	豊かな響きのコンサートホールの雰囲気で楽しみたいときに選択します。
6	モノ ムービー MONO MOVIE（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
7	ビデオ ゲーム VIDEO GAME	ビデオゲームで楽しみたいときに使用します。
8	マトリクス MATRIX	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。
9	チャンネル ステレオ 7CH STEREO	サラウンドおよびサラウンドバック信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRch にはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。

※再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
その場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

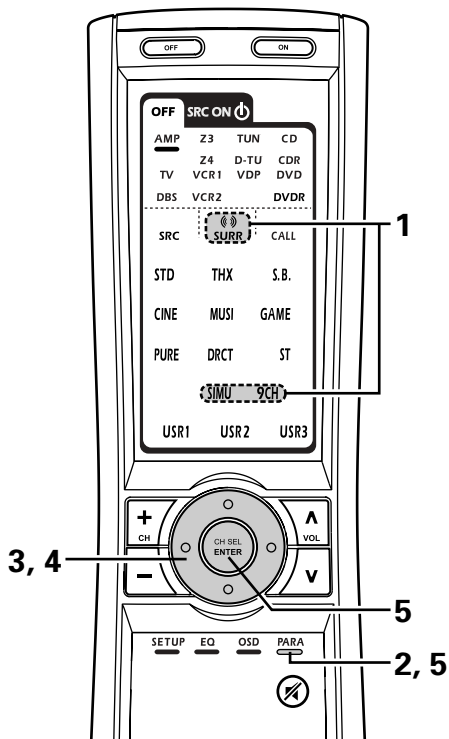
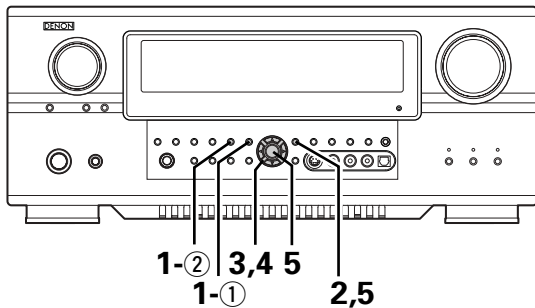
パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ソースごとに選択されたサラウンドモードなどを自動的に記憶できるパーソナルメモリープラスという機能を搭載しています。入力ソースを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

【パーソナルメモリープラス機能で各入力ソースごとに自動的に記憶される内容】

①サラウンドモード
②入力モード選択機能

※サラウンドパラメーター、トーンコントロール、Room EQの設定および各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

2 DSPサラウンドシミュレーションのしかた

※ **“ 7CH STEREO ” の表示はサラウンドバックスピーカーの設定によって異なります。**

サラウンドバック スピーカー	表　示
ON	7 CH STEREO
OFF	5 CH STEREO

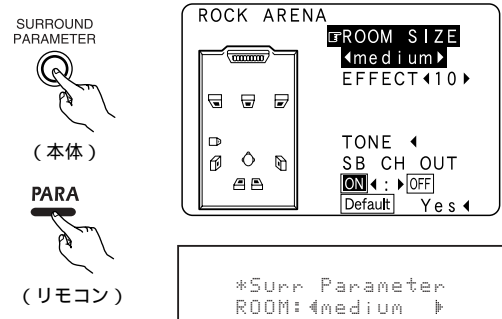
ご注意

- ROOM SIZEは各サラウンドモードにおける広がり感の効果を音場の大きさで表現したものです。再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

1 **入力ソースに合わせて、サラウンドモードを選択する。**

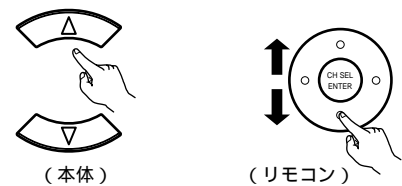
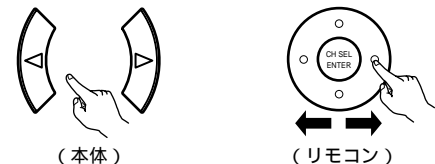
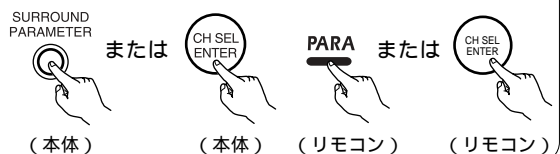
① DSPシミュレーションモード

- DSPシミュレーションボタンを押すたびに、サラウンドモードが下記のように切り替わります。

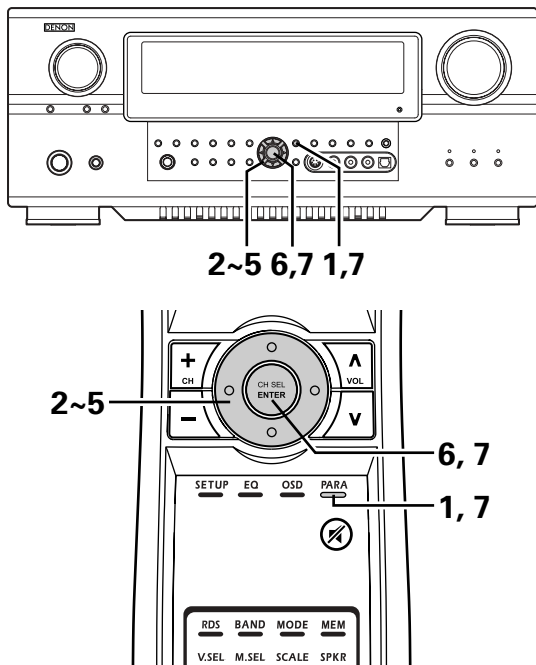
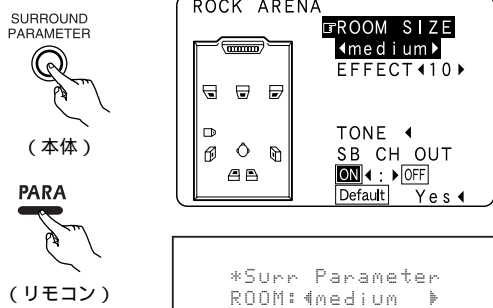
② 7CHステレオモード

2 **サラウンドパラメーター画面を表示させる。**

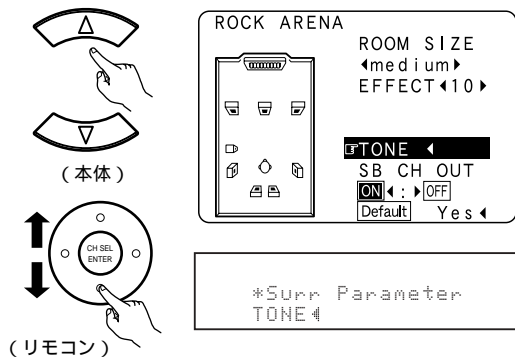
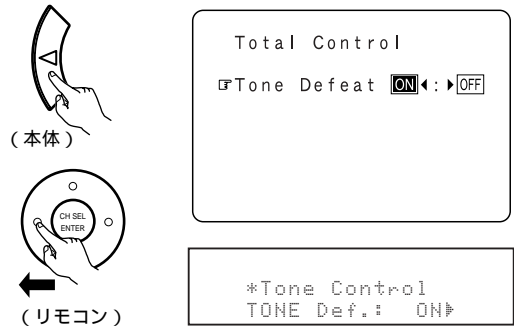
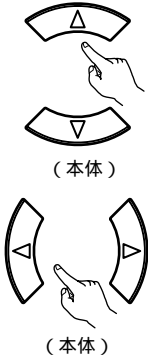
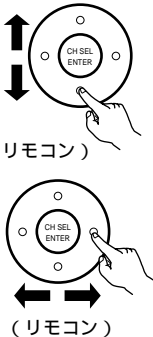
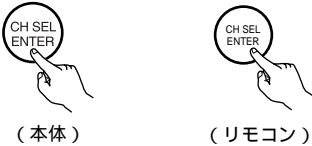
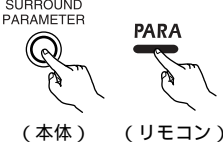
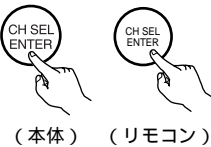
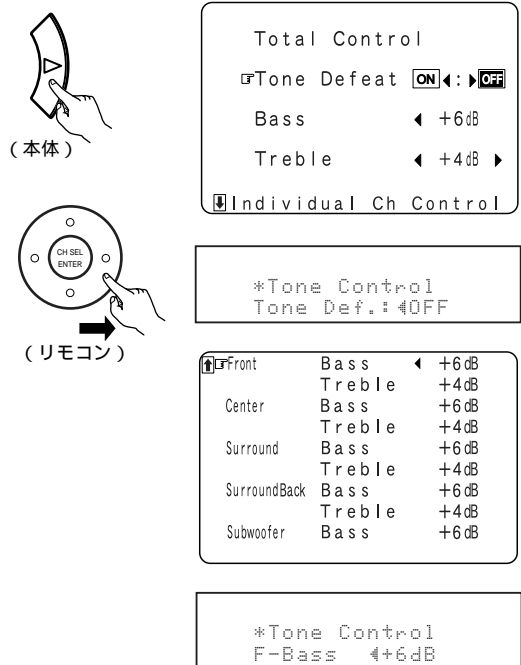
※「サラウンドパラメーターについて」
（☞ P. 126〜132）

※ 選択されているサラウンドモードの画面が表示されます。

3 **各種パラメーターを選択する。**

4 **設定値を選択する。**

5 **サラウンドパラメーターボタンまたはエンターボタンを押す。**

3 トーンコントロールの設定

★ 低音および高音をお好みに合わせて調節する場合に、トーンコントロールの設定をおこないます。

❶ トーンコントロールを操作する場合

1 サラウンドパラメーター画面を表示させる。

※ 選択されているサラウンドモードの画面が表示されます。（ダイレクトモードおよびホームTHXシネマモードの場合は、“ TONE ” を選択できません。）

2 “ TONE（トーン） ” を選択する。

3 カーソルレフトボタンを押す。

4 “ OFF ” を選択する。

- Bass/Trebleは－6dB～＋6dBの範囲で、1dB単位でできます。また、“ Individual Ch Control ” の調整値の中の最大値に設定されます。

※ 音質を調整しない場合は、Tone Defeat（トーン デフィート）の “ ON ” を選択してください。

5 音質を調整する。

◎ 低音、高音の選択　◎ レベルの設定

6 設定を確定する。

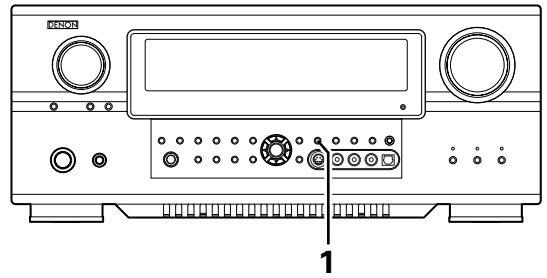
● サラウンドパラメーター画面に戻ります。

7 サラウンドパラメーターボタンまたはエンターボタンを押す。

❷ トーンデフィートモードを本体で操作する場合

1 音質を調節しない場合は、トーンデフィートオンモードに設定する。

※ 信号が音質調整回路（BASS、TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

TONE DEFEAT
（本体）

4 サラウンドパラメーターについて

サラウンドパラメーターについて①

DECODER（ホームTHXシネマ）

2chソースをHome THX Cinemaで再生する場合に、お好みに応じて使用するデコーダーを選択します。

PLⅡx C ……………Dolby Pro Logic Ⅱx Cinemaモードでデコードした後にTHX処理します。
PLⅡ C ……………Dolby Pro Logic Ⅱ Cinemaモードでデコードした後にTHX処理します。
PL ……………Dolby Pro Logicモードでデコードした後にTHX処理します。
NEO:6 C ……………NEO:6 Cinemaモードでデコードした後にTHX処理します。

MODE/SB CH OUT（サラウンドバック チャンネル アウト）

再生モードまたはサラウンドバックチャンネルの再生方法を選択します。

THX Surround EX …ドルビーデジタルまたはAAC信号をTHXサラウンドEX再生します。
Ultra2 Cinema ………THXウルトラ2シネマモードで再生します。
MUSIC MODE ………THXミュージックモードで再生します。
Games mode …………THXゲームズモードで再生します。
SB OFF (OFF) ………サラウンドバックチャンネルは再生されません。
NON MTRX …………サラウンドチャンネルと同じ信号がサラウンドバックチャンネルから再生されます。
MTRX ON ……………サラウンドチャンネル信号をデジタルマトリックス処理をおこないサラウンドバックチャンネルを再生します。
ES MTRX ……………DTS信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
ES DSCRT……………DTS信号でディスクリート6.1chソースである認識信号が含まれている場合にソースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
PLⅡx CINEMA ………Dolby Pro Logic Ⅱx Cinemaモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。Dolby Pro Logic Ⅱx Cinemaモードで再生する場合は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドバックスピーカーを『2spkrs』に設定します。
PLⅡx MUSIC…………Dolby Pro Logic Ⅱx Musicモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。Dolby Pro Logic Ⅱx Musicモードで再生する場合は、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）でサラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『2spkrs』に設定します。

※2チャンネルソースの場合

OFF ……………………サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。
ON ……………………サラウンドバックを使用する再生をおこないます。サラウンドバックチャンネルにはL、Rチャンネルともにサラウンドチャンネルと同じ信号が出力されます。

（本体またはリモコンのサラウンドバックボタンでダイレクトに切り替えることもできます。）

MODE（ドルビーヘッドホン）

DH1 ……………………リファレンスルーム（小さな残響音の少ない部屋）
DH2 ……………………ライブな部屋（DH1よりやや残響音の多い部屋）
DH3 ……………………大きな部屋（DH1より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）
BYPASS ………………ステレオ再生になります。

DECODER：

アナログ、PCMなどの2チャンネルソースを再生中に選択できます。以下のデコーダでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。BYPASSモード時には表示されません。

PLⅡ C …………………Dolby Pro Logic Ⅱ Cinemaモード
PLⅡ M …………………Dolby Pro Logic Ⅱ Musicモード
NEO:6 C ………………DTS NEO:6 Cinemaモード
NEO:6 M ………………DTS NEO:6 Musicモード
OFF ……………………2チャンネルのままドルビーヘッドホンで再生します。

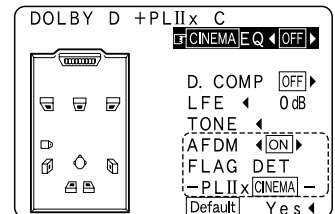
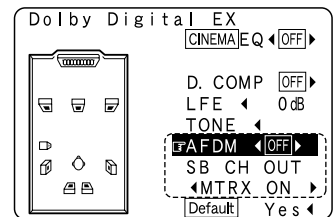
サラウンドパラメーターについて②

AFDM（Auto Flag Detect　Mode）：

ON……………この機能は専用の認識信号が記憶されたソフトに対してのみ働きます。再生するソフトがドルビーデジタルEX（EXフラグ有り）、またはDTS-ES（ESディスクリート、ESマトリックスフラグ有り）で記憶されている場合には、自動的にサラウンドバックスピーカーを用いた6.1ch再生をおこない、そうでない場合には、サラウンドバックスピーカーを用いない通常の5.1ch再生をおこなう機能です。AFDMを『ON』に設定している場合、本機でEX/ESフラグが自動認識されると、サラウンドモードは再生するプログラムソースに合わせて固定となります。この場合、サラウンドパラメーター画面で“ MODE/SB CH OUT ”（サラウンドバック　チャンネルアウト）のパラメーターは選択できなくなります。

OFF …………上記の認識信号が自動検出された場合に、サラウンドモードを自由に選択したい場合は『OFF』を設定してください。この場合、サラウンドパラメーター画面で“ MODE/SB CH OUT ”（サラウンドバック　チャンネルアウト）のパラメーターは再生するプログラムソースに関わらず選択できます。

【例】ドルビーデジタル（EXフラグ有り）のソフトを再生した場合

① AFDMを『ON』に設定している場合は、サラウンドモードは自動的に“ DOLBY DIGITAL + PLⅡx　CINEMA ”モードになります。サラウンドパラメーター画面は右記のように表示されます。

② “ Dolby Digital EX ” モードで再生をおこないたい場合はAFDMを『OFF』に設定し、“ SB CH OUT ”で『MTRX ON』を選択します。

サラウンドパラメーターについて③

MODE（ドルビープロロジックⅡxおよびドルビープロロジックⅡ）

- **CINEMA：**
ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。

- **MUSIC：**
ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、かつ広がり感のある音楽再生をおこないます。
音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、さらに音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

PANORAMA
フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

DIMENSION
音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
ソースの残響成分の大きさによらず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。（0〜6：初期値 3）

CENTER WIDTH
センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間のつながりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。（0〜7：初期値 3）

- **GAME：**
従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。
GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

- **PL：**
従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

MODE（DTS NEO:6）

- **CINEMA：**
映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL、SR、SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

- **MUSIC：**
主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL、FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化が無く、更にセンター（C）とサラウンド（SL、SR、SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな広がり感が加わります。

CNTR IMAGE（センターイメージ）
センターチャンネルの広がりを調整するパラメーターです。(0.0〜1.0：初期値 0.3）

サラウンドパラメーターについて④

CINEMA EQ.（シネマ イコライザー）：
映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジックⅡ、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、DTS NEO:6、MPEG-2 AAC、ワイドスクリーンモードのみ有効です。）

D.COMP.（ダイナミックレンジ コンプレッション）：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。（ドルビーデジタルならびにDTSで録音されたプログラムソース再生時のみ有効です。）『OFF』、『LOW』、『MID』（MIDDLE）、『HI』（HIGH）の4つのパラメーターから選択します。
このパラメーターは、DTSソースを再生する場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ロー フリクエンシー エフェクト）：
プログラムソースと可変範囲：
1. ドルビーデジタル　－10dB～0dB
2. DTSサラウンド　－10dB～0dB
3. MPEG-2 AAC　－10dB～0dB

ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようおすすめします。

TONE（トーン）：
トーンコントロールの調整をおこないます。
ダイレクトおよびホームTHXシネマ以外のサラウンドモードで設定が可能です。サラウンドモードごとに設定が可能です。
（Dolby/DTS/AACサラウンドモードは共通です。）

EFFECT（エフェクト）：
WIDE SCREENモードにおいて、マルチサラウンドスピーカー効果を持つエフェクト信号をON/OFFします。
このパラメーターをOFFにすると、SBL、SBRチャンネルの信号はそれぞれSL、SRチャンネルと同等となります。

LEVEL（レベル）：
WIDE SCREENモードにおいて、エフェクト信号の大きさを設定します。『1』～『15』の15段階で設定できます。
サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

ROOM SIZE（ルーム サイズ）：
音場の大きさを設定します。
『small』、『med.s』、『medium』、『med.l』、『large』の5つのパラメーターがあります。『small』では小さな音場空間、『large』では大きな音場空間を再現します。

EFFECT LEVEL（エフェクト レベル）：
サラウンドの効果の大きさを設定します。
『1』～『15』の15段階で設定できます。音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイ タイム）：
MATRIXモードに限り、『0ms』～『300ms』の範囲でディレイタイムを設定できます。

SW ATT：
EXT.IN入力モードでの再生時に、サブウーハーチャンネルのレベルを下げるパラメーターです。ご使用になるプレーヤーによってはSuper Audio CDを再生した時に、SWチャンネルの再生レベルが大きいと感じる場合があります。
この時にはSW ATTを『ON』に設定してください。
DENON製プレーヤーの場合は初期設定でご使用ください。

Subwoofer ON/OFF：
サブウーハー出力のON/OFFをダイレクトに設定できます。

操作のしかた（つづき）

■ サラウンドモードとパラメーター 一覧表

モード	チャンネル出力					パラメーター （ ）内は初期値				
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R (A/B)	SURROUND BACK L/R	SUB-WOOFER	ドルビー/DTS信号再生時 D. COMP	ドルビー/DTS信号再生時 LFE	ドルビー/DTS信号再生時 AFDM	SB CH OUT (MODE)	TONE CONTROL
PURE DIRECT, DIRECT	○	×	×	×	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	×	×
DSD DIRECT	○	×	×	×	◎	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○	×
MULTI CH DIRECT	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○	×
STEREO	○	×	×	×	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	×	○(0dB)
EXT.IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	×
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○	○(0dB)
WIDE SCREEN	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
HOME THX CINEMA (2ch)	○	◎	◎	◎	◎	×	×	×	○	×
HOME THX CINEMA (5.1ch)	○	◎	◎	◎	◎	×	○(0dB)	○(ON)	○	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	×	×	○	○(0dB)
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	×	×	○	○(0dB)
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	×	×	○	○(0dB)
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	○(ON)	○	○(0dB)
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	○(ON)	○	○(0dB)
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	○(ON)	○	○(0dB)
7CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
SUPER STADIUM	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(注1)
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(注2)
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
CLASSIC CONCERT	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	○(OFF)	○(0dB)	×	○	○(0dB)

○ : 信号あり
× : 信号なし
◎ : スピーカーコンフィグレーションの設定により、ON/OFF可能

○ : 制御可能
× : 制御不可能
注1 : BASS +6 dB, TREBLE 0 dB
注2 : BASS +6 dB, TREBLE +4 dB

モード	パラメーター （ ）内は初期値										
	CINEMA EQ.	MODE (DECODER)	ROOM SIZE	EFFECT LEVEL	DELAY TIME	SUB-WOOFER ON/OFF	PRO LOGIC II/IIx MUSIC MODE のみ PANORAMA	PRO LOGIC II/IIx MUSIC MODE のみ DIMENSION	PRO LOGIC II/IIx MUSIC MODE のみ CENTER WIDTH	NEO:6 MUSIC MODEのみ CENTER IMAGE	EXT. IN SW ATT
PURE DIRECT, DIRECT	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
DSD DIRECT	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×
DSD MULTI DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MULTI CH DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
EXT. IN	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
MULTI CH IN	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
WIDE SCREEN	○(OFF)	×	×	○(ON, 10)	×	×	×	×	×	×	×
HOME THX CINEMA (2ch)	×	○(PLIIxC)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
HOME THX CINEMA (5.1ch)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGIC IIx	○(注3)	○(CINEMA)	×	×	×	×	○(OFF)	○(3)	○(3)	×	×
DOLBY PRO LOGIC II	○(注4)	○(CINEMA)	×	×	×	×	○(OFF)	○(3)	○(3)	×	×
DTS NEO:6	○(注3)	○(CINEMA)	×	×	×	×	×	×	×	○(0.3)	×
DOLBY DIGITAL	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS SURROUND	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
MPEG2 AAC	○(OFF)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7CH STEREO	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
SUPER STADIUM	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
ROCK ARENA	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
JAZZ CLUB	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
CLASSIC CONCERT	×	×	○(Medium))	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
MONO MOVIE	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
VIDEO GAME	×	×	○(Medium)	○(10)	×	×	×	×	×	×	×
MATRIX	×	×	×	×	○(30msec)	×	×	×	×	×	×

○ : 制御可能
× : 制御不可能
注3 : CINEMAモードのみ
注4 : CINEMA, PLモードのみ

■ 入力信号に対するサラウンドモード表示

ボタン		サラウンドモード	(注)	入力信号										
						DTS				DOLBY DIGITAL				
				ANALOG	リニアPCM	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS (5.1ch)	DTS96/24	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4ch)	DOLBY DIGITAL (4/3ch)	DOLBY DIGITAL (2ch)
HOME THX CINEMA		ES DSCRT6.1 + THX	※1	×	×	◎	×	×	×	×	×	×	×	×
		ES MTRX6.1 + THX	※1	×	×	×	◎	○	○	×	×	×	×	×
		THX SURROUND EX	※1	×	×	×	×	×	×	◎	○	○	○	×
		THX Ultra2 Cinema	※2	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		THX Music Mode	※2	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		THX Games Mode	※2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		THX 5.1		×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×
		PLⅡx C + THX	※4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		PLⅡ C + THX		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PL + THX		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		NEO:6 + THX		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
STANDARD	DTS SURROUND	DTS ES DSCRT6.1	※1	×	×	●◎	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS ES MTRX6.1	※1	×	×	×	●◎	×	×	×	×	×	×	×
		DTS SURROUND		×	×	○	○	●	×	×	×	×	×	×
		DTS 96/24		×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	×
		DTS + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×
		DTS + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×
		DTS + NEO:6	※1	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×
		DTS NEO:6 CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DTS NEO:6 MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	DOLBY SURROUND	DOLBY DIGITAL EX	※1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×
		DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	○	●	●	●	×
		DOLBY DIGITAL + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	●◎	○	○	×	×
		DOLBY DIGITAL + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱx CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	●
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱx GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱ CINEMA		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MUSIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PRO LOGIC Ⅱ GAME		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
		DOLBY PRO LOGIC		○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○
	AAC	AAC + Dolby EX	※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		AAC + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		AAC + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MPEG2 _AAC		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MULTI CH IN	MULTI CH IN		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MULTI IN + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MULTI IN + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DIRECT		DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		DSD DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		DSD MULTI DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MULTI CH DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		M DIRECT + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		M DIRECT + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
PURE DIRECT		PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		DSD PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		DSD MULTI PURE		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		M PURE D + PLⅡx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		M PURE D + PLⅡx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DSP SIMULATION		WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		7CH STEREO	※3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO		STEREO		●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○

● ： 初期状態で選ばれるモード
◎ ： AFDM ONのときに固定されるモード
○ ： 選択可能なモード
× ： 選択不可能なモード

（注） ※1 :サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、選択できません。
※2 :サラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。
※3 :サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、”5CH STEREO ”と表示されます。
※4 :入力信号が2ch以外のときにサラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。

（次のページに続きます。）

ボタン		サラウンドモード	(注)	入力信号							
				AAC			DVD-AUDIO			Super Audio CD	
				AAC(5.1ch)	AAC(2ch)	AAC (1+1ch)	DVD-Audio (multi ch)	DVD-Audio (2ch)	176.4/ 192kHz	DSD (multi ch)	DSD (2ch)
HOME THX CINEMA		ES DSCRT6.1 + THX	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		ES MTRX6.1 + THX	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		THX SURROUND EX	※1	○	×	×	○	×	×	○	×
		THX Ultra2 Cinema	※2	○	×	×	○	×	×	○	×
		THX Music Mode	※2	○	×	×	○	×	×	○	×
		THX Games Mode	※2	○	○	×	○	○	○	○	○
		THX 5.1		○	×	×	○	×	×	○	×
		PLIIx C + THX	※4	○	○	×	○	○	○	○	○
		PLII C + THX		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PL + THX		×	○	×	×	○	○	×	○
		NEO:6 + THX		×	○	×	×	○	○	×	○
STANDARD	DTS SURROUND	DTS ES DSCRT6.1	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS ES MTRX6.1	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS SURROUND		×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS 96/24		×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS + PLIIx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS + PLIIx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS + NEO:6	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DTS NEO:6 CINEMA		×	○	×	×	○	○	×	○
		DTS NEO:6 MUSIC		×	○	×	×	○	○	×	○
	DOLBY SURROUND	DOLBY DIGITAL EX	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DOLBY DIGITAL		×	×	×	×	×	×	×	×
		DOLBY DIGITAL+PLIIx CINEMA	※2	×	×	×	×	×	×	×	×
		DOLBY DIGITAL+PLIIx MUSIC	※1	×	×	×	×	×	×	×	×
		DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA		×	●	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC IIx GAME		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC II GAME		×	○	×	×	○	○	×	○
		DOLBY PRO LOGIC		×	○	×	×	○	○	×	○
	AAC	AAC + Dolby EX	※1	●	×	×	×	×	×	×	×
		AAC + PLIIx CINEMA	※2	○	×	×	×	×	×	×	×
		AAC + PLIIx MUSIC	※1	○	×	×	×	×	×	×	×
	MULTI CH IN	MPEG2 _AAC		○	×	●	×	×	×	×	×
		MULTI CH IN		×	×	×	●	×	×	●	×
		MULTI IN + PLIIx CINEMA	※2	×	×	×	○	×	×	○	×
		MULTI IN + PLIIx MUSIC	※1	×	×	×	○	×	×	○	×
DIRECT		DIRECT		○	○	○	×	○	○	×	×
		DSD DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	○
		DSD MULTI DIRECT		×	×	×	○	×	×	○	×
		MULTI CH DIRECT		×	×	×	○	×	×	○	×
		M DIRECT + PLIIx CINEMA	※2	×	×	×	○	×	×	○	×
		M DIRECT + PLIIx MUSIC	※1	×	×	×	○	×	×	○	×
PURE DIRECT		PURE DIRECT		○	○	○	×	○	○	×	×
		DSD PURE DIRECT		×	×	×	×	×	×	×	○
		DSD MULTI PURE		×	×	×	×	×	×	○	×
		MULTI CH PURE DIRECT		×	×	×	○	×	×	○	×
		M PURE D + PLIIx CINEMA	※2	×	×	×	○	×	×	○	×
		M PURE D + PLIIx MUSIC	※1	×	×	×	○	×	×	○	×
DSP SIMULATION		WIDE SCREEN		○	○	○	○	○	○	○	○
		SUPER STADIUM		○	○	○	○	○	○	○	○
		ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○
		JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○
		CLASSIC CONCERT		○	○	○	○	○	○	○	○
		MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○
		VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○
		MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○
		7CH STEREO	※3	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO		STEREO		○	○	○	○	●	●	○	●

● ：初期状態で選ばれるモード
◎ ：AFDM ONのときに固定されるモード
○ ：選択可能なモード
× ：選択不可能なモード

（注） ※1 :サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、選択できません。
※2 :サラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。
※3 :サラウンドバックスピーカーを『None』に設定している場合は、”5CH STEREO ”と表示されます。
※4 :入力信号が2ch以外のときにサラウンドバックスピーカーを『1spkr』または『None』に設定している場合は、選択できません。

（4）その他の一般操作のしかた（再生したあとに）

1 Room EQを選択するには

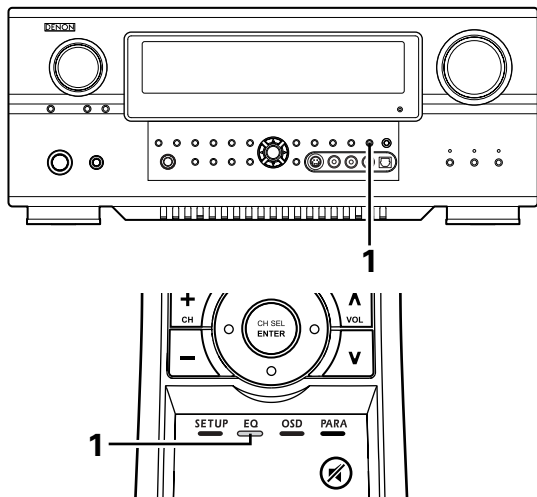
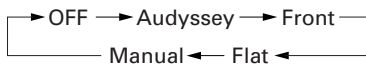
1

ROOM EQボタンを押して、お好みのイコライザーを選択する。

ROOM EQ

（本体）

EQ

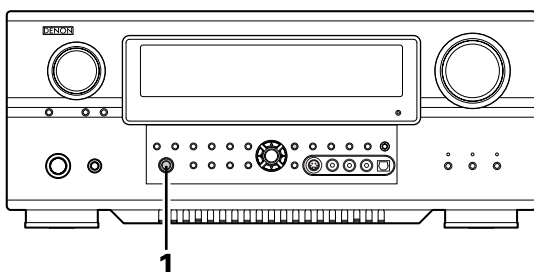
（リモコン）

- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

※ それぞれのRoom EQの補正カーブの説明について（☞ P. 52）

※『Audyssey』が選択された場合は、MultEQ XTモード表示が緑色に点灯します。
『Front』および『Flat』が選択された場合赤色に点灯します。オートセットアップの測定結果をメモリー後、「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞ P. 57）、「ディレイタイムの設定」（☞ P. 59、60）、「チャンネルレベルの設定」（☞ P. 61、62）または「クロスオーバー周波数」（☞ P. 63、64）の設定を手動で変更した場合は、『Audyssey』を選択していても赤色に点灯します。

ご注意

- 『Audyssey』、『Front』および『Flat』のイコライザーはオートセットアップを実行した後に選択可能となります。

2 ヘッドホンで音を聴くには

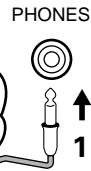
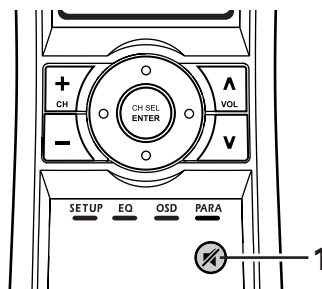
1

ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込む。

PHONES

- 差し込むと自動的にプリアウト端子およびスピーカー端子から音が出なくなります。

3 一時的に音を消すには（ミューティング）

1

リモコンのミューティングボタンを押す。

（リモコン）

- 「音量の設定」（☞ P. 96）で設定したレベルになります。

※ **解除する場合**は音量を調節するか、もう一度ミューティングボタンを押してください。

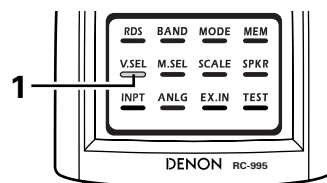
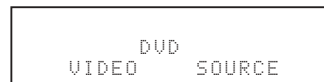
ご注意

- 本機の電源をオフにすると、設定が解除されます。

4 今聞いている音に好きな映像を組み合わせるには

ディスプレイ

DVD
VIDEO SOURCE

1

ビデオセレクトボタンを好きな映像が出るまで押す。

V.SEL

（リモコン）

- ビデオセレクト機能で選択されたビデオ系入力は、各入力ソースごとに記憶されます。

※ **解除する場合**は、もう一度ビデオセレクトボタンを押して " SOURCE " を選択してください。

ご注意

- HDMIおよびDVI-Dの入力信号を選ぶことはできません。

5 今再生しているプログラムソースなどを確認するには

1

① 本体のディマーボタン押すとディスプレイの明るさを調節できます。

DIMMER

（本体）

- 押すたびに明るさが3段階に変化し、最後には消すことができます。

② 本体のステータスボタンを押す。

STATUS

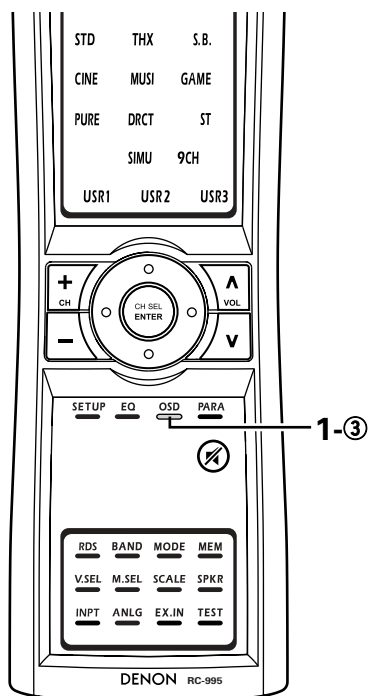
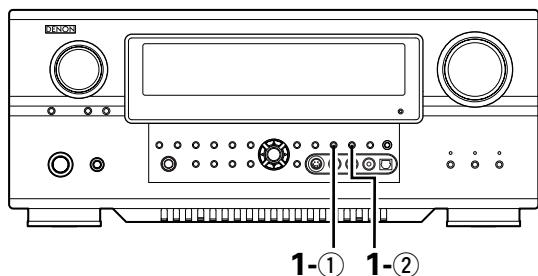
（本体）

- 押すたびに、ディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

③ リモコンのオンスクリーンボタンを押す。

OSD

（リモコン）

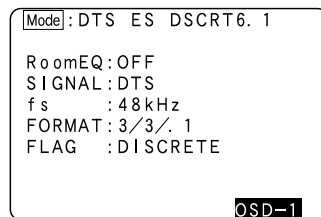
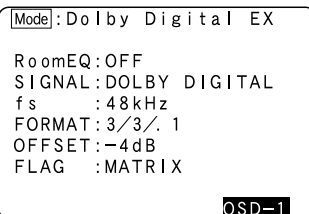
- 押すたびに、ビデオモニター出力端子に接続したモニターテレビの画面上で、現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

入力信号の確認のしかた

- リモコンのオンスクリーンボタンを押すと、入力信号が確認できます。

OSD

（リモコン）

```
Mode:Dolby Digital EX

RoomEQ:OFF
SIGNAL:DOLBY DIGITAL
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
OFFSET:−4dB
FLAG  :MATRIX
                    OSD−1
```

```
Mode:DTS ES DSCRT6.1

RoomEQ:OFF
SIGNAL:DTS
fs    :48kHz
FORMAT:3/3/.1
FLAG  :DISCRETE
                    OSD−1
```

RoomEQ ： 設定されているイコライザーを表示します。

SIGNAL ： DTS、DOLBY DIGITAL、PCMなどの信号の種類を表示します。

fs ： 入力信号のサンプリング周波数を表示します。

FORMAT ： 入力信号のチャンネル数を表示します。
“ フロントのチャンネル数／サラウンドのチャンネル数／LFEの有無 ”
ドルビーサラウンドで記録された2ch信号の場合、“ SURROUND ” が表示されます。

OFFSET ： ダイアログノーマライゼーションのオフセット値を表示します。（☞ P. 115）

FLAG ： 入力信号に記録されている特別な認識信号を表示します。
サラウンドバックチャンネルをマトリクス処理する場合は “ MATRIX ”、ディスクリート処理する場合は “ DISCRETE ” が表示されます。
認識信号が記録されていない場合は表示されません。

- さらにオンスクリーンボタンを押すことにより、以下の画面表示が順番に表示されます。

OSD-1 ：入力信号
OSD-2 ：HDMIモニター情報
OSD-3 ：入出力設定
OSD-4 ：オートサラウンドモード
OSD-5〜7 ：ユーザーモード1〜3

ご注意

- OSD-2画面のHDMIモニター情報の解像度は、本機にHDMIモニターが接続されている場合に表示されます。
- OSD-4画面は、オートサラウンドモードを『ON』に設定した場合に表示されます。（☞ P. 87）
また、ANALOGモードおよび外部入力（EXT. IN）モードでは表示されません。

6 サラウンドスピーカーを切り替えるには

1

サラウンドスピーカーボタンを押す。

- ボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

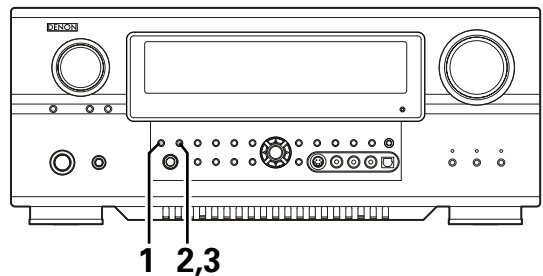
※「スピーカーの種類・有り無しの設定」（☞P. 57）でサラウンドスピーカーA、Bともに使用する設定にした場合に操作できます。

（5）より高音質な再生のしかた

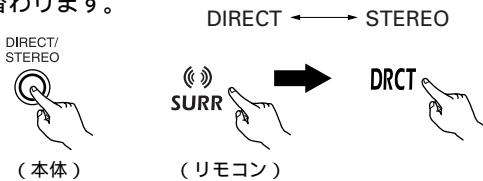
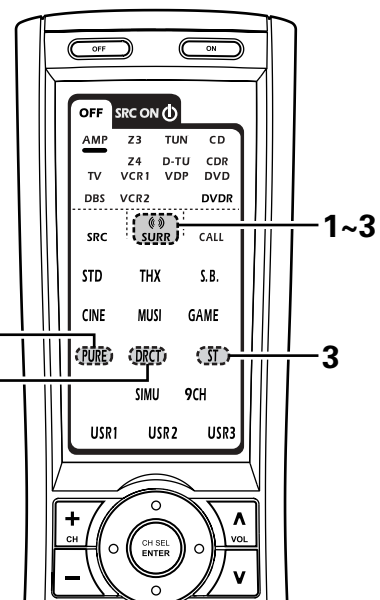
★ 本機には音楽専用の2ch再生モードとして、3つのモードを装備しています。
お好みに合わせてご使用ください。

1

PURE DIRECT（ピュアダイレクト）モード

- 極めて高品位の音質を再生するモードです。
このモードにすると選択された入力ソースに従い、不要な回路や処理（FL管、ビデオ回路およびトーンコントロール、ならびにアナログ音声入力時はデジタル回路とその他の不要な回路）をすべて自動的にオフしますので、音楽信号を高音質で再現することができます。

2

DIRECT（ダイレクト）モード

- 音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らず、ストレートに伝送されるのでより良い音質で再生ができます。
- 本体のボタンを押すたびに、下記のように切り替わります。

3

STEREO（ステレオ）モード

- トーン調整をして自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

ご注意

- PURE DIRECTモード時にはシステムセットアップはできません。設定を解除してから操作してください。
- PURE DIRECTモード時のチャンネルレベルおよびサラウンドパラメーターはDIRECTモードと共通になります。

(6) スーパーオーディオＣＤの再生のしかた

1 **システムセットアップの「IEEE1394 入力の設定」（☞ P. 74）でIEEE1394接続機器を割り当てた入力ソースを選択する。**

【例】CD

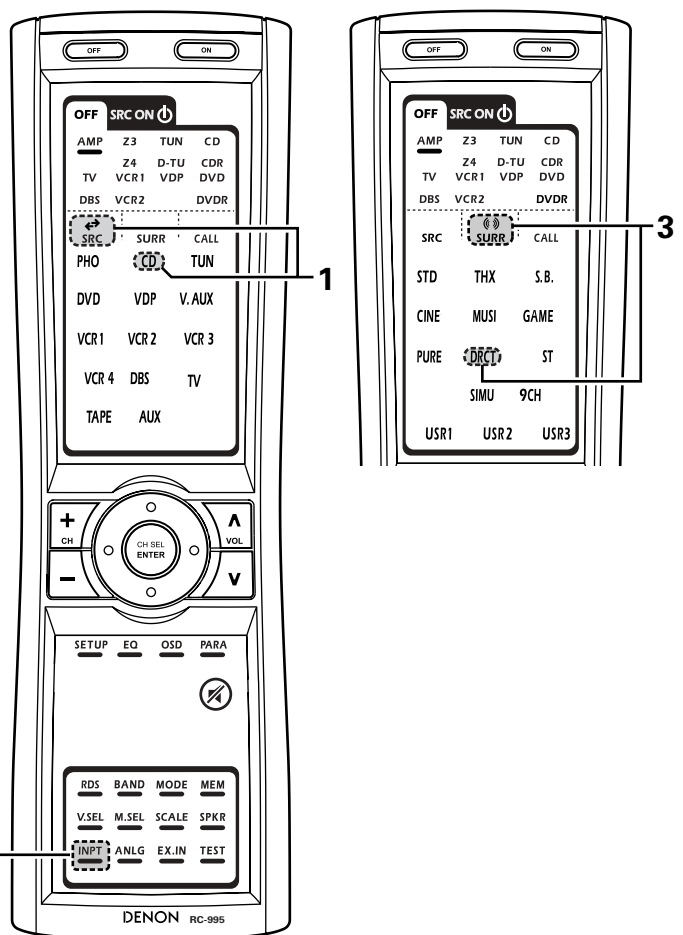
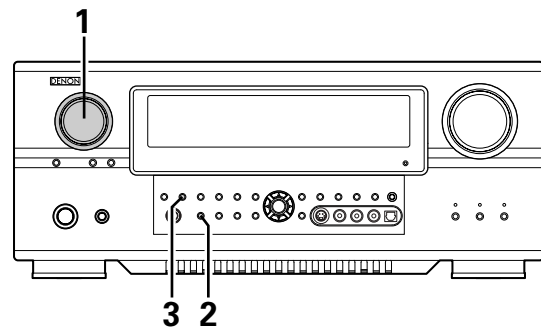
- IEEE1394表示（ IEEE 1394 ）が点灯します。

2 **入力モードを『AUTO』に設定する。**

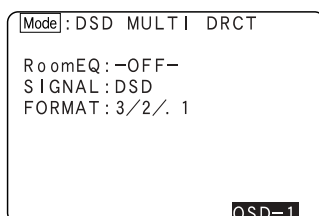
3 **再生モードを選択する。**

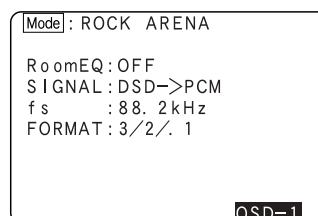
【例】DIRECT

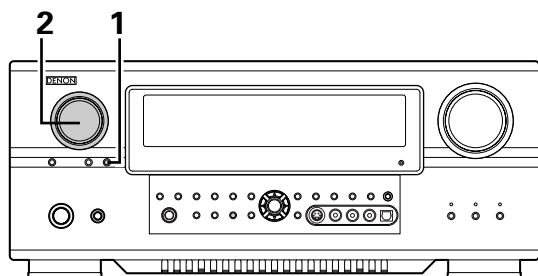
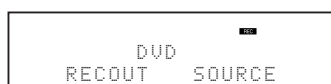
4 **選択したIEEE1394接続機器の再生をはじめる。**

- DSD表示（ DSD ）が点灯します。
- DSD2チャンネル信号をDIRECTモードで再生する場合には、“ DSD DIRECT ” とディスプレイに表示されます。
  DSDマルチチャンネル信号をDIRECTモード（SB CH OUT=OFF）で再生する場合には、“ DSD MULTI DIRECT ” とディスプレイに表示されます。

DSD信号をDIRECTやPURE DIRECTモードで再生する場合には、DSD信号はDSD信号のままアナログ変換されます。それ以外のサラウンドモードで再生する場合には、DSD信号は一度サンプリング周波数88.2kHzでPCM変換されてからアナログ変換されます。ただし、DSD 2チャンネル信号をSTEREOモードで再生する場合のみサンプリング周波数176.4 kHzでPCM変換されます。リモコンのオンスクリーンボタンを押すことにより、入力信号および再生状態が確認できます。

【例】DSDマルチチャンネル信号をDIRECTモードで再生した場合

```
Mode：DSD MULTI DRCT

RoomEQ：−OFF−
SIGNAL：DSD
FORMAT：3／2／．1

                    OSD−1
```

【例】DSDマルチチャンネル信号をROCK ARENAモードで再生した場合

```
Mode：ROCK ARENA

RoomEQ：OFF
SIGNAL：DSD−>PCM
fs    ：88．2kHz
FORMAT：3／2／．1

                    OSD−1
```

（7）録音/録画のしかた（REC OUTモード）

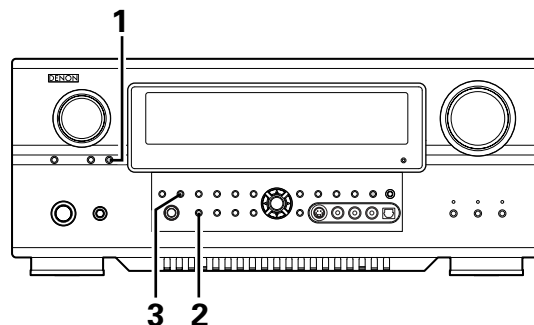
1 再生中のソースを楽しみながら別のプログラムソースを録音するには

ディスプレイ

ご注意

- REC OUTモードで選択した録音ソースのアナログ入力信号は、ゾーン3の音声/映像出力端子にも出力されます。
- REC OUTモード中は、リモコンのゾーン3のボタン操作はできません。
- 「デジタル出力の設定」（☞ P. 100）で『ZONE2 SELECT』を選択しているときは、OPTICAL2 OUTのデジタル出力はZONE2 SELECTモードに連動してソースが切り替わります。

1	**ゾーン3/レックボタンを押し、ディスプレイに“RECOUT SOURCE”を表示させる。** ZONE 3 / REC SELECT（本体） ● REC OUT表示（REC）が点灯します。 ● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。 ZONE3 SOURCE ←→ RECOUT SOURCE
2	**ファンクション切り替えつまみを回す。** FUNCTION（本体）
3	**録音/録画状態にする。** ● 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

※ **解除する場合**はゾーン3/レックボタンを押し、ディスプレイに“SOURCE”が表示されるまで入力ファンクション切り替えつまみを回してください。

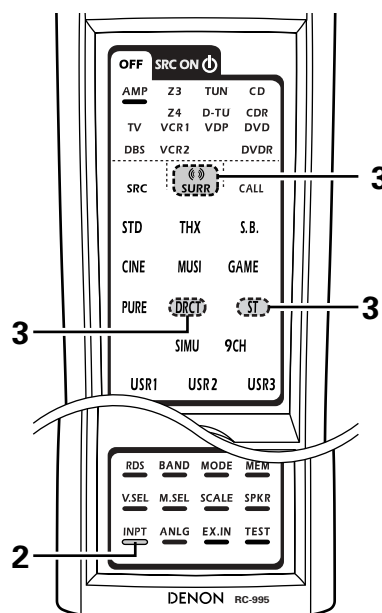
2 ドルビーデジタルおよびDTSのマルチチャンネルソースを録音するには

★ 本機は、ドルビーデジタルおよびDTSのマルチチャンネル信号を2chのアナログ信号にかえて録音することができます。
★ CDR/TAPEとVCRの音声出力端子にダウンミックスされた録音信号が出力されます。
このときOPTICAL2〜4のデジタル出力端子からはダウンミックスされたデジタル信号が出力されます。

1 **ゾーン3/レックボタンを押し、ディスプレイに“REC OUT SOURCE”を表示させる。**
- REC OUT表示（REC）が点灯します。
- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

ZONE3 SOURCE ←→ RECOUT SOURCE

2 **録音するソースに合わせて入力モードを設定する。（☞ P. 105、106）**

3 **サラウンドモードをDIRECTモードまたはSTEREOモードに設定する。**
- マルチチャンネルのデジタル信号が2chにダウンミックスされて、各出力端子に出力されます。

4 **録音/録画状態にする。**
- 操作のしかたは、録音または録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

3 ドルビーヘッドホンモードで録音するには

★ REC OUTモードを『SOURCE』に設定した場合、本機はドルビーヘッドホンでエンコードした信号を録音出力端子に出力し、他の録音機器で録音することが可能です。

ご注意
- 録音中にはヘッドホンを抜かないでください。

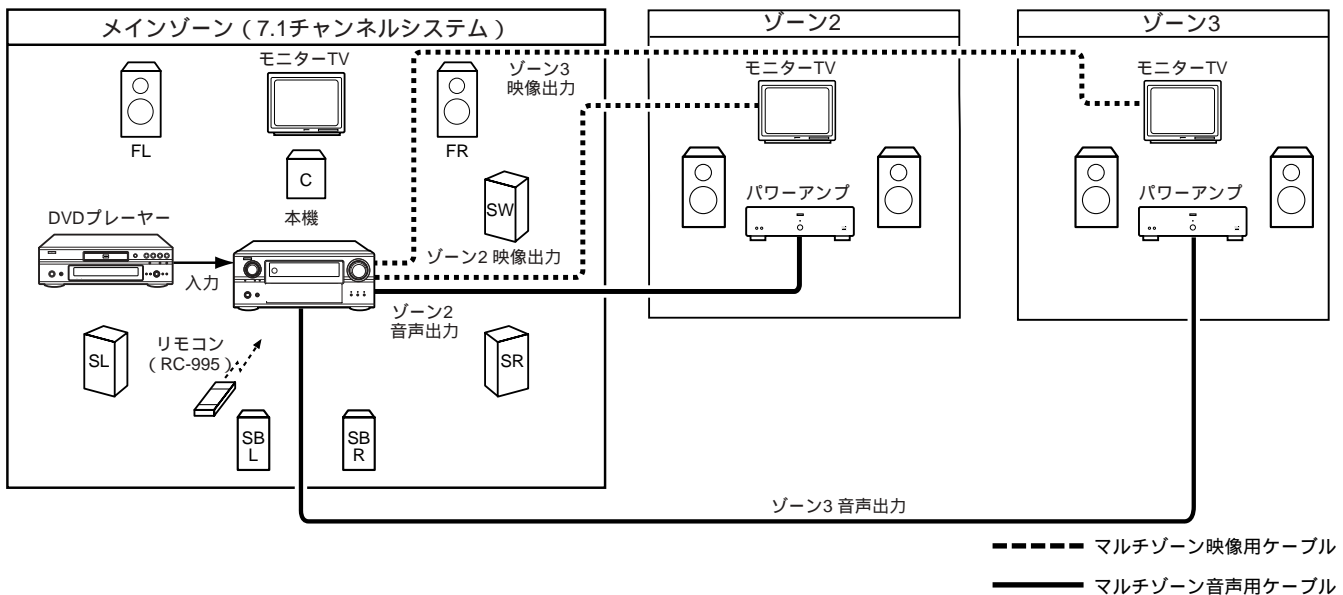
1	**ドルビー/DTSサラウンド再生中に、ヘッドホンジャックにヘッドホンプラグを挿入する。** ● 録音用出力端子（アナログおよびデジタル）にドルビーヘッドホンでエンコードした信号が自動的に出力されます。
2	**パラメーターをお好みのモードに設定してから録音を開始する。** ※「サラウンドパラメーターについて」（☞ P. 126）

9 マルチゾーンについて

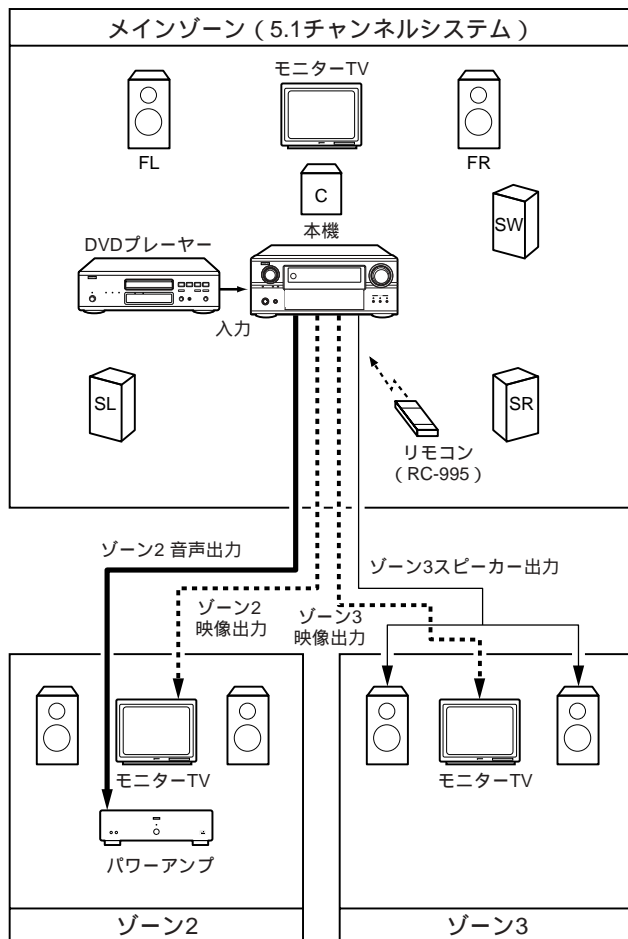
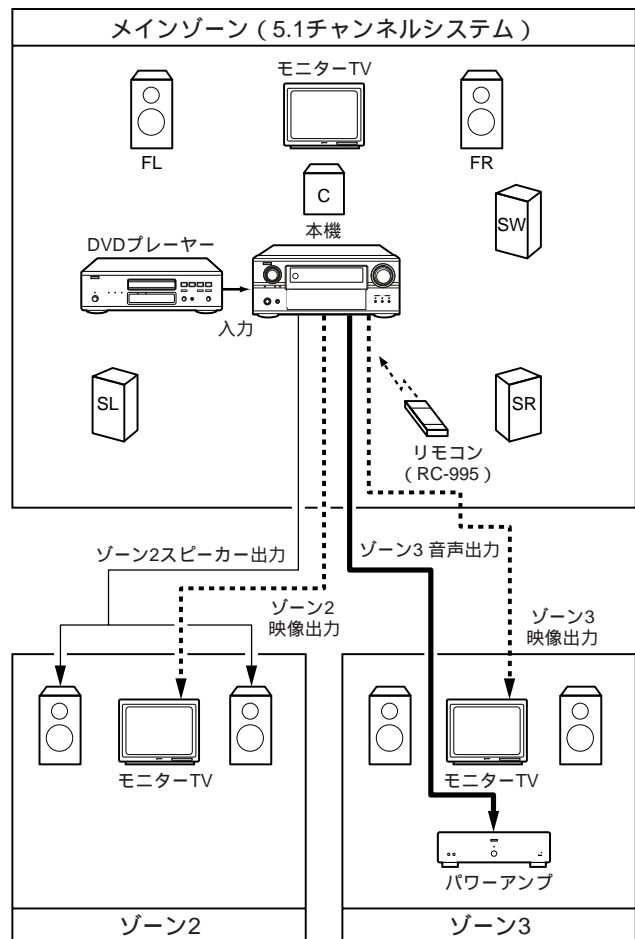
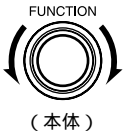
（1）マルチゾーンの音声再生システムについて

★ 本機は2系統のマルチゾーン出力（ゾーン2/3）を備えています。
本機に別のアンプを接続して、同時に別の部屋でメインゾーンとは別のプログラムソースの再生を楽しむことができます。

1 プリアウト端子を使用したマルチゾーンの再生システム

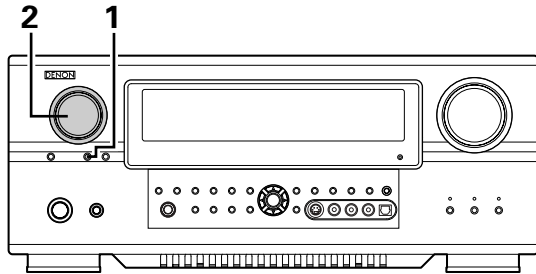
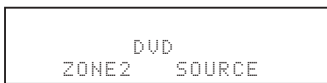
★ 本機の全てのパワーアンプをメインゾーン用として使用する場合は、マルチゾーン用のプリアウト端子に接続してマルチゾーンでの再生をおこないます。
★ 本機はゾーン2、ゾーン3用出力端子としてそれぞれに音量レベルを可変可能なプリアウト端子と映像出力端子（ビデオ、Sビデオ）を備えています。
★ ゾーン2（またはゾーン3）でスピーカーを1台だけご使用になる場合は、システムセットアップメニューの「再生チャンネルの設定」（☞ P. 92、93）で、ゾーン2（ゾーン3）のチャンネル設定を『Mono』に設定してください。ゾーン2（ゾーン3）リスニングルームでのモノラル再生をお楽しみいただけます。この場合、ゾーン2（ゾーン3）のモノラル出力はZONE2（ZONE3）PRE OUTのL/R端子両方から出力されますので、お好みに応じて接続してください。
★ 下図は接続例です。
※ゾーン2およびゾーン3リスニングルームにはそれぞれ別のパワーアンプが必要です。

2 スピーカー端子を使用したマルチゾーンの再生システム

★ 本機は通常メインゾーン用に使用しているパワーアンプをマルチゾーン（ゾーン2、ゾーン3）用に割り当て、本機のスピーカー端子を使用してマルチゾーンの再生をおこなうことができます。
★ システムセットアップメニューの「パワーアンプの割り当ての変更」（☞ P. 94、95）で、パワーアンプをゾーン2（ゾーン3）のチャンネル出力に割り当ててください。
★ 下図は接続例です。

【例1】 **【例2】**

3 本機から離れた部屋（ゾーン2およびゾーン3）のアンプなどにプログラムソースを出力して楽しむには

❶ ゾーン2モード

ディスプレイ

```
DVD
ZONE2   SOURCE
```

1	**ゾーン2セレクトボタンを押す。** （本体）
2	**出力させたいソースがディスプレイに表示されるまで入力ファンクション切り替えつまみを回す。** （本体）
3	**出力させたいソースを再生する。**

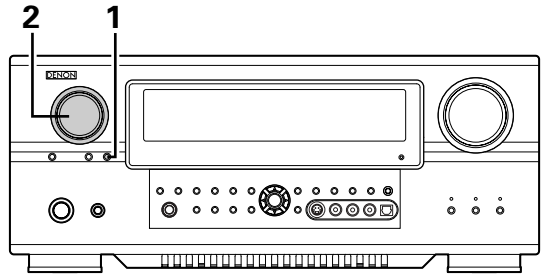
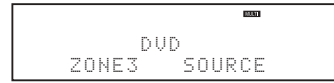
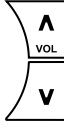
※ リモコンで操作する場合は、AMP/Z2ボタンでゾーン2（Z2）モードを選択してからダイレクトに入力ソースを選択します。

ご注意

- ゾーン3モードで選択した出力ソースは、CDR/TAPEとVCRの各録音用出力端子からも出力されます。
- デジタル信号はゾーン2およびゾーン3の音声出力端子からは出力されません。
- OPTICAL2～4 OUTのデジタル出力は通常ZONE3/REC SELECTモードに連動してソースが切り替わりますが、「デジタル出力の設定」（☞ P. 100）で『ZONE2 SELECT』を選択している場合はOPTICAL2 OUTのデジタル出力はZONE2 SELECTモードに連動してソースが切り替わります。

❷ ゾーン3モード

ディスプレイ

```
MULTI
DVD
ZONE3   SOURCE
```

1 **ゾーン3/レックボタンを押し、ディスプレイに“ ZONE3 SOURCE ”を表示させる。**

（本体）

- ゾーン3モードを選択した場合はMULTI表示（ MULTI ）が点灯します。
- ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。

ZONE3 SOURCE
↕
RECOUT SOURCE

※ 本機がREC OUTモード（（☞ P. 137、138）の場合は“ RECOUT SOURCE ”と表示されます。

2 **出力させたいソースがディスプレイに表示されるまで、入力ファンクション切り替えつまみを回す。**

（本体）

3 **出力させたいソースを再生する。**

※ リモコンで操作する場合は、Z3/Z4ボタンでゾーン3（Z3）モードを選択してからダイレクトに入力ソースを選択してください。
なお、本機がREC OUTモードの場合はリモコンからゾーン3の入力ソースを切り替えることはできません。

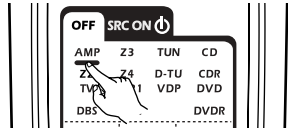
マルチゾーンについて（つづき）

（2）マルチゾーン再生時のリモコンによる操作

1	**モード切り替えボタンを押し、操作したいゾーンを選択する。** 【例】ゾーン2 Z2（リモコン）
2	**SOURCE ONボタンを押し、ゾーンの電源を入れる。** SRC ON（リモコン） ※ **ゾーンの電源をオフにする場合**は OFFボタンを押してください。 OFF（リモコン）
3	**マルチゾーンで再生したい入力ソースを選択する。** 【例】DVD SRC ➡ DVD （リモコン）
4	**音量を調節する。** ※ リモコンからの音量調節は「音量の設定」（☞ P. 96）で『VAR』（初期設定）を設定時に操作できます。 ※ 各ゾーンの音量レベルの初期設定は−40dBです。 ※ マルチゾーンの音量は−80〜0〜18dBの範囲で1dBステップで調節できます。 VOL（リモコン）
5	**一時的に音を消すには ミューティングボタンを押す。** ●「音量の設定」（☞ P. 96）で設定したレベルになります。 （リモコン） ※ **解除する場合**は音量を調節するか、もう一度ミューティングボタンを押してください。 ※ ゾーンの電源をオフにすると、設定は解除されます。

（1）DENON製オーディオ機器の操作のしかた

★ 操作する前に各機器の電源を入れてください。
★ お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

1 **操作したい機器のモードを選択する。**

※ モード切り替えボタンを押すたびにモードが切り替わります。

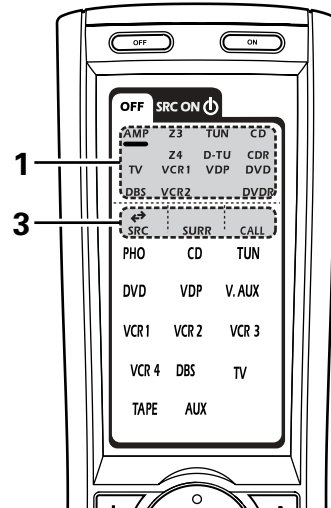
【例】AMPモード選択時 ： AMP

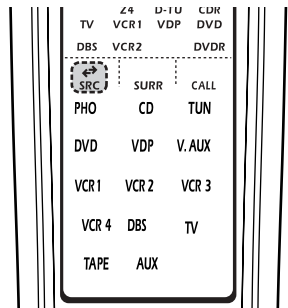
ゾーン2 (Z2)モードを選択時 ： Z2

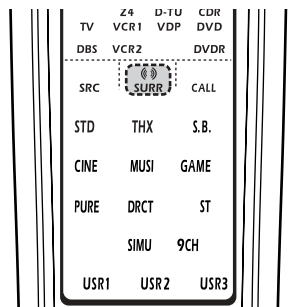
※ “ Z4 ” および “ D-TU ” は本機では操作できません。

2 **オーディオ機器を操作する。**

● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

3

入力ソース画面

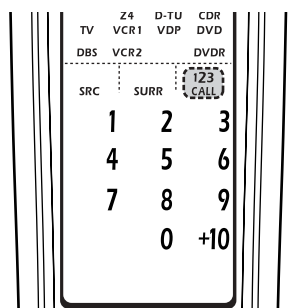
● 入力ソースを操作する時に選択してください。

サラウンド画面

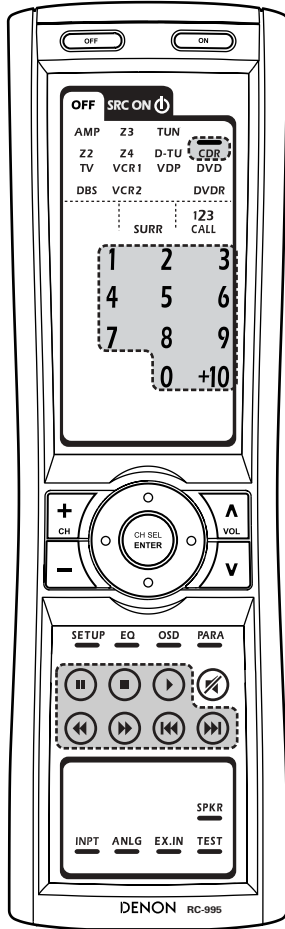
● サラウンドモードを操作する時に選択してください。

10キー/システムコール画面

● 10キー/システムコールを操作する時に選択してください。

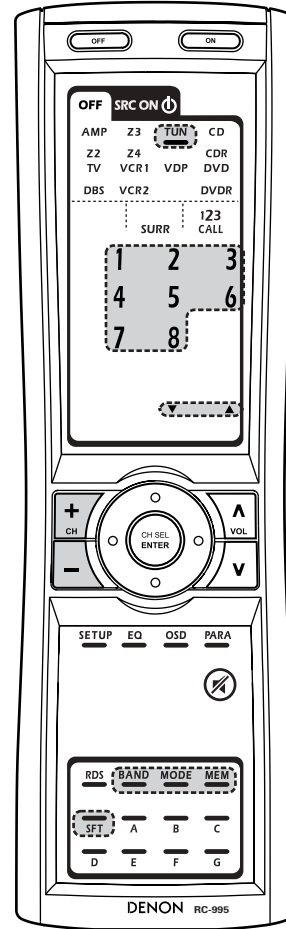
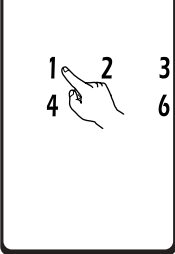
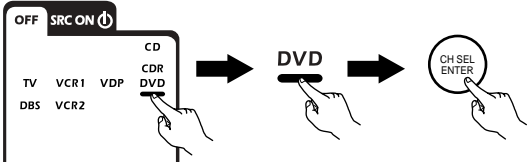
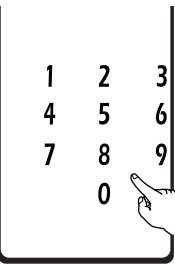
1．CD（CD）プレーヤーのシステムボタン

0〜9、+10 ：テンキー
❚❚ ：一時停止
■ ：停止
▶ ：再生
|◀◀、▶▶| ：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶ ：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）

（次のページに続きます。）

3
つづき

2．MDレコーダー（MD）、CDレコーダー（CDR）、およびテープデッキ（TAPE）のシステムボタン

0～9、+10	：テンキー
❚❚	：一時停止
■	：停止
▶	：再生
❙◀◀、▶▶❙	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）

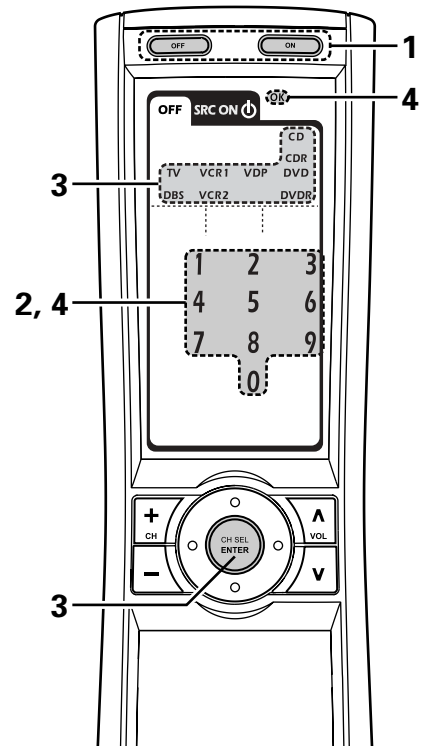
※ MDおよびTAPEのシステムボタンは、CDRモードにプリセットメモリーすることにより操作することができます。（☞ P. 145）
なお、MD、CDRおよびTAPEはいずれか1つの機器しかプリセットメモリーすることができません。

3．チューナー（TUNER）のシステムボタン

1～8	：プリセットチャンネル
▲、▼	：チューニングのアップ/ダウン
CH +、–	：プリセットチャンネルのアップ/ダウン
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
MODE	：オート/マニュアルの切り替え
MEM	：プリセットメモリー
SFT	：メモリーブロックの切り替え

(2) プリセットメモリーについて

★ お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、**機種によっては操作できない場合や機器が正確に動作しない場合があります**ので、その場合は学習機能（☞ P. 148）によりお手持ちの機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させてご使用ください。

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『1』ボタンを押し、プリセットメモリーの設定を選択する。** 1. プリセットメモリーの設定
3	**メモリーしたい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。**
4	**付属のリモコンコード表を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字ボタン（4桁）を入力する。** ● 正常にメモリーされると“OK”が表示され、定常状態に戻ります。 ● 誤ったリモコンコードを入力した場合は、“FAIL”が表示されます。
5	**続けて他の機器のメモリーをおこなう場合は、操作*1*～*5*をくり返しおこなう。**

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコードは、以下の通りです。
・TV, VCR1 ……………………………HITACHI
・CD, CDR, VDP, DVD, DVDR ………DENON
・VCR2, DBS ……………………………SONY

ご注意

● 添付のリモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
● 学習をしたボタンについては、プリセットメモリーをしても学習した内容を優先して残しますので、不要の場合は（☞ P. 153）に従って学習内容を消去してください。
● メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。

■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

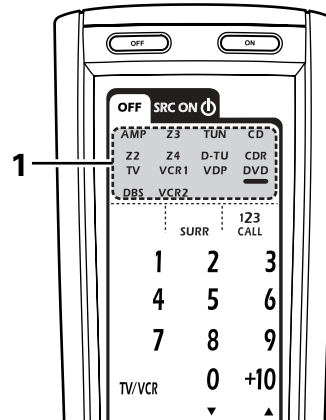
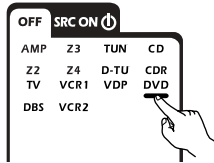
DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード番号
DVD-550/900/1000/1400/ DVD-1500/1910/2200/2800/ DVD-2900/2910/3800/3910/ DVD-A11/A1/A1XV	0000
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	0517

※ 工場出荷時の初期設定は『0000』です。

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(3) プリセットメモリーした機器の操作のしかた

1

操作したい機器のモードを選択する。

ご注意

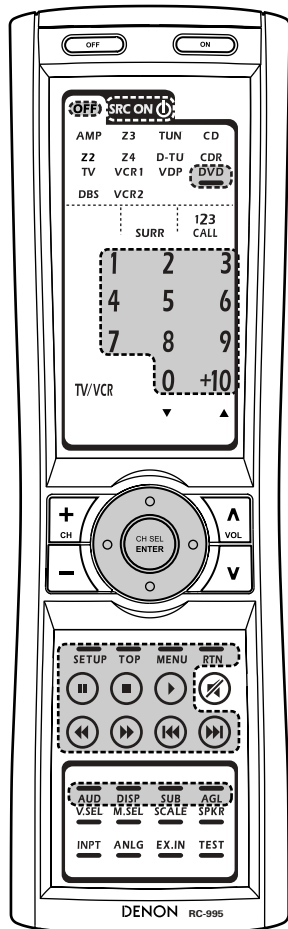
- DVDのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機能のリモコンの動作と照らし合わせ、ご使用ください。

2

機器を操作する。

- 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

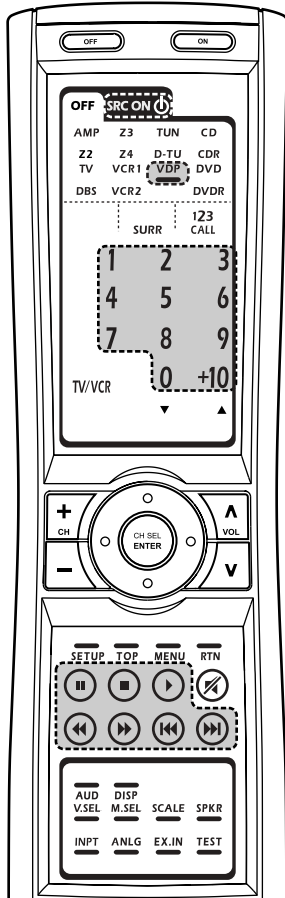
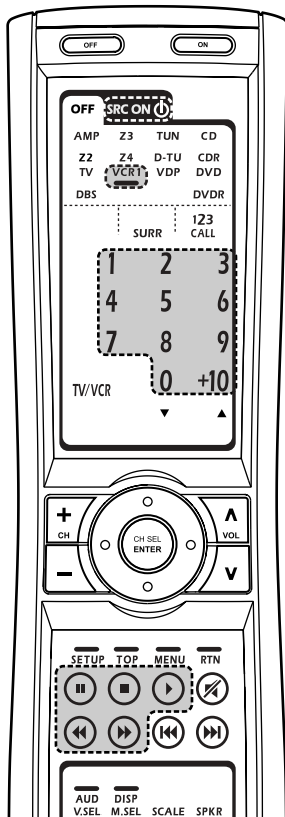
※ 機種によっては操作できないものがあります。

1．DVDプレーヤー（DVD）およびDVDレコーダー（DVDR）のシステムボタン

OFF：電源のオフ（DENON DVDのみ）
SRC ON：電源のオン/スタンバイ
0～9、+10：テンキー
↑、↓、←、→：カーソル上/下/左/右
ENTER：設定の確定
SETUP：セットアップ
TOP：トップメニューの呼び出し
MENU：メニューの呼び出し
RTN：メニューのリターン
❚❚：一時停止
■：停止
►：再生
❙◄◄、►►❙：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
AUD：音声の切り替え
DISP：ディスプレイの切り替え
SUB：サブタイトル切り替え
AGL：アングルの切り替え

（次のページに続きます。）

**2．ビデオディスクプレーヤー（VDP）の
システムボタン**

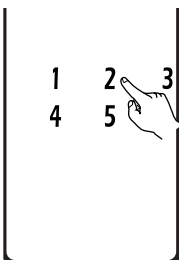
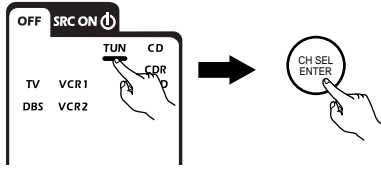
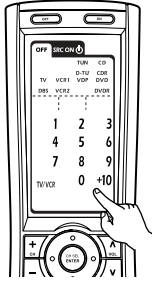
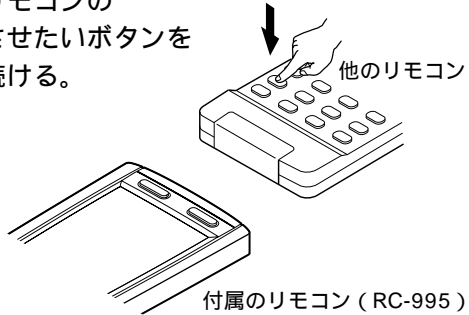
SRC ON	：電源のオン/スタンバイ
0〜9、+10	：テンキー
II	：一時停止
■	：停止
►	：再生
I◄◄、►►I	：オートサーチ（頭出し）
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）

**3．ビデオデッキ（VCR-1/VCR-2）の
システムボタン**

SRC ON	：電源のオン/スタンバイ
0〜9、+10	：テンキー
II	：一時停止
■	：停止
►	：再生
◄◄、►►	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）

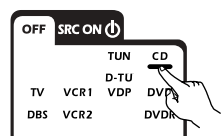
**4．モニターテレビ（TV）の衛星放送（DBS）チューナー
またはケーブル（CABLE）のシステムボタン**

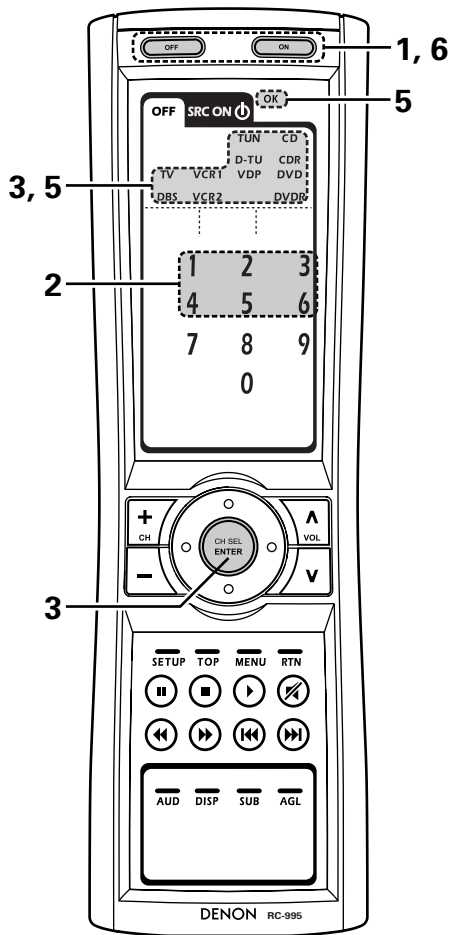
SRC ON	：電源のオン/スタンバイ
0〜9、+10	：チャンネルの選択
TV/VCR	：テレビ/ビデオの切り替え
▲、▼	：音量のアップ/ダウン
CH ＋、－	：チャンネルの切り替え
↑、↓、←、→	：カーソル上/下/左/右
ENTER	：設定の確認
SETUP	：セットアップ
TOP	：トップメニューの呼び出し
MENU	：メニューの呼び出し
RTN	：メニューのリターン
DISP	：ディスプレイの切り替え

※ CABLEのシステムボタンは、DBSモードにプリセットメモリーすることにより操作することができます。（☞ P. 145）
なお、DBSおよびCABLEはどちらか一方の機器しかプリセットメモリーすることができません。

（4）学習機能について

★ お手持ちのAV機器がDENON製品でない場合、またはプリセットメモリーで操作できない場合は、各機器のリモコン信号を付属のリモコンに記憶させて操作をすることができます。
★ リモコン信号によっては学習できない場合や学習に成功しても機器が正常に動作しない場合がありますので、このような場合にはご使用になる機器に付属の専用リモコンで操作してください。

1
電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。

2
『2』ボタンを押し、学習機能の設定を選択する。
2. 学習機能の設定

3
学習したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。
● ボタンが点灯します。

4
学習させたいボタンを押す。
● 表示が消え、学習待機状態になります。

5
リモコンをまっすぐに向かい合わせ、他のリモコンの学習させたいボタンを押し続ける。

付属のリモコン（RC-995）

● 学習機能が終了すると、リモコンの表示部に“ OK ”が表示されます。
● 他にも学習させたいボタンがある場合は、操作 ***4***、***5*** をくり返しおこなってください。

5 つづき
※ 表示中にモード切り替えボタンを押すと、モードを切り替えることができます。

6
学習機能を解除するときは、電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。

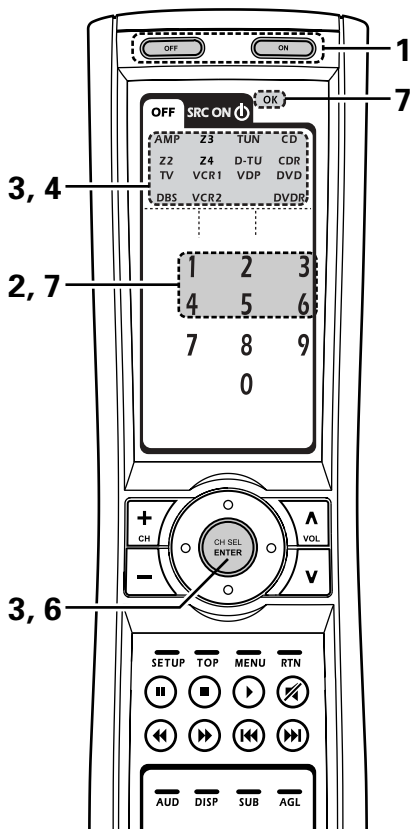
（5）システムコールについて

★ 付属のリモコンには1つのボタン操作をおこなうだけで、連続して複数のリモコン信号を送信できるシステムコール機能が搭載されています。
この機能を用いることにより、ワンタッチでアンプの電源ON、入力ソースの選択、モニターテレビの電源ON、ソース機器の電源ON、再生などが可能です。

1 システムコールボタン

CALL1～CALL6ボタンにそれぞれ12個までの信号を登録することができます。
システムコール機能は、AMPモードで使用することができます。

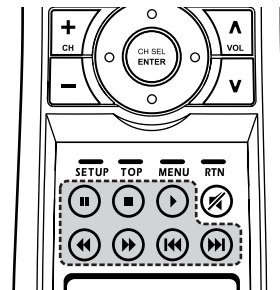
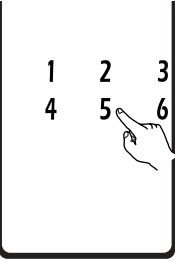
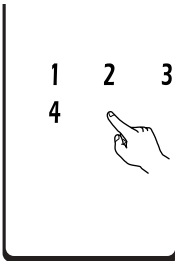
2 システムコールの登録のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『3』ボタンを押し、システムコールの設定を選択する。** 3. システムコールの設定

3	**システムコールに登録したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。**
4	**登録させたいリモコン信号を持つボタンを1つずつ押す。** ※ 表示中にモード切り替えボタンを押すと、モードを切り替えることができます。
5	***4* の操作をくり返して必要なボタンを登録する。** ● 登録できる数を越えた場合は、自動的にシステムコールの登録画面に切り替わります。
6	**ボタンの登録が終了したらエンターボタンを押す。** ● システムコールの登録画面に切り替わります。
7	**CALL1～CALL6のボタンを押し、システムコールを登録する。** ● 登録が終了するとリモコンに“ OK ”が表示され、通常モードに切り替わります。

3 システムコールのしかた

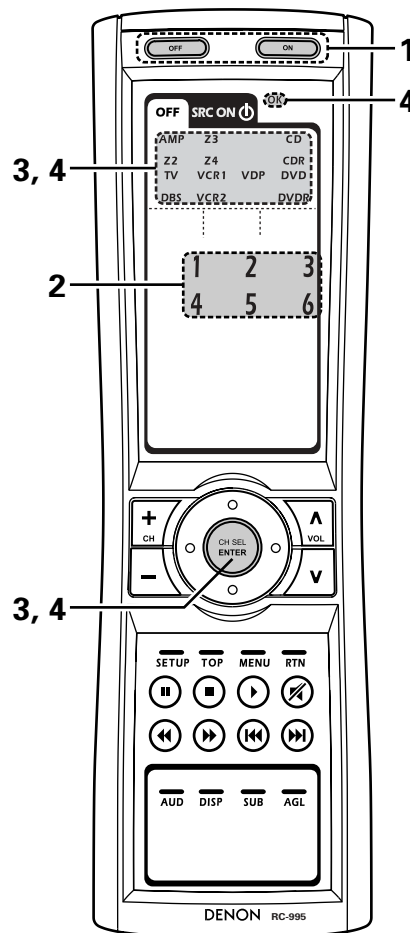
1	**アンプモードを選択する。**
2	**10キー/システムコール画面を選択する。**
3	**システムコールを登録したボタンを押す。** ● 登録した信号が連続して送信されます。

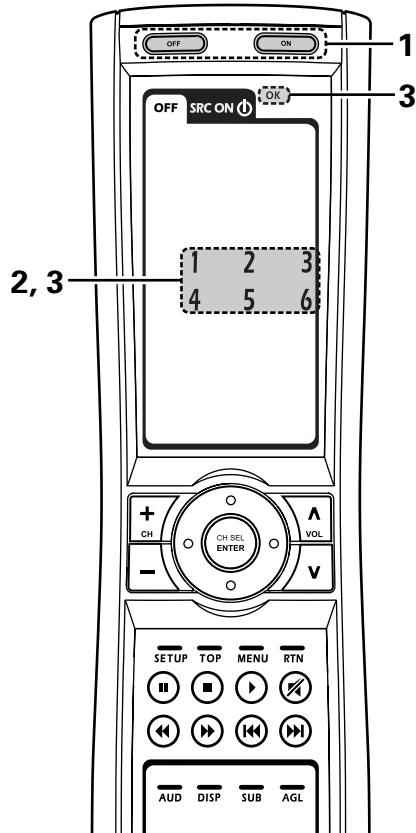
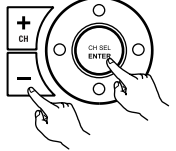
(6) パンチスルーについて

★ AMP、Z2、Z3、Z4、TVおよびDBSモード時には通常使用しない右図のボタンにCD、CDR、DVD、DVDR、VDP、VCR1およびVCR2モードのボタンを割り当てることができます。
例えば、AMPモードにCDモードをパンチスルー設定すると、AMPモード時にCDモードの再生、停止、マニュアルサーチ、オートサーチおよび一時停止ボタンを操作することができます。

1 **電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**

2 **『4』ボタンを押し、パンチスルーの設定を選択する。**
4. パンチスルーの設定

3 **パンチスルーに設定したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。**

4 **パンチスルーしたい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。**
●“ OK ”が表示されパンチスルーが設定されます。

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

(7) バックライト点灯時間の設定のしかた

1 電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。

2 『5』ボタンを押し、バックライト点灯時間の設定を選択する。

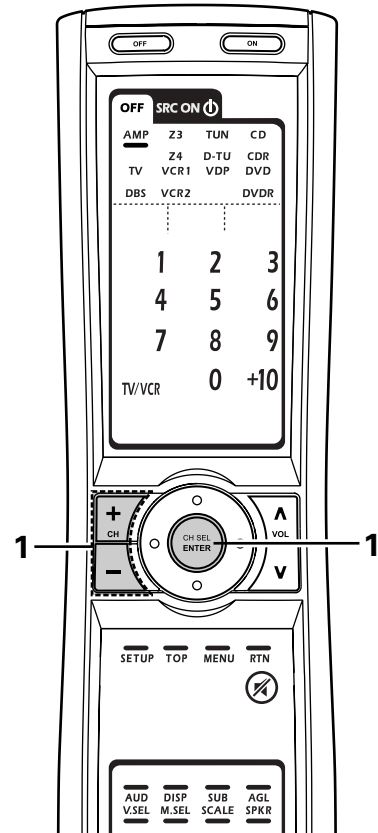
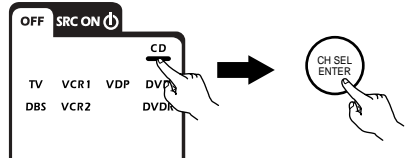
5. バックライト点灯時間の設定

3 設定したい時間（5〜20秒）のボタンを押す。

- “ OK ” が表示され、点灯時間が設定されます。

［点灯時間］
1：　5秒
2：10秒（工場出荷時）
3：15秒
4：20秒

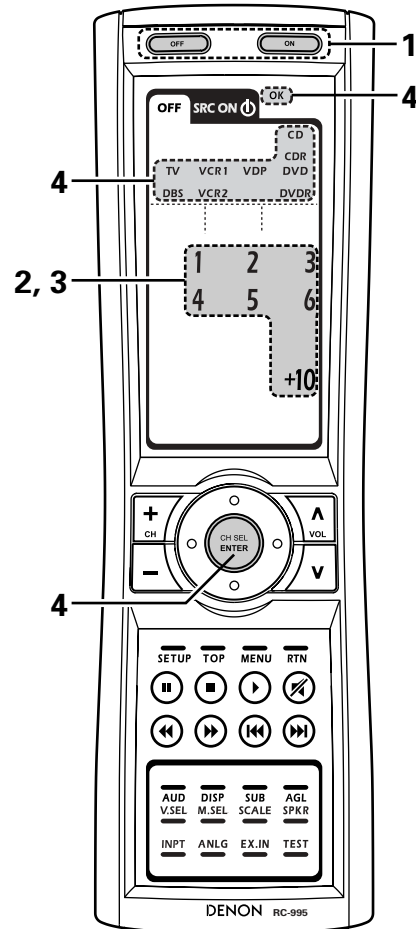
(8) 明るさの設定のしかた

★ 表示の明るさを3段階で、調節することができます。

1 エンターボタンを押しながら、CH －またはCH ＋ボタンを押す。

- CH －ボタンを押すと1段階暗くなります。
- CH ＋ボタンを押すと1段階明るくなります。

（9）初期化のしかた

1 プリセットメモリーの初期化のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。** OFF　ON
2	**『6』ボタンを押し、各設定の初期化を選択する。** 6. 各設定の初期化 1 2 3 4 5 6
3	**『1』ボタンを押し、プリセットメモリーの初期化を選択する。** ［初期化］ 1：プリセットメモリーの初期化 2：学習機能の初期化 3：システムコールの初期化 4：パンチスルーの初期化 +10：全設定の初期化（工場出荷時） 1 2 3 4 +10
4	**初期化したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。** ● “ OK ” が表示され、選択した機器のプリセットメモリーが初期化されます。 OFF　SRC ON CD TV　VCR1　VDP　DVD DBS　VCR2　DVDR CH SEL ENTER

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

2 学習機能の初期化のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『6』ボタンを押し、各設定の初期化を選択する。**
3	**『2』ボタンを押し、学習機能の初期化を選択する。**
4	**初期化したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。** ● “ OK ” が表示され、選択した機器の学習機能が初期化されます。

3 システムコールの初期化のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『6』ボタンを押し、各設定の初期化を選択する。**
3	**『3』ボタンを押し、システムコールの初期化を選択する。**
4	**初期化したいシステムコールの番号を選択し、エンターボタンを押す。** ●“ OK ” が表示され、選択したシステムコールが初期化されます。

4 パンチスルーの初期化のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『6』ボタンを押し、各設定の初期化を選択する。**
3	**『4』ボタンを押し、パンチスルーの初期化を選択する。**
4	**初期化したい機器のモードを選択し、エンターボタンを押す。** ● “ OK ” が表示され、選択した機器のパンチスルーが初期化されます。

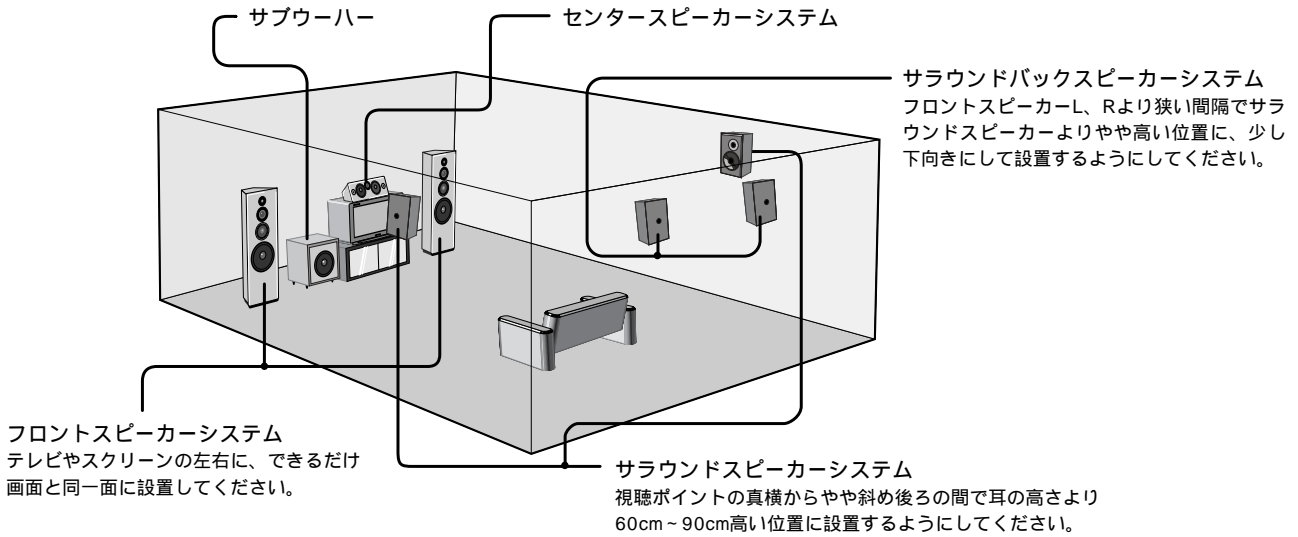
5 全設定の初期化のしかた

1	**電源ボタンのONボタンとOFFボタンを同時に押す。**
2	**『6』ボタンを押し、各設定の初期化を選択する。**
3	**『+10』ボタン押すと、全ての設定が初期化され、工場出荷時と同じ状態になります。** ● 約20秒後に初期化が終了し、定常状態に戻ります。

11 スピーカーのセットアップについて

■スピーカーシステムのレイアウト

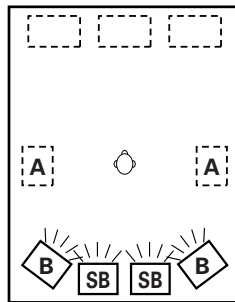
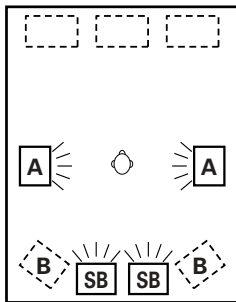
基本的なシステムレイアウト

- スピーカーシステム（8台）とテレビを組み合わせた基本的なシステムレイアウトの例です。

本機ではさらに、サラウンドスピーカー切り替え機能を使って、さまざまなソースやサラウンドモードに最適なレイアウトをおこなうことが可能です。

■サラウンドスピーカー切り替え機能とは

2系統のサラウンドスピーカー（A、B）を切り替えて使用することにより、ソースごとに異なる最適な音場を創り出す機能です。各スピーカーのON/OFF（Aのみ、Bのみ、A＋B）は各サラウンドモードごとに記憶し、サラウンドモードとともに瞬時に呼び出すことができます。

Aのみを使用

Bのみを使用

※ SB：サラウンドバックスピーカー

スピーカーのセットアップについて（つづき）

■セッティングの前に……ソースごとに異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

★マルチチャンネル信号の種類

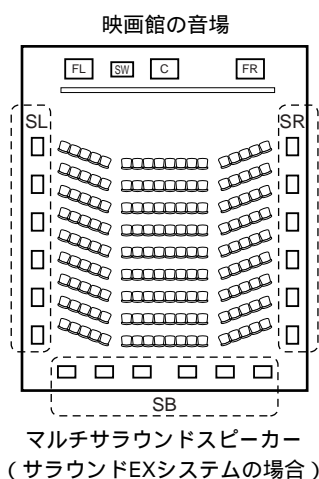
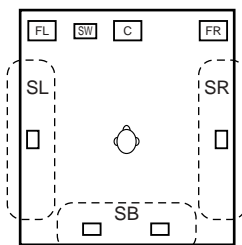
ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、Super Audio CD、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）ではなく、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

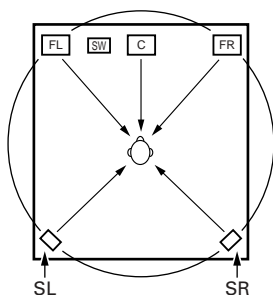
★ソースの種類

● 映画の音声：映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

映画館の音場

マルチサラウンドスピーカー
（サラウンドEXシステムの場合）

リスニングルームでの
映画再生

サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。
そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4～8台程度）、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

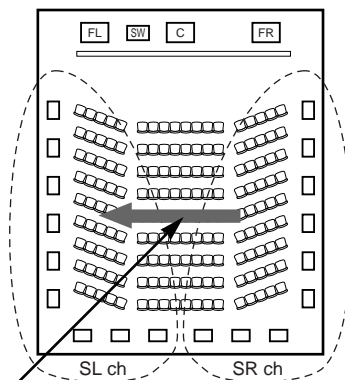
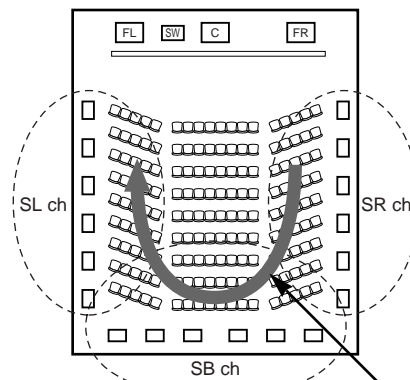
（SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル）

● その他の音声：3～5台程度のスピーカーを用いて360 ° の音場を再現することを目的につくられた信号です。

各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360 ° 均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

本機のサラウンドスピーカー切り替え機能により、組み合わせるサラウンドスピーカーや周囲の環境に合わせてさまざまなアレンジが可能となり、すべてのソースに対して理想的なサラウンド再生が実現できます。

■サラウンドバックスピーカーについて

THXサラウンドEXシステムによって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーに合わせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

本機においてTHXサラウンドEXシステムを実現する場合、1chまたは2ch分のスピーカーが必要になります。しかし、これらを追加することによりTHXサラウンドEXで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。本機のWIDE SCREENモードは、従来のドルビーサラウンド録音ソースやドルビーデジタル5.1ch、DTSサラウンド5.1chソースにおいて、サラウンドバックスピーカーを用いた最大7.1chのサラウンド再生を実現するモードです。また、他のDENONオリジナルサラウンド（☞ P. 122）もすべて7.1ch再生に対応しており、すべての信号ソースに対して7.1ch再生をお楽しみいただけます。

★サラウンドバックスピーカーの台数について

サラウンドバックチャンネルは、THXサラウンドEXにおいては1chの再生信号ですが、2台のスピーカーを使用することを推奨します。特にTHXウルトラ2シネマモード、THXミュージックモード、THXゲームズモードで再生する場合には、2台使用することが必須となります。

★サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。

これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースをTHXサラウンドEXモードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

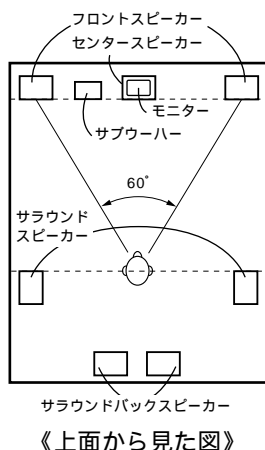
スピーカーのセットアップについて（つづき）

■スピーカーセッティング例

次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

1．THXサラウンドEXシステム（サラウンドバックスピーカーを使用）の場合

（1）映画再生をメインにおこなう、基本的なセッティング

映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。

《上面から見た図》

《側面から見た図》

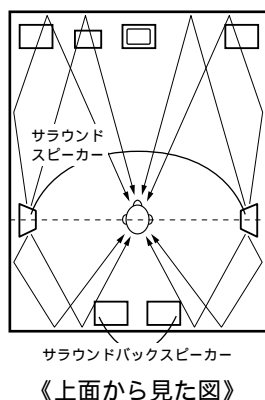
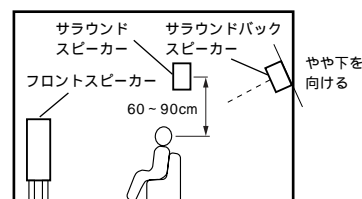
- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60～90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2台設置する場合は後方から前向きに、かつ各々のスピーカーが視聴ポイントから等距離になるように、1台設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置に設置します。（サラウンドスピーカー ＋0～20cmの高さで）
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。（☞ P. 38））

（2）映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を（1）に比べてやや前寄りにします。

サラウンド音の視聴ポイント
に到達するイメージ

《上面から見た図》

《側面から見た図》

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は（1）と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60～90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、（1）と同様です。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。（☞ P. 38））
- サラウンドチャンネルの信号は、左図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。
  一方マルチチャンネルの音楽ソースの場合、後方の定位が不明確となることがあり、その場合次の（3）のようにマルチチャンネル音楽ソース用のサラウンドスピーカーを増設することによって、いずれのソースに対しても効果的なサラウンド再生ができるようになります。

（次のページに続きます。）

（3）映画再生と音楽再生のために、それぞれ専用のサラウンドスピーカーを使用する場合

映画再生とマルチチャンネル音楽再生のいずれも、最も効果的なサラウンド再生をおこなうために、それぞれの専用のサラウンドスピーカーを用意し、サラウンドモードと共に切り替えて使用します。

《上面から見た図》

《側面から見た図》

- フロントスピーカーは映画再生のみのときと比べて間隔をやや広めにとり、定位の中抜けを防ぐために多少視聴ポイントの方を向けます。（内側に振る。）
- センタースピーカーやサブウーハーの設定方法は（1）と同様です。
- 映画再生用のサラウンドスピーカーAは、お使いになるスピーカーの形状に合わせて（1）または（2）の方法で設置します。
- マルチチャンネル音楽再生のサラウンドスピーカーBは、フロントスピーカーと同じ高さに、視聴ポイントのやや斜め後の位置に、視聴ポイントの方を向けて設置します。
- 映画再生用のサラウンドスピーカーをA端子に、マルチチャンネル音楽再生用のサラウンドスピーカーをB端子に接続します。セットアップメニューにてサラウンドスピーカーの切り替えの設定をおこないます。（操作方法について（ ☞ P. 65））
- 主に映画再生をおこなうサラウンドモードをスピーカーAに、マルチチャンネル音楽再生をおこなうサラウンドモードをスピーカーBに設定します。

［**例**］：Dolby/DTSサラウンドなどの映画ソース
“ THXまたはTHX 5.1モード ” ‥‥スピーカーAを設定
DVD-VideoやDTS CDなどの音楽ソース
“ Dolby/DTSサラウンド ” ‥‥‥‥スピーカーBを設定

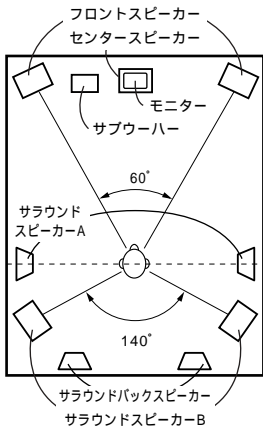
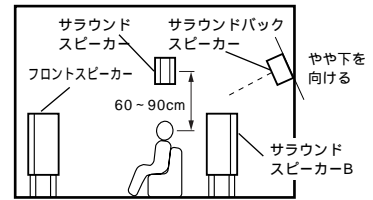
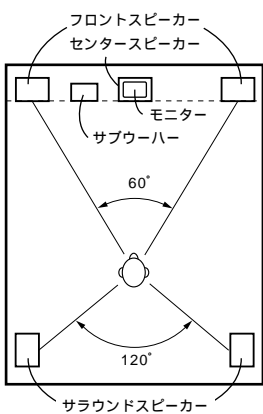
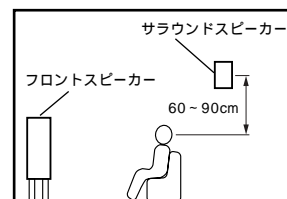
※映画再生のときにはHOME THX CINEMAをON、マルチチャンネル音楽再生のときにはOFFにすることによって、ワンタッチでスピーカーの切り替えがおこなえます。

サラウンドスピーカーA、Bは再生中にもリモコンのスピーカーボタンにて自由に切り替えがおこなえます。（操作方法について（ ☞ P. 135））

2．サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

《上面から見た図》

《側面から見た図》

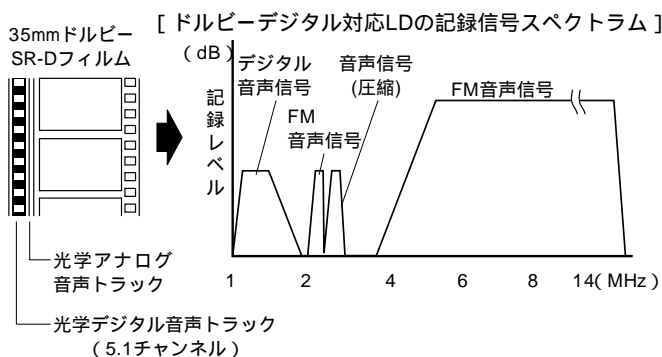
- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60～90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドスピーカーを本機のサラウンドスピーカーA端子に接続し、セットアップメニューにてすべての設定を『A』にします。（工場出荷時はこの設定になっています。（ ☞ P. 38））

12 サラウンドについて

★本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

(1) ドルビーサラウンドについて

① ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C（フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（～120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、さらにモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応が可能です。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することが可能となりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

◎ SR-Dとドルビーデジタルの関係

◎ ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L,R,C,S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

◎ ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク：DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と合わせて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 ※1	入力モードを『AUTO』に設定します。（☞ P. 105、106）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通） ※2	入力モードを『AUTO』に設定します。（☞ P. 105、106）
その他 衛星放送、CATVなど	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。（☞ P. 105、106）

※1 デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書をご覧ください。）
※2 DVDのデジタル出力には、ドルビーデジタル信号の出力方法を『ビットストリーム』と『PCM（に変換）』とで切り替える機能を持つものがあります。本機でドルビーデジタルサラウンド再生をおこなう場合は、これらのモードを『ビットストリーム』に切り替えてください。またデジタル出力が『ビットストリーム/PCM兼用』と『PCM専用』に分かれている場合があります。この場合は『ビットストリーム/PCM兼用』端子を本機に接続してください。

（次のページに続きます。）

サラウンドについて（つづき）

② ドルビープロロジックII

◎ ドルビープロロジックII は、従来のドルビープロロジック回路をさらに進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20～20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（☞ P. 127）

※ “ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ” とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックIIデコードをほどすことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

① PCMステレオ2ch信号
②ドルビーデジタル2ch信号

いずれの信号が本機に入力されても『STANDARD』（DOLBY/DTS SURROUND）モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックII』となります。

③ ドルビープロロジックIIx対応

◎ ドルビープロロジックIIxはドルビープロロジックIIのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。

また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

■ ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

（2）DTS デジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いはなく、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

◎DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク： DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ P. 105、106）。絶対に『ANALOG』ならびに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ P. 105、106）。絶対に『ANALOG』ならびに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※3	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（☞ P. 105、106）。

※1　CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。

※2　CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発生することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTS表示（☞ P. 113）が点灯することを確認してから主音量調節つまみを上げるようにしてください。

※3　DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

(3) DTS-ES Extended Surround™について

DTS-ES Extended Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。DTS-ES Extended Surroundは、従来のDTS Digital Surroundフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。
DTS-ES Extended SurroundはサラウンドチャンネルとしてFL、FR、C、SL、SR、LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバック、またはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：

追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL、SR、SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL、SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落なく再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：

追加されたSBチャンネルをあらかじめSL、SRチャンネルへマトリクスエンコードをほどこし挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL、SR、SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。勿論、DTS-ES Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。ただし、Matrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。これらを再生する場合は、手動でDTS-ES Matrix6.1モードを選択する必要があります。
（サラウンドモード選択の方法について（☞ P. 126、127））
またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号およびアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO：6サラウンドモードがあります。

DTS NEO：6™ サラウンドについて：

DTS-ES Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネルすべてのチャンネルでフルバンド（周波数特性20～20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。
DTS NEO：6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容に合わせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

- **DTS NEO：6 CINEMA：**
  映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
  同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL/SR/SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。
- **DTS NEO：6 MUSIC：**
  主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL/FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化がなく、さらにセンター（C）とサラウンド（SL/SR/SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな広がり感が加わります。

（4）DTS 96/24について

現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit　5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。

例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。
しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざると得なく静止画像のみの収録が一般的です。
また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。

DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度でとどまっていたのに対して、DTS 96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。
また24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。

DTS 96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS 96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。
従って、DTS 96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像と共に楽しむことができます。またDTS 96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※1）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。

このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。
さらに、DTS 96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です（※2）。

※1 DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24にて収録されたメディアが必要です。

※2 分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

（5）THX Ultra2について

THXは、THX社の開発した独自規格と技術を集約したものです。THXは、映画館でもホームシアターでも、映画監督の思い描いたサウンドトラックをできる限り忠実に再現したいという、ジョージルーカスの個人的な希望をもとに開発されました。

映画のサウンドトラックは、ダビングステージと呼ばれる特別の映画館でミキシングがおこなわれていて、同等の装置と条件を備えた映画館での上映のために作られています。そして、映画館向けに作られたサウンドトラックは、そのままレーザーディスクやVHSテープ、DVDなどに移され、小規模なホームシアターでの再生のために変更されることはありません。

THXエンジニアは、映画館環境のサウンドに対して、音的・空間的エラーの修正をおこない、ホームシアター向けに正確に変換する技術を開発し、特許を取得しました。本機ではHome THX Cinemaモードをオンにすると、Dolby Pro Logic、Dolby Digital、またはDTSデコーダーに続いて、THX処理が自動的に追加されます。

リ・イコライゼイション（Re-Equalization™）：

映画サウンドトラックの音的バランスは、家庭用オーディオ機器で再生すると明るすぎたり、うるさすぎたりします。これは映画サウンドトラックが、家庭用とは大きく異なるプロフェッショナル用の装置を使った大きな映画館での上映向けに作られているためです。リ・イコライゼイションは、サウンドトラックを小型のホームシアター環境で再生するための適切な音的バランスを回復することができます。

ティンバーマッチング（Timbre Maching™）：

人間の耳は、音の来る方向によって聴覚を変化させています。映画館では、サラウンドスピーカーが並んでいるため、サウンド情報が全方向からやってきます。しかしホームシアターでは、頭部の側面に位置する2つのスピーカーのみが使われます。ティンバーマッチング機能は、サラウンドスピーカーへの情報をフィルター処理することで、フロントスピーカーからのサウンドの持つ音的特性によりマッチさせることができます。これによって、フロントスピーカーからサラウンドスピーカーへのシームレスなサウンドの広がりが実現するのです。

アダプティブディコリレーション（Adaptive Decorrelation™）：

映画館では、多数のサラウンドスピーカーが創り出す、包み込むようなサラウンドサウンドが体験できますが、ホームシアターでは、スピーカーが通常2つしかありません。そのためサラウンドスピーカーからのサウンドは、空間的な広がりや包み込む感じを欠いたヘッドホンのように聞こえてしまうことがあります。また、中央の座席位置から離れると、サラウンドサウンドは近接したスピーカーに取り込まれてしまいます。アダプティブディコリレーションは、サラウンドチャンネルの時間と位相の関係を、もう1つのサラウンドチャンネルに対してわずかに変化させます。これによってリスニング位置が拡大し、2つのスピーカーだけを使って映画館と同じ広がりのあるサウンドを、体験することができるのです。

THXウルトラ2（THX Ultra2™）：

ホームシアター製品がTHXウルトラ2の認定を受けるには、上記の機能をすべて組み込み、さらに品質とパフォーマンスに関する厳しいテストに合格しなければなりません。そうして初めて製品に表示することが許されるTHXウルトラ2のロゴは、お買い求めいただいたホームシアター製品が今後長年にわたって優れたパフォーマンスを提供することの保証となるものです。THXウルトラ2の要件は、パワーアンプパフォーマンス、プリアンプパフォーマンス、操作性のほか、デジタル、アナログ両領域に関する何百ものパラメーターにおよび、製品のあらゆる性能、規格にわたります。
従来のTHXウルトラ規格に対してパワーアンプ部の向上を図るとともに、THXウルトラ2シネマモードとTHXミュージックモードとTHXゲームズモードの3つのサラウンドモードが新たに追加されました。

Ultra2 Cinema：

ウルトラ2シネマモードは8台のスピーカーを使用して通常の5.1ch映画ソースを再生する場合に最適なサラウンドモードです。
このモードでは、サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーをブレンドする新しいTHX処理でサラウンドの広がり感と定位感を同時に実現し最適なサラウンド音場を生み出します。
ウルトラ2シネマモードで再生中は、DTS-ES（マトリックスとディスクリート）やドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックに認識信号が含まれる場合には自動的に検出します。
ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされたサウンドトラックにはこの自動検出用の認識信号が含まれていないものが存在します。その場合には、再生するソフトがサラウンドEXエンコードされているかどうかをパッケージなどで確認してマニュアル操作でTHXサラウンドEXモードに切り替えます。サラウンドEXエンコードされていない場合はウルトラ2シネマモードで再生します。

THX Music Mode：

5.1ch音楽ソースを再生する場合にはTHXミュージックモードを選択します。
DTS、ドルビーデジタル、DVDオーディオなどで収録された5.1chの音楽ソースのサラウンドチャンネルに新しいTHX処理をおこなうことで音楽ソースに合った音場効果が得られます。

THX Games Mode：

5.1chゲームソースまたは2chゲームソースを再生する場合には、THXゲームズモードを選択します。
THXゲームズモードは最高のゲームサウンドの体験を提供します。
アナログ、PCM、ドルビーデジタル、DTSなどで収録された、2chや5.1chのゲームソースを再生する場合に最適な音場効果が得られます。ゲームオーディオでは、映画や音楽ソースとは異なった環境で視聴されます。ゲームオーディオの背景音的要素を失わないように、360度の自然なサラウンドの広がりを実現できる再生システムを提供します。

アドバンストスピーカーアレイ（Advanced Speaker Array™）：

ASA処理はサラウンドバックスピーカーを2台使用し、その2台を近接して設置した場合に最高の能力を発揮します。この技術はウルトラ2シネマ、THXミュージックモードとTHXゲームズモードで使用されます。

Boundary Gain Compensation：

THXウルトラ2対応のサブウーハーや超低域の再生能力のある（周波数特性が20Hz程度まで伸びている）サブウーハーを使用した場合に低域の周波数帯が持ち上がってしまいブーミーに感じられることがありますが、この技術により利得を補正して聴感レベルをフラットにします。

（6）THXサラウンドEXについて（THX SURROUND EX ™）

1999年、『スターウォーズエピソード1』の公開と共に、新しいサラウンドシステムがスタートしました。『ドルビーデジタル・サラウンドEX』は新方式の映画サウンドトラックで、サラウンドチャンネルの空間表現力、定位感を大幅に拡大します。これにより、360度の移動と頭上を通過するような移動音効果を生み出すことが可能です。
このシステムは、THXとドルビー研究所の共同作業によって生まれました。THX社の『空間表現力の向上、360度均一な定位感の実現』というテーマとドルビー研究所の持つマトリクスエンコード技術を融合し、既存システム（ドルビーデジタル5.1チャンネルシステム）との互換性を重視し、且つ『サラウンドバック（SB）チャンネル』の新設によって映画館のマルチサラウンドスピーカーシステムにおける後方定位、両サイドから後方へと回り込む音像、正面から真後ろへ移動する音像といった従来の5.1チャンネルシステムをさらに上回る、多彩なサウンドデザインを可能としました。
サラウンドバックチャンネルの信号は、ドルビーデジタル信号のSL（サラウンドL）、SR（サラウンドR）チャンネルの双方にマトリクスエンコードを施し挿入されます。この信号は、再生時ドルビーデジタルデコーダー内の高精度デジタルマトリクスデコーダーによってSL、SR、そしてSBチャンネルにデコードされ、6.1チャンネルの信号として出力されます。本機ではさらにこの信号に対してホームTHXシネマ処理を施し、THXサラウンドEXシステムとして再生されます。
もしSBチャンネル再生の環境がない場合でも、ドルビーデジタル・サラウンドEX信号は既存の5.1チャンネル再生システムと100%の互換性を有しており、そのまま再生が可能です。この場合、SBチャンネルの信号は、SL、SRチャンネルの双方からモノラル信号として再生されるため、信号成分の欠落はありません。ただし、空間表現力や定位感といったTHXサラウンドEX特有の効果は、従来の5.1チャンネルサラウンドシステム相当となります。

サラウンドについて（つづき）

（7）AACについて

MPEG2-AAC (Advanced Audio Coding) はMPEG (Moving Picture Experts Group) が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）など従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することができます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することができます。
その特長を生かしてポータブルオーディオなどへの応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせるよう配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

◎MPEG2-AACのスペック（概要）

- アルゴリズム：　MAINプロファイル
LC（Low Complexity）プロファイル
SSR（Scaleable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：　8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：　最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：　LFE（Low Frequency Effect）サポート
マルチリンガル(複数言語)サポート

この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1、2、3などがありますが、それらとAACの間に互換性はありません。本機はその中で先に述べたAACの再生に対応します。

■ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

（8）Audyssey MultEQ XTについて

性能の優れたスピーカーを導入しても、一般的なリスニングルームには、その音質を劣化させるような要因がいくつかあります。リスニングルームの音響特性による音質への影響を正しく補正することは、測定器や専用装置、ならびに熟練を必要とします。
音質を劣化させる要因のひとつは、スピーカーからのオーディオ出力と、部屋の壁、床、天井といった大きな平面との相互作用であり、例えば、スピーカーの近くの壁等の表面からの反射や、室内の大きな平行面の間に発生する定在波などがこれにあたります。
この程度は、聴取環境により様々です。特に、複数のリスナーが同時に視聴を楽しむ機会が多いホームシアター環境においては、個人個人のリスニングポイントにおいて生じる部屋の音響特性による音質への影響が異なり、250Hz以下の周波数域では、隣り合った2つの座席で10dBもの音量の違いを呈する場合もあります。このことは、従来のピンポイント的な補正では、リスナーすべてが均質なシアター体験ができないという問題を含んでいます。

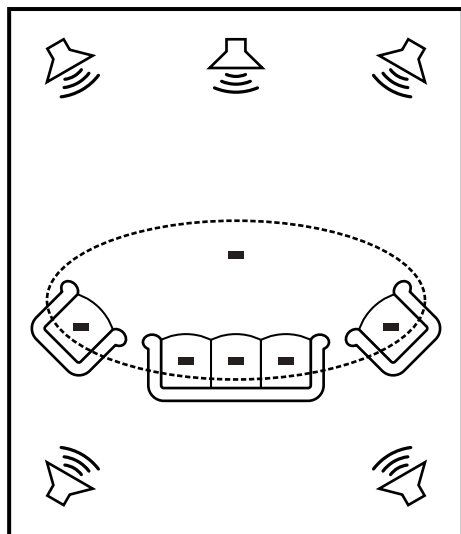
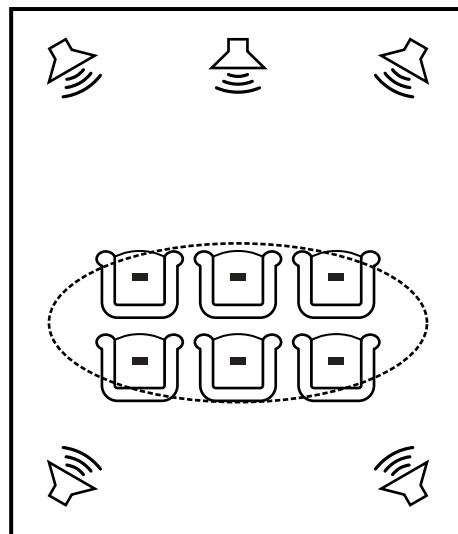
この問題に対する解決策は、各スピーカーが部屋の音響特性とどのように相互作用するのかを精密に測定した後、各スピーカーの周波数特性を補正してリスニングルーム全体の音響特性を改善することですが、その変動の程度は座席ごとによって大きく異なりますので、各スピーカーの再生音をリスニングポイントを包括する数ヵ所で正しく測定することが非常に重要となります。1ポイントだけの測定結果だけでは、リスニングルームの音響特性上の問題を正確に捉えることができず、結果として全体のパフォーマンスを損ねる場合もあるためです。ですからこの数ヵ所での測定は、リスナーが一人だけであっても、効果的です。

Audyssey MultEQ XTは、リスニングエリア内の複数のリスナーを対象に、最適なリスニング環境を提供することを目的とした技術であり、複数のリスニングポイントで収集されたテストデータを総合的に分析し、心理音響学に基づいて、リスニングエリア全体の音質を向上するイコライジング処理をおこないます。

Audyssey MultEQ XTは、広いリスニングエリアでの周波数特性上の問題を補正するだけでなく、サラウンドシステムのセットアップを完全に自動化します。まず、何台のスピーカーがアンプに接続されているか、またそれらが、フルレンジ、サテライトまたはサブウーハーかを判別します。サブウーハーが接続されていれば、Audyssey MultEQ XTは各サテライトとサブウーハーとの最適なクロスオーバー周波数を確定します。各スピーカーの極性も自動的にチェックし、他のスピーカーと位相が外れて配線されているものがあればユーザーに知らせます。また、以下に示すように着座位置の中心となるメインリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定し、各スピーカーからのサウンドが同時に到着するように遅延の調整をおこないます。最後に、Audyssey MultEQ XTは各スピーカーの再生レベルを算出し、すべてのレベルが等しくなるようにチャンネルレベルを調整します。

下の2つの図は、2通りの座席配列に対応する、測定時におけるセットアップマイク（付属）設置例を図示しています。それぞれのケースに6つの測定ポイントが示されています。測定ポイント点を増やせばリスニングエリアのサンプリングの精度が向上し、より良い結果が得られます。点線は、Audyssey MultEQ XTによってリスニングルームの音響特性が改善されるエリアをイメージします。セットアップマイク（付属）は、それぞれの測定ポイントで耳の高さと同じ高さになるよう設置してください。

【例 ①】

【例 ②】

サラウンドについて（つづき）

（9）ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。
元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中で鳴ってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシミュレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聴くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ/ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。
ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

（10）DENON LINK（DENON Digital Link）について

DENON LINKは、高速伝送素子を用いたバランス伝送タイプのデジタルリンクであり、専用端子を持ったDENONのDVDプレーヤーと１本の専用ケーブルで接続することで、信号劣化の少ない高速・高品位なデジタルオーディオ伝送を可能にし、高音質再生を実現するDENON独自のデジタルインターフェースです。DVD-Audioの192kHz/24bitの2chデジタル信号やPCMによるマルチチャンネル信号などのデジタル伝送を実現します。

（11）IEEE1394について

IEEE1394は、米国電子電気技術協会（IEEE）によって標準化された国際標準規格です。
本機とIEEE1394対応機器とをIEEE1394ケーブルで接続すると、DVD-AudioやSuper Audio CDなどのマルチチャンネル音声も１本のケーブルだけでデジタル伝送することができます。

- 本機の伝送フォーマットはＡ＆Ｍプロトコルに対応しています。
  IEEE1394の伝送フォーマットには、A&Mプロトコルの他に、MPEG-TSやDVといった種類があります。
- 本機のデータ転送速度はS400まで対応しています。
  IEEE1394の最大データ転送速度は約100/200/400Mbpsが定義されており、それぞれS100/S200/S400と表記されます。S100やS200の機器をつないだ場合や、機器の仕様により実際の転送速度が400Mbpsより遅くなる場合があります。できるだけ、最大データ転送速度が同じ機器どうしを並べて接続してください。
- 著作権保護システム（DTCP）に対応しています。

著作権保護システム

IEEE1394接続でDVD-Audio、Super Audio CD、DVD（コピー自由なディスクは除く）の音声を再生する場合には、プレーヤーとアンプの双方がDTCP（Digital Transmission Content Protection）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。
DTCPはデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。
お手持ちのプレーヤーの取扱説明書を合わせてご覧ください。

本機のIEEE1394インターフェースは、以下の規格に基づいて設計されています。
1）IEEE Std.1394a-2000,Standard for High Performance Serial Bus
2）Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0
この規格の中のAM824 sequence adaptation layersの中のIEC60958 bitstream、DVD-Audio、Super Audio CDに対応しています。

（12）HDCD®(High Definition Compatible Digital®)デコーダーについて

HDCDは従来のCDフォーマットとの互換性を保ちながら、デジタルレコーディング時に起こる歪みを大幅に低減するエンコーディング・デコーディング技術で、ダイナミックレンジの拡大とハイレゾリューションを実現できます。
通常のCDとHDCD対応CDとを自動的に判別して、それぞれに適応したデジタル処理を行っています。

HDCD

- HDCD®,HDCD®, High Definition Compatible Digital®およびMicrosoft®は、米国 内や他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。HDCDシステムはマイクロソフト社からのライセンスに基づき製造されています。この製品は下記の1つ以上の特許によって保護されています。米国内：5,479,168、5,638,074、5,640,161、5,808,574、5,838,274、5,854,600、5,864,311、5,872,531。オーストラリア国内：669114。その他の特許は出願中。

（13）HDMIについて

HDMIとは、High Definition Multimedia Interfaceの略です。
PC用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital　Visual　Interface）をベースに、民生機器用に機能を最適化した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格です。非圧縮のデジタル映像と、マルチチャンネルオーディオの転送が1つのコネクタでおこなえるため、映像と音声を別々のケーブルで接続する必要がなくコネクタの小型化が可能となりました。また、DVIと同様にデジタル画像信号の暗号化方式である著作権保護技術のHDCP（High-bandwith Digital Contents Protection）にも対応しています。

“ HDMI ”“ HDMI ” および “ High-Definition Multimedia Interface ” はHDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

（14）AL24 Processing Plus

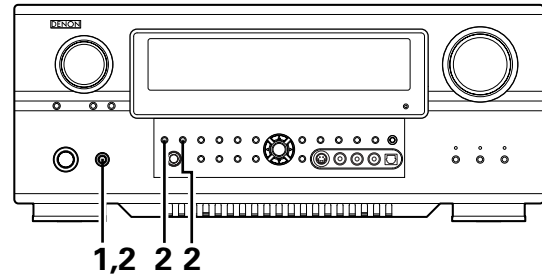
AL24 Processing Plusは、DVD規格の最高スペックであるDVD-Audioのサンプリング周波数192kHzにも対応する新開発のアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。
本機では、全チャンネルに採用してます。

13 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

14 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体またはリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1	**電源スイッチを“ OFF ”にする。**
2	**ピュアダイレクトボタンとダイレクト/ステレオボタンを同時に押しながら、電源スイッチを『ON』にする。**
3	**ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離す。** ● マイコンが初期化されます。

ご注意

● 操作***3***の状態にならない場合は、もう一度操作***1***からやり直してください。
● マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

15 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より2年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。詳しくは、保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

6 この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

7 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。

※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。

詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

16 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■**各接続は正しいですか**
■**取扱説明書に従って正しく操作していますか**
■**スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	31
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	●スピーカーケーブル接続が不完全である。 ●ファンクション切り替えつまみの位置が不適当である。 ●主音量調節つまみが絞ってある。 ●ミューティングがかかっている。 ●デジタル信号が入力されていない。	●しっかり接続してください。 ●正しい位置に切り替えてください。 ●適当な位置まで回してください。 ●ミューティングを解除してください。 ●デジタル信号の入力設定を正しく選択してください。	10、11 105、106 106 133 68
モニターが映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ●モニターTVの入力設定が違う。 ●PURE DIRECTモードになっている。	●接続が正しいか確認してください。 ●TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。 ●PURE DIRECT以外のモードにしてください。	12、13 15〜31 — 135
DTS音声が出ない。	●DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 ●DVDプレーヤーがDTS対応になっていない。 ●本機の入力設定がアナログになっている。	●DVDプレーヤーの初期設定をしてください。 ●DTS対応のプレーヤーを使用してください。 ●AUTOまたはDTSモードに設定してください。	— — 105、106
DVDからVCRにダビングできない。	●ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	●コピーはできません。	—
サブウーハーが鳴らない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●サブウーハー初期設定がNOになっている。 ●サブウーハーの出力が接続されていない。 ●サブウーハーのチャンネルボリウムの設定がOFFになっている。	●電源を入れてください。 ●設定をYESにしてください。 ●正しく接続してください。 ●サブウーハーのチャンネルボリウムを上げてください。	— 57 11、31 108
テストトーンが出ない。	●サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	●ドルビーサラウンドにしてください。	—
サラウンドスピーカーから音が出ない。	●サラウンドモードがステレオになっている。	●ステレオ以外のモードにしてください。	—
リモコンを操作しても正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。 ●リモコンの距離が離れ過ぎている。 ●本体とリモコンの間に障害物がある。 ●操作したいボタン以外のボタンを押している。 ●乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	●新しい乾電池と交換してください。 ●近づいて操作してください。 ●障害物を取り除いてください。 ●操作したいボタンを押してください。 ●乾電池を正しくセットしてください。	8 8 8 — 8

（次のページに続きます。）

故障かな？と思ったら（つづき）

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
“AAC＋Dolby EX”表示にならない。	● BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	● デジタル接続にしてください。	19
Ultra 2 Cinema/THX Music/THX Gamesモードにならない。	● サラウンドバックスピーカーを1台しか使用していない。	● サラウンドバックスピーカーを2台使用してください。	11、57、67
HDMI/DVI接続で映像が映らない。	● 本機のHDMIモニター出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ● HDMI/DVI-D信号が入力されていない。 ● 接続されたモニター機器等がHDCPに対応していない。 ● 接続されたプレーヤー等の対応出力フォーマット（HDMI/DVI-D FORMAT）とモニターの入力フォーマットが合っていない。	● HDMIの接続を確認してください。 ● HDMI/DVI-Dが接続されている入力ソースを正しく選択してください。 ● 本機はHDCP対応機器でないと映像信号を出力しません。 ● 接続されたプレーヤー等の対応出力フォーマット（HDMI/DVI-D FORMAT）とモニターの入力フォーマットが合っているか確認してください。	25、26 76、77 25、26 25、26
HDMIの音声が再生されない。	● 本機からHDMIの音声が再生されない。 ● 接続されたモニター機器からHDMIの音声が再生されない。	●「HDMI/DVI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を『AMP』に設定してください。 ●「HDMI/DVI入力の設定」でHDMIの音声再生の設定を『TV』に設定してください。	76、77 76、77
電源が切れ、電源表示LEDが赤色で点滅している。	● 機器内部の温度上昇により保護回路が働いている。 ● スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が本機のリアパネルに接触し、保護回路が働いている。 ● 本機が故障している。	● 本機を通風状態の良い場所に設置してください。 ● 一度電源を切って、十分温度が冷えてから電源を入れなおしてください。 ● 全てのスピーカーケーブルの接続を確認してください。 ● 電源を切り、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口に連絡してください。	10 10 11 10
センタースピーカーからしか音がでない。	● TVやAM放送などのモノラル音源をドルビー/DTSサラウンドモードまたはホームTHXシネマモードで再生している。	● モノラル音源を再生する場合には、ドルビー/DTSサラウンドモードやホームTHXシネマモード以外のサラウンドモードを選択してください。	123

17 主な仕様

■オーディオ部
●パワーアンプ部

定格出力	フロント： 140W＋140W（負荷8Ω、20Hz〜20kHz、T.H.D　0.05%） 195W＋195W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%） センター： 140W（負荷8Ω、20Hz〜20kHz、T.H.D　0.05%） 195W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%） サラウンド： 140W＋140W（負荷8Ω、20Hz〜20kHz、T.H.D　0.05%） 195W＋195W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%） サラウンドバック： 140W＋140W（負荷8Ω、20Hz〜20kHz、T.H.D　0.05%） 195W＋195W（負荷6Ω、1kHz、T.H.D　0.7%）
実用最大出力	245W＋245W（負荷6Ω、EIAJ）
ダイナミックパワー	180W×2チャンネル（負荷8Ω） 280W×2チャンネル（負荷4Ω）
出力端子	フロント/センター/サラウンドバック：6〜16Ω サラウンド：A or B　6〜16Ω A＋B　6〜16Ω

●プリアンプ部

入力感度/入力インピーダンス	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz〜100kHz：＋0、－3dB（ダイレクトモード時）
S/N比	102dB（ダイレクトモード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz〜20kHz）（ダイレクトモード時）
定格力	1.2V

●デジタル部

D/A出力	定格出力：2V（0dB再生時） 全高調波ひずみ率：0.005% S/N比：110dB ダイナミックレンジ：108dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

●フォノ・イコライザー部（PHONO入力　REC OUT）

入力感度	2.5mV
RIAA偏差	20Hz〜20kHz：±1dB
S/N比	74dB（JIS-A、5mV入力時）
ひずみ率	0.03%（1kHz、3V出力時）
定格出力/最大出力	150mV/8V

■ビデオ部
●標準映像端子

入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz〜10MHz　：＋0、－3dB

●S映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号　：1Vp-p/75Ω C　（色）信号　：0.286Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz〜10MHz　：＋0、－3dB

●色差（コンポーネント）映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号　：1Vp-p/75Ω PB/CB　信号　：0.7Vp-p/75Ω PR/CR　信号　：0.7Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz〜100MHz：＋0、－3dB

■総合

電源	AC100V　50/60Hz
消費電力	480W（電気用品安全法による） 1W以下（スタンバイ時）
最大外形寸法	434（幅）×178（高さ）×500（奥行き）mm （フット・つまみ・端子を含む）
質量	23.6kg

■リモコン（RC-995）

乾電池	R03（単4形）乾電池4本使用
外形寸法	72（幅）×238（高さ）×25.5（奥行き）mm
質量	225g（乾電池を含む）

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

総　目　次

(次のページに続きます。)

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー 14F

お客様相談センター　TEL：045-670-5555
【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】
受付時間　9：30～12：00、12：45～17：30
（弊社休日および祝日を除く、月～金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、
次の URL でもご確認できます。
http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購 入 店 名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in Japan　00D 511 4306 006A